

平成 24 年度
地域研究を通じての国際経済分析者養成プログラム
(JICA 連携プロジェクト)



一橋大学 ベトナム短期海外調査 報告書



一橋大学 経済学研究科



「地域研究を通じての国際経済分析者養成プログラム」

一橋大学経済学研究科では、平成21年度より文部科学省の支援のもと、「地域研究を通じての国際経済分析者養成プログラム」を実施しています。海外に関する「現場感覚」を備えた学部学生を育てることを目的として、経済学を中心とする社会科学の体系的なカリキュラムに加えて、JICAとの連携により、学部学生を対象とした途上国経済の実態や開発援助・国際協力の実情に関する授業などの拡充を図っています。

本プログラムでは、平成22年度より短期海外調査を実施し、日系企業・現地機関の訪問、現地の学生との討論会を行うことで、将来国際的な分野において研究者や専門職業人を志す意欲的な人材を育成することを目指しています。今回のベトナム短期海外調査はその3回目の調査に当たり、調査の費用の一部は、日本学術振興会「平成24年度組織的な若手研究者など海外派遣プログラム」から補助を受け、実施されました。

目次

ベトナム短期海外調査に寄せて

一橋大学経済学研究科長・経済学部長	蓼沼宏一	……p.5
一橋大学経済学研究科教授	奥田英信	……p.6
一橋大学経済学研究科特任准教授	小田島健	……p.7

第Ⅰ部 はじめに ……p.9

はじめに	……p.10
プログラム概要	……p.12
メンバー自己紹介	……p.14
—Column 「ベトナムグルメレポート」	……p.22
—Column 「空港&ホテルレポート」	……p.25

第Ⅱ部 準備日程を振り返って ……p.27

準備日程を振り返って	……p.28
—Column 「ハノイ市内レポート」	……p.30
—Column 「ベトナムカフェめぐり～ハノイ～」	……p.31
—Column 「ベトナムの乗り物」	……p.32

第Ⅲ部 現地調査記録 ……p.35

如水会ハノイ支部の皆さんとの食事会	……p.36
如水会ホーチミン支部の皆さんとの食事会	……p.38
ドンナム村訪問レポート	……p.40
財政大学学生交流レポート	……p.45
環境班	……p.46
一橋大学環境班発表資料 (PPT)	……p.50
格差班	……p.60
一橋大学格差班発表資料 (PPT)	……p.64
交流後の所感	……p.76

ABOUT THE ACADEMY OF FINANCE, VIETNAM	……p.79
財政大学環境班発表資料 (PPT)	……p.80
財政大学格差班発表資料 (PPT)	……p.84
企業・機関訪問レポート	……p.91
JICA ベトナム事務所	……p.92
JETRO ハノイ事務所	……p.100
世界銀行ベトナム事務所	……p.104
ヤマハ発動機	……p.108
タンロン工業団地	……p.112
ベトナム計画投資省	……p.116
ベトナム中央銀行	……p.120
ホーチミン市都市鉄道建設事業	……p.124
サイゴン東西ハイウェイ建設事業	……p.130
ホーチミン市下水管理能力開発プロジェクト (フェーズ2)	……p.134
—Column 「ハノイ観光レポート」	……p.138
—Column 「ベトナムカフェめぐり～ホーチミン～」	……p.139
—Column 「ホーチミン観光レポート」	……p.140
第IV部 調査プログラムを終えて	……p.143
個人レポート	……p.144
ベトナムの思ひ出	……p.164
—Column 「突撃レポート！ 高級 Bar 体験@ホーチミン」	……p.170
—Column 「ホーチミン市内レポート」	……p.172
—Column 「ベトナム土産の紹介」	……p.173
第V部 おわりに	……p.177
おわりに	……p.178
編集後記	……p.179

◎ベトナム短期海外調査に寄せて◎



ベトナム短期海外調査に寄せて

一橋大学経済学研究科長・経済学部長
蓼沼 宏一

一橋大学経済学研究科・経済学部は、文部科学省の支援のもとに、国際協力機構（JICA）と連携し、2009年度から4年計画で「地域研究を通じての国際経済分析者養成プログラム」を実施している。この報告書は、その一環として行われた学部学生によるベトナム短期海外調査の成果報告である。

本プログラムは、諸外国・地域の経済実態や国際協力の実情に関する授業、海外調査事前自主ゼミ、現地の大学の学生との共同ゼミや開発援助プロジェクトの調査等を内容とする海外調査を組み合わせた参加型の教育プログラムである。さらに、2004年度に開始された経済学部・大学院経済学研究科5年一貫教育システム（学部入学から5年間で修士学位の取得を可能にする教育システム）を構成する3つのプログラムの1つである「地域研究プログラム」にも接続している。

近年のリーマン・ショックやヨーロッパ各国の財政危機の波及効果に象徴されるように、現代の世界は、ヒト、モノ、カネ、情報の複雑なネットワークで結ばれており、ある場所で起こった経済現象は、世界の他の場所に多大な影響を及ぼす。一方で、世界の各地域は極めて多様であり、経済の実態をつかむためには、経済学の理論・分析手法を習得するだけでなく、実地調査を行うことが不可欠である。

「商法講習所」という名称で明治維新直後に誕生した本学の創設期の学生達は、欧米からの輸入学問としての社会科学だけではなく、「実学」をキーワードに、アジア諸地域の言語を含む外国語や海外経済の実態を学んだ上で、いち早く世界経済の荒波に乗り出していった人々である。本プログラムは、いわば、この「商法講習所」の原点に立ち返って、経済学の基礎を学んだ学生達に、世界経済の現場を知る機会を提供することにより、現場感覚を持つエコノミストを育てることを目指している。

2012年9月に実施したベトナム短期海外調査は、本プログラムが実施する3回目の海外調査であったが、多くの方々の暖かい協力に支えられて、成功裏に終了することができた。大学間交流の機会を与えていただいたハノイ財政大学の方々、多忙の折に貴重な時間を割いてくださった国際機関、ベトナム政府機関、ベトナム中央銀行、ドンラム村、開発援助事務所、および在外日系企業等の方々、調査実施前から様々な形でお世話いただいたJICA関係者の方々、後輩を歓迎し激励してくださった如水会ハノイ支部・ホーチミン支部の方々、そのほか本プログラムにご助力を賜った多くの方々に、経済学研究科・経済学部を代表して心より感謝申し上げる次第である。

今回の調査に参加した学生の中から、次代を担う若手研究者や国際協力に貢献する人材が1人でも多く育つことを期待している。

ベトナム短期海外調査に寄せて

経済学研究科教授
奥田 英信

ベトナム短期海外調査では、ハノイでの5日間、小田島先生および学生の皆さんと同行させていただきました。工業団地、郊外の農村開発サイト、日系企業、JICAと世銀事務所、中央銀行などを訪問し、様々な情報に触れて見聞を広め有意義な時間を過ごすことができました。また、ハノイ如水会ならびにホーチミン如水会の皆様には、歓迎会にご招待いただき、ありがとうございました。

今回の短期調査では、ハノイでベトナム財政大学の学部学生と国際交流の機会を持つこととなりましたが、副学長やホアイ先生はじめスタッフの皆さんに万事宜き届いた準備をしていただきました。お陰さまで、学生の皆さんにとって有意義な経験をすることができたと思います。ベトナム財政大学と本学は、「東アジア政策研究プロジェクト」を通じて研究協力を進めており、現地調査や研究集会の開催などで様々なご協力をいただいています。学生の皆さんも、これを機会にベトナムとの交流を更に発展させてくれるよう期待しています。

今回の海外調査への参加に際しては、佐藤宏先生、大月康弘先生、劉群先生、佐賀裕実先生をはじめとする「地域研究を通じての国際経済分析者養成プログラム」のメンバーの先生方および、同プログラムの犬飼裕子さん、また国際化推進室の鈴木あかね先生からご協力をいただきました。調査費用の一部は、日本学術振興会「平成24年度組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」からご支援をいただいております。この点については蓼沼経済学研究科長はじめ関係各位のご尽力の賜物で、深く感謝する次第です。また、申すまでもなく、訪問させていただいた現地日系企業、ベトナム政府、ベトナム財政大学、JICAと世銀の現地事務所、如水会と本学卒業生など多くの方からのご協力なしには、短期調査は到底実施できるものではなく、関係する皆様方のご厚意に改めてお礼を申し上げます。

ベトナム短期海外調査に寄せて

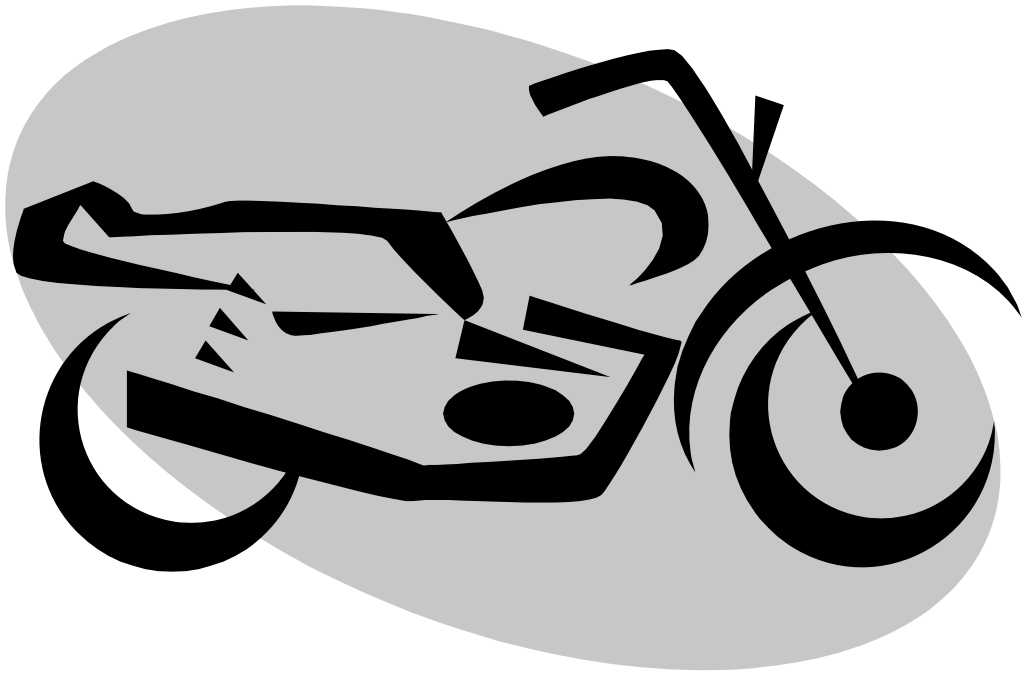
経済学研究科特任准教授
小田島 健

2011年4月に特任准教授として着任した際、2012年度の短期海外調査は「ベトナム」と聞き、是非とも何らかの形で協力したいと思っていました。実際、奥田先生、大学院生のニユンさんの3人で引率することができ、大変よかったと思っています。大学着任前の2年間、私はJICAのベトナム担当課長として足しげくベトナムに通っていましたが、その際自分が目の当たりにしてきたベトナムの社会経済発展、エネルギー・若さ溢れる国、街、人々、是非ともその魅力を学生にも感じてもらいたいと思っていました。暖かく迎えられた現地調査を通じて、講義では伝えきれないベトナムの「躍動」を参加した学生ひとり一人掴み取ったものと確信しています。

今回の短期海外調査の機会を与えてくださり、また実施にあたって様々な助言・支援を下さった蓼沼宏一先生、佐藤宏先生、大月康弘先生、奥田英信先生、劉群先生、佐賀裕実先生、危機管理オリエンテーションをしてくださった鈴木あかね先生にお礼申し上げます。学生募集手続き、旅行エージェント選定、危機管理段取りなどインドネシア、中国で培った経験を全力で今回の調査に注いで下さった犬飼裕子さんには心から感謝申し上げます。予算面においては、日本学術振興会「平成24年度組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」から御支援をいただき、志の高い学生の応募・参加を促すことができたと思います。現地調査では、ヤマハ発動機、タンロン工業団地管理会社（住友商事）、ベトナム計画投資省、ベトナム中央銀行、国家財政大学、JETROハノイ事務所、JICAベトナム事務所／ドンラム村派遣海外青年協力隊員、ホーチミン都市鉄道／東西ハイウェイ／ビンフン下水処理場、世界銀行ベトナム事務所、如水会（ハノイ、ホーチミン）など多くの方々に大変お世話になりました。このように各方面の方々からいただいた温かい御支援に改めて御礼申し上げます。

最後に今回参加した学生に伝えたいことがあります。数か月にわたる事前準備から現地調査までを通じて、自ら考えそれを実地で確かめることを実践できたと思います。大きく速く変化してゆく世界では自ら考え、確かめ、そして上手に相手に伝えてゆくことが大事です。今回の短期海外調査の中で皆さんが遺憾なく示してくれたこの力をこれからも発揮してほしいと思います。

I 部



はじめに

- はじめに
- プログラム概要
- メンバー自己紹介

はじめに

ゼミ幹事 屋野巧磨

本報告書は、海外に興味を抱く 10 名の学生それぞれが感じたベトナムの姿をまとめたものです。学生が現地を訪れることで何を学び、日本とベトナムの未来をどう考えたのか。私たちの成長の過程を読み取っていただけたら幸いです。また、同世代の学生に向けて海外を訪れ学ぶことの魅力が少しでも伝われば嬉しい限りです。

本プログラムはたくさんの方のご支援とご協力のおかげで、私たちにとって意義深いものになりました。奥田先生、小田島先生、佐賀先生をはじめご指導下さった一橋大学の先生方、お忙しい中私たちを快く受け入れ真摯にご説明下さった現地日系法人、世界銀行ハノイ事務所、ベトナム中央銀行、ベトナム計画投資省の方々、後輩を温かく向かえていただいた如水会ハノイ支部・ホーチミン支部の先輩方、農村視察を協力いただいた青年海外協力隊のお二人、熱烈に歓迎して下さったハノイ財政大学の学生と先生方、事務サポートをしていただいた犬飼さん、現地で通訳をして下さったニュンさん、日程変更に対応していただいた JTB の担当者の方、プログラム実施のために携わって下さったすべての方々に心より感謝申し上げます。

ベトナムのマップ

ベトナムの風情あふれる
1000年の都
ハノイ(HA NOI)



食&買の最旬が集まる
商業都市
ホーチミン
(HO CHI MINH)

プログラム概要

概要

一橋大学経済学部では、経済学を中心とする社会科学の体系的なカリキュラムに加えて、学部学生を対象に途上国経済の実態や開発援助・国際協力の実情に関する授業等の拡充を目指している。本調査は平成 21 年度より実施されている「地域研究を通じての国際経済分析者養成プログラム」の一環であり、JICA との連携のもとに海外に関する「現場感覚」を備えた学部学生を育成することを目的とし、新しい知識や機会を提供するオープンな参加型教育プログラムである。

平成 22 年度のインドネシア、平成 23 年度の中国に続き、平成 24 年度の調査対象国はベトナムである。ベトナムは東アジア第 3 位の人口約 8700 万人(2011 年時点)を有し、計画経済から市場経済への移行を進めている。工業団地への実地調査(日系企業へのヒアリング)、開発援助プログラムの現場視察、村落視察、ベトナム政府機関及び国際機関の現地事務所への訪問、ハノイ財政大学の学生との討論会を通じて、ベトナム経済の変化や、海外直接投資、政府開発援助・国際協力への取組と今後の展望を調査することを目的に実施された。(募集対象:一橋大学に属する全学部生、募集人員:10 名)

選考プロセス

書類選考(5 月 7 日締切)

面接試験(5 月 3 週)

書類選考の内容をもとに、具体的な志望動機や本調査で達成したいことや将来の進路について、約 45 分の面接が行われた。また現地でコミュニケーションに必要な英語力を測るための、英語での質問も行われた。

準備ゼミ(5 月 29 日～9 月 7 日)

各企業・機関の訪問とハノイ財政大学との討論会に備え、週 1 回ゼミ形式での勉強会を実施した。

企業・機関訪問のために、それぞれが行うベトナムでの事業及び活動について学ぶとともに、自分たちの興味・問題意識や論点となっている事柄について質問事項の作成を行った。ハノイ財政大学とのディスカッションのためには、ベトナムで注目されている話題の中から 2 つのテーマを選んでその内容について調査し、約 30 分間のプレゼンテーションを作成した。

また一橋大学佐賀裕実先生から英語でのプレゼンの仕方についてご指導をいただいた。

報告書作成(帰国後～)

帰国後、本調査の報告書を作成した。多方面から私たちの研修を支援して下さった方々への感謝の意を示しつつ、私たちがベトナムで学んだことや体験したことを記している。この報告書作成にあたっては、本調査に参加した私たち自身が学んだことを掘り下げて今後の勉強の指針にしていくこと、本調査に参加しなかった方々も本調査の意義やベトナムの現状について理解がしやすい内容になるように意識した。

なお研修期間中、大変お世話になった蓼沼宏一先生(経済学研究科長)、奥田英信先生(経済学研究科教授)、小田島健先生(経済学研究科教育プロジェクト特任准教授)から寄稿文をいただいたので、あわせて掲載してある。

調査日程表(9月9日～9月16日)

(以下訪問先企業・機関の敬称略)

	年月日	都市名	時間	内容
1	9/9(日)	成田 発 ハノイ 着	8:15 10:30 14:15	成田国際空港集合 空路、ハノイへ ハノイ・ノイバイ国際空港到着、ホテルへ
2	9/10(月)	ハノイ	午前 午後 夜	JICAベトナム事務所訪問 ジェトロ・ハノイ事務所訪問 世界銀行ハノイ事務所訪問 夕食・如水会ハノイ支部との懇親会
3	9/11(火)	ハノイ	午前 午後	タンロン工業団地・ヤマハ発動機訪問 タンロン工業団地・住友商事訪問 ベトナム計画投資省による講義(JICA事務所にて) ベトナム中央銀行訪問
4	9/12(水)	ドンラム	終日	ドンラム村訪問 村落開発視察および交流プログラム
5	9/13(木)	ハノイ ホーチミン	午前 昼 午後	ハノイ財政大学との討論会 ハノイ財政大学との懇親会 国内線にて、空路、ホーチミンへ ホーチミン空港到着、ホテルへ
6	9/14(金)	ホーチミン	午前 午後 夜	ホーチミン市都市鉄道運営組織設立支援プロジェクト視察・日本工営訪問 東西ハイウェイ視察・オリコン訪問 ビンフン下水処理場訪問 夕食・如水会ホーチミン支部との懇親会
7	9/15(土)	ホーチミン	終日	ホーチミン市内視察 (中央郵便局、統一会堂、戦争博物館、ペンタイン市場等)
8	9/16(日)	ホーチミン 発 成田 着	0:20 8:15	ホーチミン空港到着、搭乗手続き 成田国際空港到着

◎メンバー自己紹介◎



名前

学部・学年／役職

①プログラムに参加した理由

②ベトナムの印象

石塚卓

経済学部 3年/カメラ係

①日本企業の直接投資先として注目され、日本の最大の ODA 供与国となるなど、日本経済に対するベトナムのプレゼンスが高まっているのを感じていた。ベトナムでお仕事をされている一橋大学の先輩にお話を伺う機会があり、ベトナムの魅力を感じ、今後の経済発展の仕方に関心を抱いた。私はゼミで国際経済を学んでいるが、通常の学習では得られない体験をしたいとも考えていた。アジアの経済発展を体で感じとることで自らの学習を深化させたい、そして今学んでいることを生かして海外で働きたいという自分の将来につながる経験をしたいという思いでプログラムに参加した。

②研修前は共産党の一党独裁体制など未知数な部分も多く、ベールに包まれている国だとも感じていた。研修を経てわずか 40 年前は戦争状態にあったことを再認識させられたが、次の時代に向けて急速に経済が発展し、多くの可能性に満ち溢れていると感じた。



岩田 典久

法学部 3年/副幹事

①国際協力の分野に興味を持っており、日本の ODA の供与先として重要視されているベトナムにおいて、日本の協力がどのような形で行われ、どのようにベトナムの人々の役に立っているのかを実際に見てみたいと思った。また、社会主義という政治体制が国民の生活にどのような影響を及ぼしているのかという点にも興味を持った。ベトナムの食べ物にとっても興味があったというのはここだけの話。

②海外に行くのが初めてだったこともあり、他国と比べることは出来ないが、何よりもまずバイクの量がすごく、道を渡るのが大変だった。そして情報としては知っていたが、実際に若い人ばかり目にし、非常に活気があるように思えた。財政大学の学生がとてもテンションが高くてフレンドリーなのが印象的だった。



大橋克樹

社会学部 2年/旅程管理係

①バックパック旅行をきっかけに、東南アジアについて勉強したいという曖昧な願望を持ったのはいいものの、それを具現化する手掛かりは全くありませんでした。このプログラムに参加することで、巷で叫ばれている「東南アジアの急激な経済成長」の現状を少しでも学問的な視点から捉えたいと考えました。また、普段馴染むことのない経済学的なモノのみかたに触れてみることも目的の一つとしました。

②非常にエネルギッシュである一方で、ベトナム戦争以前と以後の歴史がすっかり断絶されてしまっている印象を、実際の会話などからも受けました。また外資企業や国際機関が入居している高層ビルの横に不法占拠のプレハブ小屋が建っているなど、不均等な経済成長が生じているように思えてなりませんでした。



レック・エミリ

経済学部 4年/格差班プレゼンリーダー

①昨年に小田島先生の **Selected Topics in Economics: Development Policy in Asian Perspective** という授業を受けて、今まであまり考えたことがない開発経済学に関して大きな興味を持つようになりました。しかし、授業ではやはり理論上のものしか勉強できないので、ケーススタディーとしてある国の開発状況を自分の目で見た方が勉強になるなあと考えて、この現地調査に応募しました。

②私は同じ東南アジアの国のシンガポール出身なのに、食べ物がおいしいことや女性が細くてきれいということ以外、ベトナムのことをあまり知らなかったです。一週間ベトナムに滞在して思ったのは、人々はとても元気で熱情的でありどこに行っても活気にあふれている光景がきっと目に入るということです。忙しいスケジュールで最後の2、3日に少し疲れを感じてきた私は、ベトナムと現地の人に元気づけられました。これから、またこのような生き生きとしたベトナムへ行って、元気づけてもらいたいなあと思います！



片岡綾乃

社会学部 3年/旅程管理係

- ①東南アジア開発のゼミに所属していることもあり、ぜひ現地に行って経済状況や社会状況を見てきたいと思いました。また、社会主義の国でありながら、経済成長を遂げているといわれるベトナムという国に興味がありました。開発に携わる方や日系企業の進出に直接かかわっている方たちと直接お会いできるという期待もありました。
- ②行く前は、様々な問題を抱えながらも景気がよくこれから成長していく新興国だという印象がありました。行ってみた印象は、とにかく人の数・バイクの数が多く、路上の人が皆若い、ということでした。ただ、都市化は思ったよりも進んでおらず、発展の余地が大きく残されているのを感じました。



仲建紀

経済学部 2年/カメラ係

- ①ベトナム短期海外調査に応募した理由は途上国という位置づけであるベトナムに行くことで、途上国に関する知識と現状の差を理解すること、また日本とはまったく異なる環境を知ることによって自分の世界を広げることになりました。
- ②印象といたしましては想像していたよりも発展していました。ただインフラ整備がまだ不十分であるという印象を受けました。今後自動2輪から自動車に移動の中心が移行していくなかでどのように変化していくかが興味深いです。



中川瑛

経済学部 3 年/学生連絡係/編集委員長

①日本の途上国に対する経済支援に興味があり、実際に現地状況を見る機会が得られるということで応募しました。また、私たちが生まれたときには、既に日本はインフラ等が整った最も豊かな国の一つとなっていたので、発展途中のベトナムを見ることで、かつて日本が歩んできた道を少しでも垣間見ることができればという期待もありました。学生連絡係では、ニユンさんを通して財政大学の学生と交流会の打ち合わせをしました。編集委員長としては、この報告書のまとめをしています。



②人もバイクも店も密集しているという印象が強かったです。バイクの運転の仕方（信号はあってないようなものでした・・・）には驚きました。経済成長で勢いがある一方、課題もたくさんあるようです。財政大学の学生はみんな気さくな人ばかりでした。

堀部智靖

経済学部 3 年/企業連絡係

①2年の時に小田島先生のゼミに参加し、1年間開発経済を勉強していたので、実際に現地に行き、いろいろな人の話を聞くことでより深く開発経済のことを学べると思い、このプロジェクトに参加しました。

②ベトナムに行く前は、オートバイがたくさん走っていて、蒸し暑く、食事もうせがありあまりおいしそうではない、というあまりよくないイメージでした。でも実際に行ってみると、オートバイはたくさん走っていて蒸し暑かったですが、食事はとてもおいしく、現地の人もとても優しくかったです。特にホーチミンには高層ビルが当たり前のようにいっぱい建っていて、僕の東南アジアのイメージとはかけ離れていました。



屋野巧磨

経済学部 4 年/幹事

①途上国で働く日本人の方やベトナム政府で働く人と直接会えることに魅力を感じたからです。自分の将来を考える機会になることを期待していました。以前ベトナムを訪れたときの印象と、今回の研修で感じた印象に差異があれば面白いと思っていました。

②まずご飯が美味しかったです。それとバイクの排気ガスがひどかったです。ハノイ財政大学の学生さんたちは人懐っこくて柔和で、すぐに打ち解けられました。

また独立記念日（9月2日）のポスターが街の至る所に貼ってあったのも印象的でした。



山本彩加

経済学部 2 年/環境班プレゼンリーダー

①2 年になり新たに何かに挑戦してみたいと思ったときにたまたま開発経済学の授業で小田島先生からベトナム研修の話聞き、興味を持ったのがきっかけです。あと、経済学部ということもあり発展途上国の現状を実際に自分の目でみてみたいとも思いました。このゼミでの私の役職はプレゼンリーダーとなっていますが、実を言えばリーダーの役割を果たせていたのかわかりません。しかし環境班のなかでプレゼンの役割分担を決め、各自進めていきました。

②空港を出て思ったことは「蒸し暑い」の一言でした。また、ハノイは全体的に町が雑然としていて今まで見たことのない新鮮な光景でした。ですが、ベトナム料理には感動しました!フランスにも中国にも侵略されているベトナムは食の文化も受け継いだようで、味つけもちょうどよく、研修で食事が一番の楽しみでした。



奥田英信先生(みんなから一言)

- ・ご自身の学術的興味に正直に生きる姿を尊敬しています。(屋野)
- ・自信をもって中央銀行の方と議論する姿は忘れません!(堀部)
- ・食事の時、質問した後につぶやく一言には心の中で笑わせていただきました。(仲)
- ・奥田先生からはなにやら只者ではない空気を常々感じております。(岩田)
- ・開発金融の権威らしくベトナムの中央銀行の方に質問の嵐を浴びせていました。(石塚)
- ・写真撮影でベトナム人の女の子に囲まれたときの奥田先生の笑顔はベトナム研修で一番の笑顔でした!(山本)
- ・先生の何気ない一言が面白かったです。特に中央銀行と財政大学の時の奥田先生は忘れられません。お世話になりました。(中川)
- ・先生がベトナムの方とコミュニケーションをとっている時、そこはかたない格好よさを感じました。(大橋)
- ・奥田先生はびっくりするぐらい英語がペラペラで、もっと先生が英語をしゃべっているのを聞きたかったです。(エミリー)
- ・奥田先生は、ベトナム中央銀行の訪問と食事のときに一番真剣そうな表情をしていらっしゃいました。ニユンさんといいいコンビを成していたと思います。ありがとうございました。(片岡)



小田島健先生(みんなから一言)

- ・ピザ焼きとウェイトトレーニングが好きな頼れる先生。開発経済の授業中ニコニコしながら質問をしてくるのは確信犯ではないでしょうか?小田島先生のようなお父さんになりたい。(石塚)
- ・尊敬されながら単純に学生に好かれる先生で、私たちに何でも話して下さって本当にありがたく思います。(エミリー)
- ・小田島先生の笑顔とたまに出てくる毒舌とのギャップがとても良かったです。ベトナム研修は小田島先生なしでは語れない、それくらい先生には感謝しています。(山本)
- ・笑顔が素敵で優しく、時には冗談をおっしゃる一面も。ベトナムの社会情勢から観光の仕方まで、たくさんのことを教えてくださいました。小田島先生、ありがとうございました!(中川)
- ・いつも笑顔でとても優しい先生です。企業訪問の時に、英語で仕切る姿がかっこよかったです。(堀部)
- ・メンバー全員を包む包容力と大人の余裕を持った方。ベンタイン市場ではいつもの笑顔で大胆な値切り交渉をふっかけていました。(岩田)
- ・食事の時に話して下さる様々な国でのエピソードが面白かったです。一方、準備ゼミの場でも考え方が変わるようなアドバイスをたくさんいただきました。(大橋)
- ・いつも笑顔でユーモアもある方です。マンツーマンの基礎ゼミでも真面目な話し以外にもいろいろ面白いことを教えてくださいました。(仲)
- ・本当にお世話になりました。学生だけでは上手くいかないところを、的確なアドバイスで助けてもらいました。先生の駐在先でのエピソードをもっと聞きたかったです。(屋野)
- ・にこにこ微笑みながらも、たまにズバッとものを言う、とても面白い先生です。今回の研修では、何から何までお世話になりました。(片岡)



ニュンさん(みんなから一言)

- ・ニュンさんはとても優しくて仲良くしやすい方で、一緒にいたのは4日間だけで寂しかったです。(エミリー)
- ・みんなのお姉さんのような存在で、様々な点でお世話してくださった。(石塚)
- ・財政大学との交流会では事前準備の時から、学生連絡の仲介等たくさんサポートをしてくださいました。(中川)
- ・可愛らしさと力強さを併せ持ったベトナム美人。ベトナムではバイクを乗り回していたとか。(岩田)
- ・英語が通じなくて困っている時に、さりげなく助け舟を出していただきました。(大橋)
- ・現地で頭に浮かんだ素朴な疑問に的確に答えてもらいました。ただ、ニュンさんに勧められたお土産のお菓子は……。独特な味がしました。(屋野)
- ・ハノイでの最終日にお会いしたとき、赤く髪を染めていたおしゃれな方です。中央銀行訪問ではニュンさんが一番活躍していました。(片岡)
- ・ニュンさんなしでは今回の研修は成立しなかったと思います。ハノイではガイドさんにいじられて大変そうでした。(山本)
- ・とても優しくハノイのことを教えてくれました。中央銀行での通訳はとてもわかりやすかったです。(堀部)
- ・ニュンさんのおかげで今回の研修は成り立ったと思います。現地でも困っているときにいろいろフォローしていただきました。(仲)



おまけ★ガイドさん紹介★

ティエンさん@ハノイ

日本に長年住んでいたこともあり、もちろん日本語はぺらぺらです。日本の文化にまで精通している、実は努力家のティエンさん!!会ったときからギャグを連発していて、いつも私たちを癒してくれました。ティエンさんを一言で表すならば「天真爛漫」でしょうか。いつも幸せなオーラを放ち、女性陣から大人気でした!!最後は、空港でまた会えることを約束して空港でお別れしました。今度ハノイに観光したときはまたガイドさんをお願いします!



シャンさん@ホーチミン

実はシャンとは「山」という意味らしいです。日本人に近い顔立ちをしていて、とってもダンディーです。最後のホーチミン観光の日は私たちのわがままを嫌な顔をせず、すんなりと受け入れてくださり、いろんなところに連れて行ってくれました!またあらゆる観光地を熟知しており、知識の量がすごいな、と感激しました。短い間でしたが、一生懸命ガイドを務めてくださり、いまは感謝の気持ちでいっぱいです。



Column ベトナムグルメレポート①～ベトナム料理～

旅行の楽しみの一つは現地の食を楽しむことである。しかし一方、口に合わないんじゃないか、お腹を壊すんじゃないだろうか、といった不安もあった。そんな期待と不安を抱え、ベトナムに入学。かの国は私の予想を大きく超えてきた。——**美味しい！ 安い！**

美味しいもの好きな方にはこの二つの形容詞で十分であろう。ベトナムの食には“**美味しい！**”と“**安い！**”が盛りだくさんであった。そこで、ここでは私が味わったベトナムの食の一部を紹介しようと思う。ちなみにこの一週間の旅行を通し、3kgほどの増量に成功してしまった。

○フォー

ベトナムを代表する料理で、米で出来た麺である。多くの場所で食べることができ、味も様々である。ホテルの朝食バイキングでは、注文すると作りたてのフォーが食べられた。シナモンの香りが強く利いたものがとても美味しかった。筆舌しがたいほどに。



○生春巻き

日本でもいわずと知れた春巻き。ライスペーパーと具材がサーブされ、自ら作るという楽しい演出もあった。揚げ春巻きもおいしい。ちなみにベトナムでは、揚げ春巻きの具の味付けに日本の“味の素”を使う家庭も多いらしい。ドンラム村で自作した揚げ春巻きの味は格別であった。

○バインミー

日本ではあまり聞きなれない料理だが、ベトナムでは一般的なファストフードである。フランスパンに色々な具材をはさんだもので、いわばベトナムサンドイッチ。そこら中の道端で売っている。美味しい。たまに辛い。



Column ベトナムグルメレポート②～果物、スイーツ～

○果物

東南アジアの一国だけあり、果物が豊富で美味しい。ホテルの朝食バイキングではメロン(のようなもの)、スイカ、パパイヤ、バナナ、ドラゴンフルーツなどを食べることが出来た。どれもほどよい甘さで美味しい。中でも日本ではあまり食べることのないドラゴンフルーツは、はじめは特別美味しいとも思わなかったが、食べているうちにくせになる。優しいお味。



○チェー

ベトナムの伝統的な甘味であり、豆類や穀物、果物などを砂糖と一緒に煮たもの。らしいが、私が食べたチェーは2つとも様々な形と色の寒天と小豆のようなものが入っていた。要は具材と氷がたっぷり入った器にココナッツミルクをかけたものといった感じ。甘い。毎日これ食べて生きられたら幸せ。



○プリン

ベトナム料理のコースのデザートから、ファストフード店(フォー)のサイドメニューにまでプリンがある。ベトナムではプリンが非常に一般的なデザートらしい。味は日本の家庭で作るようなプリンをかなり甘くした感じである。甘党にとっては神々しいほど。

Column ベトナムグルメレポート③〜ドリンク〜

○ベトナムコーヒー

ベトナムの飲み物といえばベトナムコーヒー。健康に悪いんじゃないかと思うほどに濃い。コンデンスミルクをたっぷり入れて飲む。というかミルクコーヒーを頼むと最初から底にミルクがたまっている（写真参照）。甘党にはたまらない。もちろんブラックでも美味しい。



○シントー

いわゆるスムージーである。ストロベリーやバナナからアボカドやタロイモのシントーまである。ベトナムで最初に入ったカフェのアボカドスムージーが美味しすぎて、ベトナムが大好きになった。本当に美味しい。なお、地元の店で氷を使ったものは、飲食するとお腹を壊すことがあるので気をつけたほうがいいらしい。

○フルーツジュース

果物が豊富なだけあり、レストランには多くのフルーツジュースがある。私はココナッツジュースをよく飲んだが、大抵の場合、ココナッツの実がそのまま器となっているのでインパクト大である。美味しいが、複数頼むと邪魔。



○アルコール類

筆者はあまり飲まないのですが詳しく見ていなかったが、ベトナムには“ハノイビール”や“333”など数種類のビールがある模様。日本のものより飲みやすかった。またワインも美味しいものが安く飲めるそうである。

Column 空港&ホテルレポート

◆ 空港

○ノイバイ空港 —ハノイ—

日本から飛行機でまずはここに到着した。空港から出てベトナムの「蒸し暑さ」の洗礼を受ける。円借款で新たに第二旅客ターミナルビルの建設計画が予定されている。空港の周りには日系企業の看板が多く立ち並んでいた。ホーチミンへの移動もこの空港を利用した。



◆ ホテル

○タンソンニャット空港 —ホーチミン—

名前の由来は新山—(タンソンニャット)村。新国際空港ターミナルは日本のODAで建設された。ハノイからの移動と日本への帰国時に利用した。帰りの便を待つこと3時間。その間、トランプをしている人、ドンを使い切るべく買い物をする人、サッカーの試合を見る人、ひたすら食べる人……。日付が変わったところでようやく日本へ出発。

○GALAXY HOTEL (ギャラクシーホテル) —ハノイ—
部屋は割と広め。朝食では注文すればフォーなども食べられる。周辺にはベトナムらしい街並みが広がる。ホテルの前の道は夜でもたくさんのバイクが走っていて、クラクションの音が鳴り響いていた。ハノイ財政大学との討論会のため、環境班・格差班ともに部屋で練習していた。

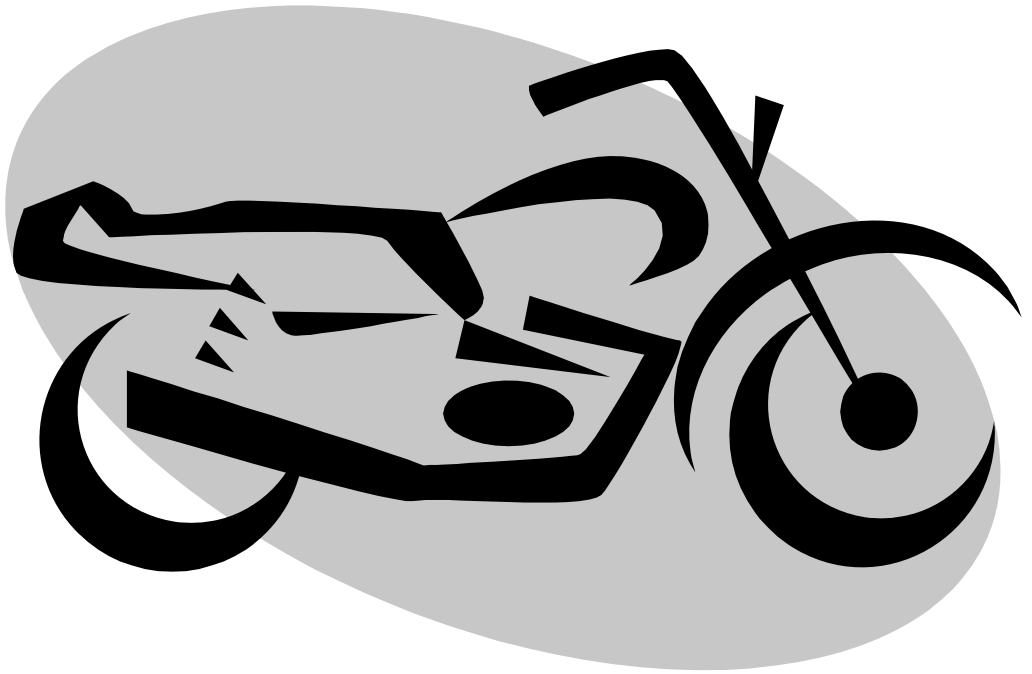


○BONG SEN ANNEX (ボンセンアネックス)

—ホーチミン—

ギャラクシーホテルと比べると狭い。私たちは7階前後の部屋だったため、眺めを楽しむことができた(雨が多かったが)。討論会も無事終わり、自由時間をたっぷり使えると思いきや、皆お疲れであり散策に出かけることはなかった。ハノイのようなバイクの集団には遭遇しなかった。2泊ともモーニングコールをすっぽかされ、クリーニングサービス料を(もちろん高めに)間違えられそうになった。

II 部



準備日程を振り返って

準備日程を振り返って

本調査の事前準備として私たちは5月末から週1回集まり、ゼミ形式で勉強会を開いて主に以下の2つのことに取り組んだ。

訪問する機関に関する学習・質問事項の作成

今回の短期調査ではベトナムで事業を行う日系企業、JETRO や JICA といった日本の政府機関、ベトナム政府機関および国際機関の現地事務所、ベトナムの村落など、極めて多くの機関に訪問させていただくことができた。ベトナムの現状を多面的な視点から理解することができる絶好の機会であった。現地での視察および訪問を有意義なものにするために、事前に各企業・機関が何を実施しているのかについて各自調査し、ゼミの場で発表・議論し合うことで理解を深め、訪問時に何う質問事項を作成した。

具体的には以下のように作業を進めた。各個人が訪問する機関および実施している事業・政策について学習し、ゼミの場で発表し、小田島先生のアドバイスをいただきながら理解を深めた。その際各自が自らの問題意識に基づいて各訪問先についての疑問点や質問事項を用意し、全員で現地にて何う内容を精査し、訪問先に質問事項を送付した。

ハノイ財政大学との討論会に向けて

ベトナムの経済・社会問題について、ハノイ財政大学と討論会を行い、理解を深めることが本調査で行う目的の一つであった。私たちと同年代の現地の大学生がベトナムの現状をどう受け止め、どのような展望を抱いているのかを知り、議論を交わすことができるまたとない機会である。したがって議論するテーマについて学びプレゼンテーションを作成した上で、ディスカッションの準備を行った。

まずは私たち自身の興味・関心によりそれぞれが討論したいテーマを持ちより、共有することから作業を開始した。ベトナムの経済・社会問題として私たちに関心のあった内容は以下のようなものであった。

- ベトナムにおける海外直接投資と今後の展望
- 対中関係を含めた対外政策
- 日本・ベトナム両国の教育事情
- ベトナムの所得格差
- ベトナムにおける環境問題

この5つのテーマの内容についてあらかじめ大まかな構成を作成した上で、ハノイ財政大学とどのテーマについて討論会を行うか協議した。その結果選ばれたテーマが所得格差と環境問題であった。私たちは2つのグループに分かれた後、本格的に調査・プレゼンテーションの作成に取り組んだ。作成の際意識したことは、各テーマに関するベトナムの現状を正確に把握し、日本の事例を参照・比較しつつ、今後の指針についても私たちなりの考えを明らかにすることであった。プレゼンテーションの作成にあたってはまず日本語版を作成して発表する内容を深化させた後、英語版の作成に取り組んだ。

準備日程一覧

日程	ゼミテーマ
5月29日	オリエンテーション
6月5日	訪問する機関に関する学習、各自考案したプレゼンテーションのテーマの発表
6月12日	訪問する機関に関する学習、小田島先生によるODA事業の講義
6月19日	訪問する機関に関する学習、各テーマの精査
6月26日	訪問する機関への質問事項の完成
7月3日	プレゼンテーションのテーマ決定・グループ決め
7月10日	プレゼンテーションの準備
7月17日	プレゼンテーションの準備
7月24日	日本語プレゼンテーション
8月7日	プレゼンテーションの準備
8月20日	訪問先の質問の最終確認、プレゼンテーションの準備
8月23日	佐賀先生・プレゼンテーション指導
9月7日	最終確認
9月9日	出発

Column ハノイ市内レポート

私たちが、日本を飛び立ってまず到着したのが、ベトナムの首都ハノイだ。空港から市内に向かうバスの中で、私たちがまず驚いたのは、路上を走る圧倒的な多さのバイクだ。私たちは最初に滞在したハノイでベトナムの洗礼を受けたといえるだろう。ここでは、ハノイで心に残ったことを述べたい。

○交通ルール(のなさ)

ハノイ市内を歩く日本人がまず感じるのは、「道を渡れない」ということだろう。横断歩道はあるのだが信号が機能していない、あるいは横断歩道がそもそもない、という道も珍しくない。私たちが宿泊したのは旧市街の方だったせいもあり、道はバイクと歩行者がごったがえしている状況で、歩道にもバイクが乗り入れていた。ハノイに着いた初日は、街を歩くだけでもバイクと衝突するのではないかと戦々恐々だったが、慣れてくると渡るタイミングを見計らえるようになり、ちょっとベトナムにとけ込めたような気分になった。



○ごみなどの衛生面

旧市街を歩いていて感じるのは、ゴミがどこに捨ててあるかという問題だ。一応は道の端にかき集めてあるのだが、ゴミ箱やゴミ収集場所のようなものが見当たらない場所もあり、そのまま捨ててある印象を受ける。飲食店も多いため、生ゴミも多く捨てられていて、分別も徹底していないようだった。

○ローカル感あふれる首都

ハノイはベトナムの首都なのだが、私たちが「首都」と聞いてイメージするような高層ビルやショッピング街と、ローカル感あふれる小規模商店や市場が同居しているのがハノイだった。私たちが訪ねるような機関のオフィスは洗練されたビルの中にあるのだが、一方で狭い場所で開いているカフェや路上で笠をかぶって果物を売る人々など、庶民らしいにぎやかな様子も見られた。両者が共存している様子が印象的だった。



ハノイのショッピングモール

Column ベトナムカフェめぐり～ハノイ～

ベトナムにはフランス統治の名残であろうか、カフェが非常に多い。ハノイでは町のいたるところで路上に椅子を並べているカフェがあり、人々が思い思いの時間を過ごしていた。

○名もなきカフェ



いや、きっと名前はあるのだろうが、なんとなく入ったので気にしていなかった。ガイドブックには載っていないであろう非常に小さなカフェ。周りの人々もきっと現地の人だろう。だがメニューは英語で併記され、店員のお姉さんも英語が話せたので、すんなり注文できた。アボカドシントーを飲んだが、非常に美味しかった。価格も100円台とお手頃で、毎日でも飲みたい。

○Cafe Pho Co (カフェ フォーコー)

地元の人々にも観光客にも人気があるらしいカフェ。だが、入り口がなかなか見つけられない。近くの織物屋の人に聞くと教えてくれた。土産物屋の中に入った奥にこのカフェの入り口があり、まさに隠れ家といった感じ。築約100年の家を使っているらしく、非常に趣がある。螺旋階段を上がっていくと、3階、4階にも席があり、ハノイの名所“ホアンキエム湖”を一望することが出来る。また、このカフェの名物にエッグコーヒーというものがあり、濃厚でクリーミーな味わいはとても美味しかった。店員は英語がしゃべれず、会計で一悶着あったものの、店内の雰囲気も景色もとても素晴らしかった。



Column ベトナムの乗り物

研修では、さまざまな交通手段に遭遇した。ここでは、ベトナムで見た交通手段を紹介したいと思う。(実は、この研修の訪問先には、都市鉄道建設、東西ハイウェイ建設、ヤマハ発動機のように交通に関する企業が多かったのだ。)

○バス

毎日たくさんの機関・企業に訪れることができたのだが、移動は全て貸し切りバス。座席を優雅に使い、ガイドさんの面白い話を聞いたり、景色を眺めたりと移動中も結構楽しい。交通ルールがめちゃくちゃな道路を大きいバスが通れるのか心配だったが、ほぼ問題なし。道路の舗装が完璧ではなく、移動中ふわっと浮くスリリングな体験も



多々。ちなみに、路線バス（窓は真っ黒）は人気がないらしい。その理由として、

1. 交通システムが整備されていないため渋滞し、バスがなかなか進まない。
2. ラッシュ時は車内が混雑する。
3. サービスが良くない。

があるそうだ。(後日談 by 財政大学の nghiã đình さん)



○飛行機

日本⇒ハノイとハノイ⇒ホーチミンとホーチミン⇒日本の計三回利用。写真はベトナム航空の飛行機。濃い青色の車体で、蓮の花が描かれている。蓮はベトナムの国花であり、ベトナムらしいデザインである。フライトアテンダントはアオザイを着ていた。機内食では、ドラゴンフルーツやメロン、スイカなど多くの果物が出てきた。

○シクロ（人力車）

ホーチミンの市内視察の際に乗車。サービスは様々で、チップをたくさん要求されたメンバーも。私を運んでくれた方は、最後の方に出発したにも関わらず、みんなを次々と追い抜き、見事2位到着。しかも、チップは一切要求されず。サービス精神旺盛の方だった。



○バイク

ベトナム人にとって、とっても大切なもの。日本メーカーのバイク（ホンダ、YAMAHA）がほとんど。ベトナムではバイクのことをホンダとも言う。どこへ行っても、道路はバイクで敷き詰められている。排気ガスが凄く、マスクをしながら乗っている人が多い。3、4人で乗っていたり、

どう見ても積載量オーバーだと思われるくらいの荷物を運んでいたりと、こちらがヒヤヒヤする程だ。

信号は無視して運転しているなので、日本のように信号待ちしても歩行者に青信号は訪れない。意外にも自転車に乗っている人はあまり見なかった。夜に信号待ちしているバイクが横一列にずらりと並ぶ光景はちょっと怖い。



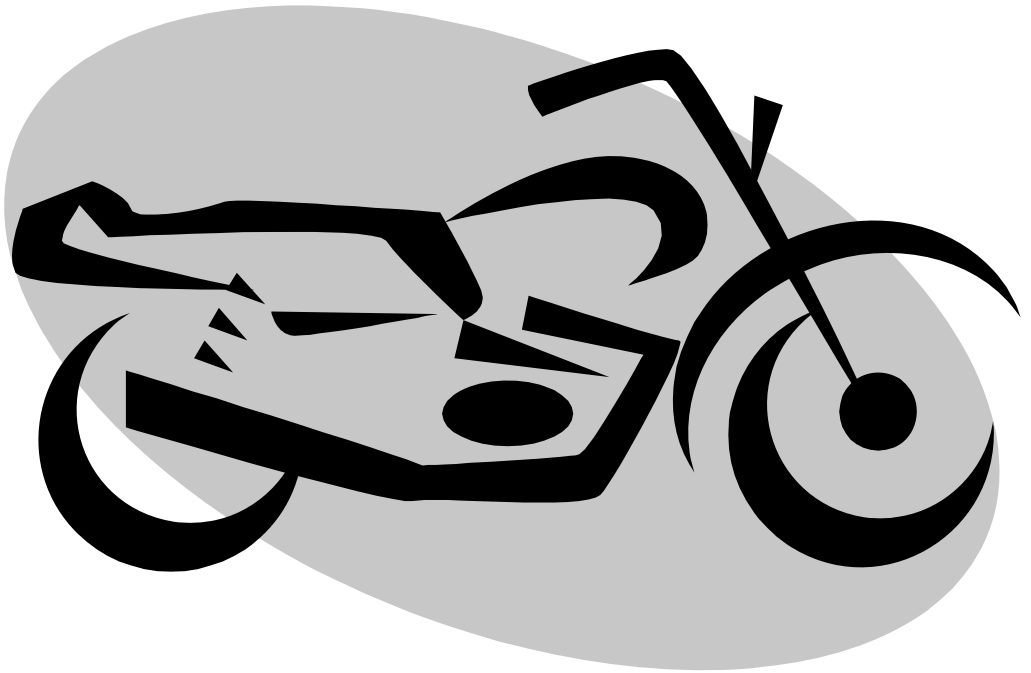
○自動車

一人当たりの所得がまだ低いベトナム人にとって、自動車には手が届かない。ハノイよりはホーチミンの方が自動車の交通量は多い。所有していることはお金持ちの証拠だとか。ベトナム政府は中所得国への移行を掲げているが、それが実現すれば自動車の所有者も増えるのだろうか。

ハノイのガイドさん曰く、ある大金持ち（デザイナー？）はたくさんの車を所有しており、その日の気分で乗る車を選び、残りの車を後ろに引き連れて出勤するらしい。余談だが、ガイドさんはもし金持ちになったら、日本とベトナムの友好関係構築のための教育に投資したいという感動的なお話をしてくださった。



III 部



現地調査記録

- 如水会との食事会報告
- ドンラム村訪問報告
- 学生交流@財政大学
- 企業・機関訪問報告

如水会ハノイ支部の皆さんとの食事会

①如水会ハノイ支部とは？

そもそも如水会にはゼミやサークルの集まりのみならず、国内海外各地に多くの支部が作られています。各々の支部には支部長と幹事がおかれています。ベトナムの如水会ハノイ支部ができたのは2011年11月。1942年1月に設立されたホーチミン支部とは違いハノイ支部は比較的新しい組織です。如水会の海外支部とは如水会のホームページから詳細を見ることができるので、海外で如水会の支部の方とお会いしたいときは、支部に直接連絡を送ることができるのでぜひ活用してほしいと思います。

②交流概要

参加者はもちろん一橋大学を卒業され、今はベトナムのハノイで働かれているOBOGのかた13名が集まりました。企業は銀行系、製造業が多く、学生は経済学部が多いのに対し、OBOGは商学部出身者が多かったです。2つのテーブルに分かれ、一橋大学の学生とOBOGさんが向かい合うように座りました。最初は一人ひとり自己紹介をして、特に学生はベトナムの印象を求められました。OBOGの方は出身学部と勤務先、さらにベトナムでの生活についてのコメントをおっしゃっていました。レストランではベトナム料理が提供され、食べながら楽しくおしゃべりをしました。それぞれのテーブルによって話した内容は違ったようですが、私の近所ではベトナムで働くことと日本で働くことの違いやベトナムにきてびっくりしたことなどをOBOGさんに質問したのに対し、OBOGさんはご自身の思い出を重ねながら、私たちの一橋での生活について興味関心をいただいていた。

③印象に残った会話の内容

以下は箇条書きにして書き出してみたいと思います。

- ・学生時代、一橋祭では図書館前の池に飛び込むのが恒例イベントであった
- ・今年一橋祭でお酒が禁止になったことをうけ、びっくりされていた。
- ・また以前は女子学生が少なかったために、津田塾大学との交流がとても盛んだった。
- ・テニスサークルに所属していたOGさんは毎朝テニスコートを清掃するのが習慣だった。
- ・ベトナム研修はOBOGさんのときにはなかったため、とても羨ましがっておられた。
- ・海外を見ておくことはとてもいいので私たちに留学を勧めてくださった。
- ・経済学部出身のOBさんは武隈ゼミに所属しており、武隈先生を知っている方は多かった。
- ・ベトナム在住期間は1,2年と短い方が多かったが、普段の生活で苦勞していることはない。
- ・社内は英語を使用しているため、ベトナム語は習得していない
- ・ベトナム語を習得していなくても基本的な会話で買い物は可能。

・ベトナム語は六声あるため、発音が難しい。中国語の四声をマスターしてからだとベトナム語は習得しやすい。

・ベトナム人は家族を大切にしており、比較的男性よりも女性のほうが熱心に働く。

・物価が安いので、生活費には苦労しない。

・ベトナムハノイ支部では頻りに集まりが催され、連携は深い。

・支部長、幹事が飲み会を仕切っている。

・活気にあふれているベトナムだが、いまだ無秩序な状態であるから日本を懐かしく思う。

・ベトナムはスポーツが盛んではないため、オリンピックは盛り上がらなかった。だが、サッカーとバドミントンを好きな人は多い。なでしこジャパンと一緒に頑張って応援した。

・小平キャンパスは今と比べてもっと無秩序状態だったが、とても楽しかった。

・最長で4年在住の方がいた。

このように、無作為に覚えている会話を書き出しましたが、これ以上にたくさんのお話をしました。貴重な時間を割いていただき、本当にありがとうございました!!



会の最後で記念に如水会の旗を真ん中に集合写真を撮った。お酒が入っているためか、みなさん顔が赤らんでいる。(2012. 9. 10)

如水会ホーチミン支部の皆さんとの食事会

企業・機関訪問も無事すべて終わり、最終日の市内視察の前の夜に如水会ホーチミン支部の皆さんとの食事会に招いていただきました。レストランは泊まっていたホテルからすぐ近くにあり、**Nghi Xuan** というお店でした。このお店ではフエの宮廷料理を食べることができ、それまでのベトナム滞在で食べたことがないような料理を食べることができとてもよかったです。料理はセットメニューとなっていて食べ終わったら次々に出してくれました。オプションでワインの飲み放題をつけてくれていたのですが、これも飲み終わったら店員の方がどんどん注いでくれました。

夜の7時からのスタートということもあり、レストランに着いた時にはあたりは暗くなっていました。私たちが着いた時には、すでに何人かの先輩方で乾杯をしていました。先輩方はまだ全員来ていなかったようですが、来ている方だけで乾杯をして、その後に学生たちに一人一人今までの研修におけるベトナムの印象を含む自己紹介の機会を与えていただきました。

食事はとてもおいしく頂くことができました。僕の印象に残ったのは、最初に出てきた寒天のような料理です。見た目はそんなにおいしそうではないですが、味はとてもおいしかったです。

いろいろな先輩方がいてとても楽しい時間を過ごすことができました。ホーチミン支部の幹事である石川さんは奥さんがベトナム人の方で、ベトナム語が堪能だそうです。ハノイでも先輩方との食事会に招いていただいたのですが、ベトナム語は、文法はそこまで難しくないが、発音がとても難しく、なかなか習得するのは難しいというお話を伺っていたので、そのベトナム語を習得して、さらには奥さんがベトナムの方ですごいなと思いました。

先輩方の中でも最も印象に残ったのは如水会ホーチミン支部の支部長でもある山下さんでした。山下さんは支部長ということもあると思いますが、貫禄があって、お話もとても面白かったです。中でも印象に残ったお話の一つは、ベトナムでは女性が真面目に働いていて、男性はなにもしていないというもの。これは山下さんだけでなく、ハノイの先輩方も、訪問先の企業の方もおっしゃっていました。もう一つの印象に残ったお話は、日本が先頭に立ってアジアの国々を引っ張っていかねばならないというもの。現在、日本は経済的にも成熟してしまっていますが、やはりまだアジアのリーダーとして、アジアの国々にいろいろなことを教えていかな

ければならないとおっしゃっていました。僕も日本人として将来アジアの国々に関わっていただけたいなと思いました。

みなさんお仕事をとても楽しんでいるように見えました。実際ベトナムでの仕事はやりがいがあり、たくさんやることもあり楽しいとおっしゃっていました。欧米での仕事経験がある方も何人かいたのですが、その時の仕事はやることがなく、全然面白くなかったという話は印象的でした。日本にいとアジアでなく欧米で仕事をしてみたいと思いがちですが、欧米での仕事はやることが少ないというお話は、将来の進路を考える上でとても重要なことだと思いました。よく考えてみると、アジアの国々は今発展しているのでやりがいのある仕事がたくさんあるのは当然のことのように思えます。

最後になりますが、お忙しい中集まっていただき、いろいろなお話を聞かせてくださった先輩方に感謝の気持ちでいっぱいです。この場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



Nghi Xuan で先輩方と

ドンラム村訪問レポート

1. 日時：9月12日水曜日
2. 場所：ドンラム村
3. ヒアリング先：JOCV 井上様、吉原様



○ドンラム村概要

ドンラム村はハノイ都心部より南西に40キロのところに位置する。ドンラム村は2005年にベトナムで初めて農村全体が国家文化財に指定された村である。村を形成する9つの集落のうち、保存地域に指定されているのは5つの集落である。2003年から昭和女子大学の調査が村に入り、伝統建造物の調査・研究・修復や伝統文化の調査・研究が行われてきた。2008年から建築担当のJOCV(青年海外協力隊)の受け入れが始まり、今日に至る。現在のJOCVの活動は、主に文化財保存と観光開発の補助である。

JOCVが配属されているドンラム村遺跡管理事務所では、文化財保存をすると同時に観光開発も進めている。ドンラム村では観光の形態が伝統家屋の訪問に偏っているため、観光収入による利益に差が生じてしまっている。JOCVは観光収入による利益がコミュニティのため、すべての住民に行き渡るよう様々な努力をしている。

○ドンラム村の訪問

・ドンラム村の印象

印象的だったのは自転車や自動二輪、自動車に乗った村の人の出入りが激しかったことである。ドンラム村は人々が実際に生活を送っている場所であると同時に、文化財でもあるという非常に珍しい村である。インフラは電気や水道が整備されているが、整備の普及具合には差がある。伝統家屋をもつ人々は観光業を営むことができるが、ない人々はそれができない。そこで村の人々の収益に大きな差が生じてしまっている。JOCVはこの格差をなくすために伝統家屋をもたない人々も収益を増やすことができるよう様々な試みをしているとのことであった。

・ドンラム村の入り口にて

JOCVの方二人と村の案内役の方一人が出迎えてくださった。私たちがバスをおりている間アヒルの子供の集団が水浴びをしていたのが非常に可愛らしかった。



・伝統料理作りー春巻き作りー

まず最初に村の伝統料理である春巻き作り体験をした。主な具材はお肉、にんじん、もやし、ねぎ、胡椒、卵である。これらを混ぜ合わせ、それをライスペーパーで巻くことで、下準備をした。村のかたが最初に手本を見せてくださった。非常に慣れた手付きで3通りの手法で巻いていた。どれも均等に整ったかたちであった。私たちはそれに続いて一人ずつまいていったが、村のかたのようにきれいな形にはなかなかならなかった。私たちは誰が一番きれいに巻けるかなど話しながら、楽しく料理体験をさせていただいた。



・伝統音楽鑑賞

次に私たちはドンラム村の人々による伝統音楽を鑑賞した。基本的に歌手が二人、歌っていない人は後ろで踊り、小さな太鼓でリズムをとって旋律を中国の伝統楽器である二胡が奏でた。歌手や踊り手の方は伝統衣装に身を包み色鮮やかであった。そのほかに歌っていない人が後ろで踊り、時々踊り手が歌手と交代したりもしていた。歌に関してはどのかたも上手かった。踊り手も歌っていたのだが歌手がマイクを持って歌っていたこともあり少々埋もれてしまっていた。二胡に関しては技術は高かったがヤニが少しかれており音が少々かすれているように思えた。技術が上手いぶん惜しく感じた。小太鼓はスティックで叩いており主に3つの音を出して強弱をつけていた。1つ目はそのまま皮を叩くもの、2つ目は太鼓のふちを叩くもの、そして3つ目は片手で皮をミュートしながらもう一方のスティックで叩くものである。この太鼓を叩いているかたはリズム感がよく非常に安定したリズムをキープしており曲にメリハリを出していた。全体で受けた印象は基本的に歌がメインでありマイクをもったボーカルを中心とし周りが補助するような立ち回りの音楽であった。結果として音楽は初めて耳にした独特なものであり、非常にいい経験であり興味深かった。ただメインのボーカルの音量はもう少し小さくして踊り手のハモリを引き立たせるともっとよくなったようにも思う。ただドンラム村の伝統音楽は音と踊りの協調で表現していたため、音楽だけを評価するのはよくないかもしれない。踊りに関しては私は心得がないためなんともいえないが、非常にゆったりとした動きであり優美であった。物語を表現していたようであったがベトナム語がわからないため、その物語の内容を把握できなかったのが悔やまれる。



○質疑応答

①ドンラム村の人は、どのような生活を望んでいるのですか？都市化ですか？それとも今の状態を変えたくないのですか？

A.住民によって異なる。現在の農村での暮らしを継続したい人もいれば、便利で衛生的な環境を希望する人もいる。

②建築物保存にあたって、その村の人々の反対はなかったですか？（もっと新しい家に住みたい、もっと工業化したいなど）

A.基本的にはない。ただし、建築物への規制（平屋のみ）が設けられているので、2階建て以上の建築物が認められていない。家族の増加を理由に2階建てを望む人もいた。

③村民の利益はどうやって確保されているのですか？生活が乱されてしまうことはないのですか？

A.現状として、村落開発における利益が伝統家屋所有者に集中している。他の観光収入（春巻き作り体験、ホームステイ、農業体験など）の充実を図っている段階である。住民と協力して観光資源の発掘に取り組んでいる。また、観光客によってごみ問題や交通状況の悪化など、開発以前はなかった問題も現れている。

④協力隊という立場だからこそできることはなんですか？

A.合計3ヶ月の語学訓練（日本で2カ月、ハノイで1カ月）を通じて得た語学力を通じて、現地の生の声を聞くことができる。第3者の外国人だからこそ、話しやすい問題がある。ベトナムには階級を重視する文化があり、立場が上の人間に発言をためらう傾向がある。住民の意見を村長や市長に届けるには外国人の存在が重要である。

⑤協力隊員としてなぜドンラム村を選んだのですか？

A.大学院でそれぞれ専攻していた建築と国際協力、文化財保存と観光開発の知識を活かせる場所を希望していたから。

⑥ドンラム村の人と交流する上で一番大変だったことはなんですか？

A.④の回答と矛盾するかもしれないが、言語の壁があり住民との意志疎通が大変だった。週刊報告書を村の掲示板に載せたり、仕事以外の場で積極的にコミュニケーションをとったりして、村人との距離を縮める努力をした。

⑦農村開発の中で感じる限界などがありますか？（予算、方法、人員など）

A.都市と比べ農村の教育水準の低さに農村開発の限界がある。現地ベトナム人の特徴として、村全体の改善を長期的・多角的に考えるのが苦手である。住民主体の自立した開発には限界があると思う。

⑧世界遺産に認定されるために何が必要と考えていますか？世界遺産になったとしたら、村にはどんなインパクトが考えられますか？またネガティブインパクトがあったとしたら、それらに対する対処はどのようなものが考えられますか？

A.世界遺産認定によるネガティブな側面としては、ごみ問題や交通状況の悪化が考えられる。村落全体で持続可能な形で発展することが重要であり、観光業の管理体制を確立させる必要がある。



ドンラム村の門の前にて、青年海外協力隊のお二方と

STUDENT SEMINAR BETWEEN HITOTSUBASHI UNIVERSITY, JAPAN AND ACADEMY OF FINANCE, VIETNAM

Hanoi, September 13, 2012

Time: 9:00 am on 13/09/2012

Location: Meeting Room Board, Dong Ngac

Attended: Hitotsubashi University; Academy of Finance and invited delegates

Chair: Associate Prof. Do Thi Phi Hoai, Head of International Cooperation
Department, Academy of Finance

8:30 - 9:00 Reception

MC Welcome and Introduction of participants

9:15 - 9:20 Welcome speech – Associate Prof. Do Thi Phi Hoai

9:20 - 9:50 Presentation of University Hito St (Topic: Environment)

9:50 - 10:05 Presentation of Academy of Finance St (Topic: Environment)

10:05 - 10:20 Discussion on Environmental Topics

10:20 to 10:30 *Coffee Break*

10:30 - 11:00 Presentation of University Hito St (Topic 2: Income Inequality)

11:00 - 11:15 Presentation of Academy of Finance (Topic 2: Income Inequality)

11:15 - 11:30 Discussion of Income Inequality topic

11:30 - 11:40 Speech and finished Seminar - Professor Okuda

12:00 - 14:00 Lunch at Sen Tay Ho Restaurant

環境班

Environmental Problems in Vietnam

メンバー：山本、石塚、岩田、大橋、屋野

1. 一橋大学プレゼン概要

本プレゼンでは、まず初めにベトナムにおける産業化や今後の日本との関係、また都市化の進行状況などについて概観した後、「水質汚染」「大気汚染」「ごみ問題」という 3 つの視点からベトナムの環境問題を概説し、今後に向けての提言を行った。

○水質汚染

まず水俣病を導入として、日本における水質汚染の歴史や現状を解説した。次に、工業団地での水質汚染問題や、ベダン社の事例研究を通じ、ベトナムの環境保護に係る当局の監督能力の欠如を指摘した。また、ベトナムにおける水質汚染関連の法的枠組み整備の歴史を説明した。以上を踏まえ、ベトナムの水質管理の問題として、行政面においては環境規制の不徹底、規制水準の数値の厳しさ、環境面においてはインフラの未発達、汚水処理施設の乏しさや水質処理のコストの高さなどを挙げた。

○大気汚染

ハノイの大気汚染はここ 10 年ほどで年々深刻化しており、その主原因は増加の一途を辿るバイクであることを、統計を交えつつ示した。それに対して現在採られている対策として、公共交通機関の改良が挙げられた。政府は同時に汚染規制の導入にも着手しており、2015 年までに 80~90%のバイクを基準に適合させることを目標としている（現在は 30%）。

○ごみ問題

初めにハノイにおけるごみ問題の現状、およびその原因として一貫した人口増加や処理技術の低さを説明し、政府が現時点で示している戦略や具体的対策について述べた。その後、東京における「ごみ戦争」の歴史やダイオキシン規制などを紹介し、現在の東京においてごみ処理が円滑に進行している背景と、一方でごみ処理の有料化など新たに生じている問題点について述べた。

学生交流レポート

○まとめ

以上で考察した 3 つの問題それぞれについて、まとめとして具体的な解決策を提言した。

結論として、経済発展と環境保護という二者択一の思考法から脱却し、国際協力を活用しつつ住民・企業・行政の 3 者が責務を果たすことの重要性を主張した。

2. ハノイ財政大学プレゼン概要

“Environmental Pollution of Industrial Park”

我々が汚染源の種類別に環境問題を分析したのに対し、ハノイ財政大学の学生は工業団地という具体的なアクターを分析視座として取り上げた。工業団地の利点を紹介したのちに、ごみ・大気・水質の 3 点において工業団地が汚染をもたらしている現状が示された。工業団地から排出されたごみは 2800 トン（2008 年）に及び、汚染水の排出量も 2020 年には 240 万立方メートルにまで増加する見込みである。

解決策としては、工業団地に焦点を当てて、団地内の環境改善における組織改善、排出税や罰金の導入などの規制強化、環境面を考慮した新たな工業団地の構想などが提示された。また、現在工業団地側が示している対策も同時に言及された。

結論としては我々のプレゼンと同じく、社会・企業・政府の 3 者のギアをそれぞれ円滑に回していくことが肝要だとした。

3. ディスカッション内容（AOF：ハノイ財政大学、HU：一橋大学）

時間の都合上、環境班のディスカッションは質疑応答が中心となった。

AOF：AOF では環境に関する教育科目があるほか、様々なイベントや宣伝活動を学生自身がオーガナイズしている。HU ではどのような取り組みがなされているのか。

HU：一部の学生はサークル活動として環境問題に取り組んでいるが、全員ではない。大学では、ごみの分別や節電、公共交通機関の使用などが奨励されていたり、デポジット付きのリサイクル可能な弁当が販売されていたりする。さらに、大学当局はもっぱら再生紙を使用している。しかし、意識の低い学生によるごみのポイ捨てなども見受けられるため、まずは意識を共有する必要があると考える。

AOF：現在、紙をリサイクルに出すことで幾ばくかのお金が返ってきて、それを子供たちのためのボランティア活動に使うプログラムがある。アースアワー（1 時間の間すべての電気を消してろうそくのみで過ごす）の取り組みも実施した。

AOF：日本でのリサイクルの現状について伺いたい。

HU：週 1 回新聞古紙回収の制度があり、トイレトペーパーなどが無料でもらえる。

AOF：リサイクルをビジネスとして成立させるアイデアはあるか。もし日本での成功事例があれば教えてほしい。

HU：使用済みペットボトルを中国に輸出したうえで、衣料に加工して日本に再輸入している企業がある。その際には、ラベルを剥がしキャップを取るなどある程度分解の労力が必要となるが、分解しないことには部分ごとに素材が異なるのでリサイクルできない。細かく部分ごとに分ければ輸出も容易になり、リサイクルのビジネスチャンスが広がるように思える。

4. ハノイ財政大学側からの講評

このテーマはベトナムで非常に時事的な問題である。一橋大学のプレゼンで興味深かったのは、スライドで取り上げられた日本の 50 年前の写真が現在のベトナムに酷似していた点である。一方で、今日の日本の環境は非常に改善されていると推察する。日本のケーススタディーを参考にすれば、ベトナムも環境問題解決への道が拓けると思う。

私（講評者）が考えるベトナムの経済発展によるトレードオフの一点目は、バイクである。しかし、今日の所得状況からして、この交通状況はしばらく続くと考えられる。

二点目は FDI 誘致に際してのデメリットである。FDI 誘致を目論むがあまり、審査は緩く、法律も未整備のままとなってしまう、環境汚染が生じる。ベダンの例もこれに含まれる。ベダンはホーチミン市全体で不買運動が起こるまで、賠償金を支払うことはなかった。これも経済発展により生じた問題点であろう。

5. 感想

ベトナムではバイクによる大気汚染やメコン川の水質汚濁など、経済発展に伴う環境破壊が現在進行形で目に見えるかたちで生じている。しかしながら、日本でもそう遠くない過去、高度経済成長の時代に、四大公害をはじめとした環境問題が社会問題のひとつとして考えられていた。こうした状況を踏まえ、単にベトナムの現状について議論を行うのではなく、日本の経験を織り込みながら今後の環境問題への向き合い方を構想していくことを目標としていた。正直に言うと、ディスカッションに割けた時間が非常に短かったことから、その時間の殆どが日本とベトナムの現状共有に終わってしまったのは残念であった。しかし、「大学生ならではの」ともいえるが、参加者各々の問題として意見交換を行うことが出来たのではないかと思う。

プレゼンで指摘した通り、ベトナムにおけるマクロレベルの環境政策には制度面・運用面ともに数多くの問題が残存している。一方で、ハノイ財政大学では（おそらく日本の大学以上に）活発な環境活動への取り組みがみられるのが興味深い。「発展途上国は経済成長至上主義に陥っている」というステレオタイプがしばしば語られることがあるが、決してそのようなことは

学生交流レポート

ないのである。ベトナムの学生の声を聴き、そのような一面的な考え方に囚われていた自らを恥じつつも、「お互いの優れたところを活かす」という姿勢が大きく表れたディスカッションに、今後の日越友好関係の構築が期待できるのではないかと感じた。

社会学部二年 大橋 克樹



Environmental Problems of Vietnam

2012 Summer Training Program in Vietnam
Hitotsubashi University
September, 13, 2012
Ishizuka Taku, Iwata Norihisa, Ohashi Katsuki,
Yano Takuma, Yamamoto Ayaka

1

Introduction

Economic growth or environmental conservation?



2

Table of Contents

- I. Industrialization and Urbanization
- II. Main Environmental Problems
 - II - 1 Water Pollution
 - II - 2 Air Pollution
 - II - 3 Garbage Treatment Problem
- III. Summary
- IV. References

3

I. Industrialization and urbanization

4

Industrialization in Vietnam

- ▶ Economic development is caused by industrialization.
 - Doi Moi reforms
 - The amount of trade increased dramatically.
 - Attracts a lot of FDI from advanced countries.

2011, My Dinh, Ha Noi



5

For further industrialization and relationship with Japan

- ▶ Vietnam aims at joining the industrial country by 2020.
 - Promote High-tech industry
 - Attract more FDI
- ▶ Partnership with Japan
 - EPA
 - Support industrial strategy of Vietnam
 - Build sustainable production system

6

Urbanization in Vietnam

- Urban population of Vietnam:
26 million or 30.4% of the nation
(Hanoi: 3 million / Ho Chi Minh: 5.5 million)



7

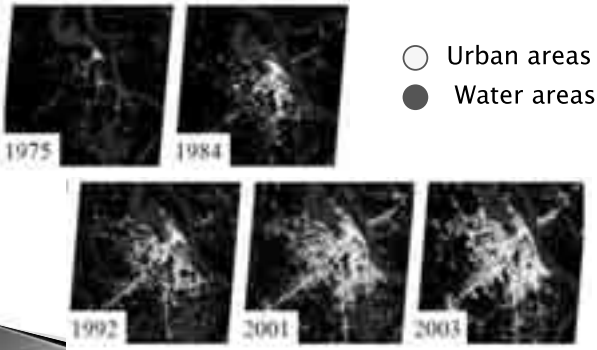
Transition of the Vietnamese Urban Population:
1931-2009



Source:
Patt 1991-1999, Table 14, page 140 in K. Goshihara, K. Fumino and Elena The (1991),
Demography of Socialist-Industrialized Asia: IITM
Gene 1999-2000, Census 1999, 1999 and website of the ITC.

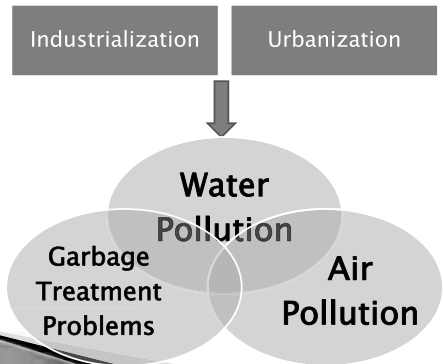
8

Expansion of Urban Areas in Hanoi



9

Major Environmental Problems in Vietnam



10

II. Main Environmental Problems

11

II-1 Water Pollution

12

Industrial Pollution in Japan:



“Black Water Incident” (1958)

Paper-manufacture Honsyu-seishi spilt industrial waste water (highly toxic, strong acid black water) into the Edo River.

13

Major Pollution-related Diseases Caused in the 1960s

Ouch-ouch disease
in Toyama (1955)

Yokkaichi Asthma
in Mie (1960)

4 Major
Diseases

Minamata disease
in Kumamoto(1956)

Minamata disease
in Nigata (1965)

14

Minamata Disease



15

Development of Legal Framework for the Pollution Control in Japan

1967:

Introduction of the Basic Law on Environmental Pollution Control

1970:

Further Amendment to Environmental Pollution Control and Water Pollution Prevention

July, 1971:

Foundation of the Environment Agency
(As the unified administrative authority over the promotion and implementation of the antipollution laws in general)

Realization of moderate control of industrial pollution

16

Unresolved Problems of Industrial Pollution

Minamata Disease

Over half a century since its outbreak—

Continuing dispute over relief system:

- Designation of the patients
- Liability for compensation



Still longer period of time will be required for its ultimate solution.



17

Environmental Pollution in Vietnam Caused by the Industrial Parks

Environmental Situations of the Industrial Parks

(Report by MONRE/ as of 2009)

- Number of the industrial parks in operation: 171 (out of 223 parks)
- Total amount of the raw sewage produced per day: 1,000,000 m³ (70% is discharged into rivers without any proper treatment.)
- Swage treatment facilities: Available only in 43% of the industrial parks (Some of the existing facilities do not fulfill the established standards.)

18

Environmental Pollution Caused by the Industrial Parks



19

Increasing Violation of the Environmental Standards by Foreign-owned Companies



20

Case Study Vedan International: An Environmental Polluter

- 2004: Acknowledged as a distinctively environmental protectionist
- 2006: Exposure of Illegal wastewater spill by Vedan.



Negotiations over the compensation for the pollution

- Agreed to pay Ho Chi Minh \$2.4 m, \$2.8 m to Buntao.
- Agreement with Buntao and Dong Nai later came to a standstill over the distribution of compensation.

21

Case Study Vedan International: An Environmental Polluter (cont.)



22

Case Study Vedan International An Environmental Polluter (cont.)

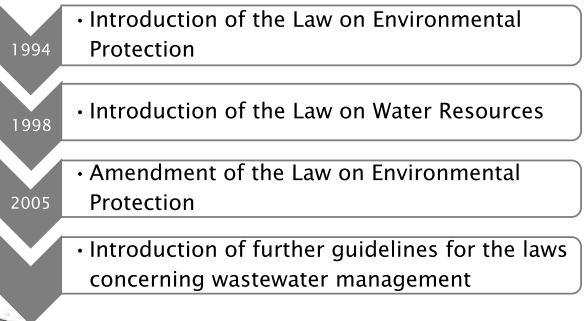
- The environmental pollution caused by Vedan—a company officially praised for its serious consideration for environmental protection
⇒ **The Environmental Protection Agency's lack of ability and judging criteria to identify truly environmental companies.**
- Vedan's wastewater leak was being carried out by permission of MONRE
⇒ **MONRE, which is supposed to be the administrative authority over environmental issues, has NOT been observing the national laws.**



Exposure of the incompetence of the Vietnamese environment authorities

23

Development of the Legal Framework for Wastewater Management in Vietnam



24

TCVN(1995) and QCVN(2009)

1995:

Adoption of TCVN for wastewater discharge, ambient air quality, etc.



2009:

Adoption of QCVN, a criterion with a stronger regulatory force than TCVN

TCVN: National *Standard*, of which observance is expected but not obligatory.

QCVN: National Technical *Regulation*, which is legally enforceable and imposes a fine on its offenders.

25

Problems with Wastewater Management in Vietnam Administrative Problems

▶ A combination of factors contributing to emasculating the environmental regulations:

- Lack of awareness of environmental pollution problems among companies and the law enforcement authorities.
- Collusion between companies and the law enforcement authorities.
- State-owned enterprises being exceptionally beyond the reach of the regulations.

▶ Excessive rigor of the environmental regulations:

- Unfeasibility of the operational regulations such as the time limit and the levels of standards.

26

Problems with Wastewater Management in Vietnam Technical Problems

▶ Underdeveloped Infrastructure:

- Many of the industrial parks do not have an adequate wastewater treatment plant.

▶ High Cost of the Wastewater Treatment Technology:

- Companies need to attract a large-scale investment to meet National Environmental Standard A.
- Expensive technologies of Japan and Europe are not affordable for local industries.

▶ Poor Quality of Wastewater Treatment Services

- Despite the recent expansion of wastewater treatment business, the quality of the service is not always acceptable.

27

II-2. Air Pollution

28

Transition of the Traffic Emissions in Hanoi: 2003-2010 (tons/year)

Year	NO ₂	SO ₂	CO	VOC
2003	35,0	12,0	61,0	22,0
2006	49,0	16,8	85,4	30,8
2010	68,6	23,5	119,5	43,1
2020	96,0	32,92	167,3	60,3

Source : Son D.H et al.,2008

29

Diseases Caused by Air Pollution



Pneumonia

Chronic Bronchitis



30

MOTORBIKES!!!



31

Transition of the Traffic Volume in Hanoi: 1990-2009 (with the estimated figures for 2020)

Year	Cars	Motorbikes
1990	34,222	195,477
1995	60,321	498,468
2000	96,679	785,969
2003	126,478	1,179,166
2006	157,000	1,700,000
2009	302,293	3,469,315
2020(estimated)	307,720	6,800,000

1990-2003 : Source (ADB et al.,2005)
2006,2020 : Source (Son D, H et al.,2008)
2009 : Source (Vietnam Register 2010)

32

Existing measures of the Traffic Problem in Vietnam

Measure 1:

To provide an improved public transportation

Measure 2:

To introduce emission control regulations.

33

Measure 1: Improvement of the Public Transportation

- ▶ (1) Construction of a new railway, UMRT (Urban Mass Rapid Transit)

Construction Projects in Progress	
Line	Technical/Financial Cooperation
Lines 1 & 2	Japan
Line 2a	China
Line 3	France & World Bank

All lines are scheduled to be opened by 2020.



34

Measure 1: Improvement of the Public Transportation (cont.)

- ▶ (2) Improvement of the existing public transportation (particularly public bus service):
 - Projects led by the Vietnamese Government
 - 2004: Deregulation of the entry of private companies into the bus business.
 - By 2000: Expansion of the bus routes from 30 to 66
 - A Vietnamese-Japanese joint project
July 2011-June 2014:
"Improvement of the Public Transportation in Hanoi" led by Hanoi Transport Department in cooperation with Japan International Cooperation Agency (JICA)

➡ But the use of public bus is still only 10% of total transportation

35

Measure 2: Introduction of the Emission Control Regulations

2005: Introduction of Euro 1 Emission standards to be applied for motorbikes

2010: Introduction of Euro 2 Emission standards to be applied for new cars and motorbikes



More than 70% of motorbikes in Hanoi don't meet EURO2 Emission standards

36

Measure 2:

Introduction of the Emission Control Regulations

Vietnam Register's goal by 2015:

It is desirable that 80-90% of the motorbikes in Hanoi meet the emission control standards



Vietnam Register's Proposal:

Old motorbikes will be checked once a year to ensure they are not producing excessive levels of exhaust fumes.

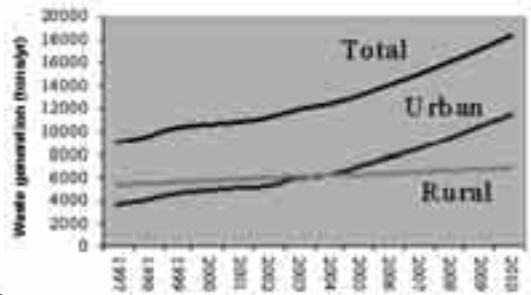
II-3. Garbage Treatment Problems

Garbage Treatment Problems in Hanoi: Current Situation

- ▶ Total amount of garbage generated in Hanoi: 5,000t per day (Hanoi urban area only: 3,500t per day)
- ▶ The waste landfill site at Nam Son Final Disposal Plant
- Expected to be filled to capacity by 2016.
- ▶ Most amount of the waste (except for the medical waste)
- Simply sent to the landfill without being burned.



Expected Amount of Garbage Generated in Urban Areas in Vietnam: (1997-2010)



Causes of the Garbage Problems in Vietnam

- ▶ Continuous population growth
→ Inevitable increase in garbage
- ▶ Lack of proper recycling technologies;
Garbage collection by type is still in its experimental stage.
→ An efficient system of reusing and recycling waste is not available yet.
 - Continuous increase in garbage is expected.
- ▶ Current typical waste treatment=Burying on the landfill sites
→ Landfill sites will be filled to capacity in the near future.
 - Pollutants discharged from the waste materials will cause environmental pollution and disrupt ecosystem.

Existing Countermeasures to Address the Garbage Problems in Vietnam

- ▶ "National Objectives for Environmental Protection to Be Achieved by 2010 and a National Vision towards 2020" (2003)
- ▶ Priority Issues Concerning the Garbage Treatment Problems:
 - To construct an integrated waste disposal system in urban and industrial areas
 - To achieve the environmental quality standards in urban and industrial areas
 - To develop recycling industry and establish an efficient recycling system in society
 - To achieve the recycling of 30% of waste materials

Existing Countermeasures to Address the Garbage Problems in Vietnam (cont.)

- ▶ **[Countermeasures against the garbage increase]**
 - ▶ Construction of a new waste treatment/transport facility subsidized by Hanoi People's Commissariat
 - ▶ Construction of new waste treatment facility in Xuan Son
- ▶ **[Promotion of the Concept of Reduce, Reuse, Recycle (the 3Rs)]**
 - ▶ Construction of Nam Son Solid Waste Treatment Complex (SWTC) (since 2010)
 - Goals: To produce building materials by recycling technology; To reduce the amount of garbage
 - ▶ JICA's support project for 3R INITIATIVE in Hanoi City toward the development of a sound material-cycle society
 - ▶ Construction of solid waste treatment and power generation facilities → effective to prevent environmental pollution
 - Constructed by Hitachi Zosen, a major Japanese industrial and engineering corporation.

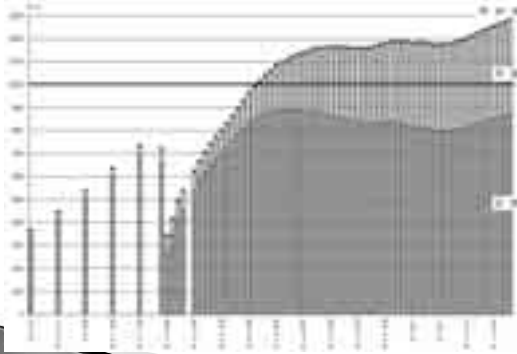
43

A Brief Profile of the Tokyo Metropolis

- ▶ Population: 13 million
- ▶ Population density: 6,000 (people per km²)
- ▶ The center of Greater Tokyo Metropolitan Area (composed of Tokyo and its neighboring cities such as Yokohama)
- ▶ The world's largest city in the 18th century
- ▶ After the WWII:
 - Expansion of the labor market in Tokyo area
 - large population influx from rural areas
 - Beginning of the centralization of administrative power

44

Transition of the Regional Distribution of Population in Tokyo: (1920–2005)



45

Garbage Treatment Problems in Tokyo from the 1950s to the 70s

- ▶ Use of part of Tokyo Bay as a landfill site for the untreated waste (as a solution to the increasing garbage problem in the city of Tokyo)
- ▶ Problems brought to the vicinity of the landfill site:
 - Bad smell from the waste carried to the landfill
 - Traffic jam in the neighboring areas (caused by 5,000 trucks that visited the areas on daily basis.)
- ▶ Movement against Inequality
 - Inequality between areas / Delay in collecting garbage
- ▶ Declaration of "War of Garbage" by governor of Tokyo
 - Established a number of waste treatment facilities
 - Resolved many problems caused by garbage

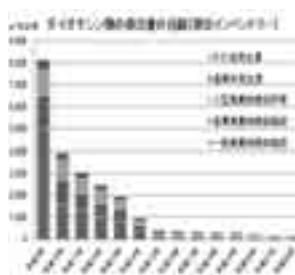
46

Problems Caused in the Process of Garbage Incineration

Generation of dioxin, a cancer-causing factor

- ▶ 2000: Enforcement of the Act concerning Special Measures for the Regulation of Dioxins
- ▶ Further legislation on the garbage treatment at the local government level:
 - Enforcement of total volume control of dioxins in the designated areas
 - Prohibition of garbage incineration at home

Total Volume of Dioxins Emitted in Tokyo (1997–2010)



47

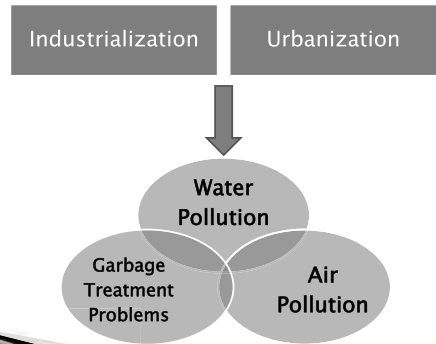
Garbage Treatment in Tokyo: Current Situation

- ▶ Establishment of an efficient disposal system due to the improved treatment technologies
 - Development of the technologies
 - Decrease in the amount of garbage and air pollution
- Reduction in the operation rate of the treatment facilities due to the recent economic recession and an increased awareness of the 3Rs
- ▶ Cost increase due to the function enhancement and plant enlargement of the disposal facility
 - Inequality of garbage disposal capability among local governments according to their financial conditions.
 - Introduction of a fee-charging system for garbage bags
 - A sharp decrease in the amount of domestic garbage
 - A heavier financial burden on the taxpayer

48

III. Summary

Major Environmental Problems in Vietnam



Industrial Pollution (Water Pollution) in Vietnam: Proposal of Solutions

	Training of the human resources who are involved in environmental administration
Administrative Reforms	Raising public awareness of environmental issues; Public-private partnership for the promotion of environmental education
	Adoption of more feasible regulation standards
	Broadening the technological support to the improvement of environmental infrastructures
Technological Reforms	Development and promotion of more economical and effective wastewater treatment technologies
	Introducing advanced views and technologies from developed countries that can reform the existing circumstances in Vietnam.

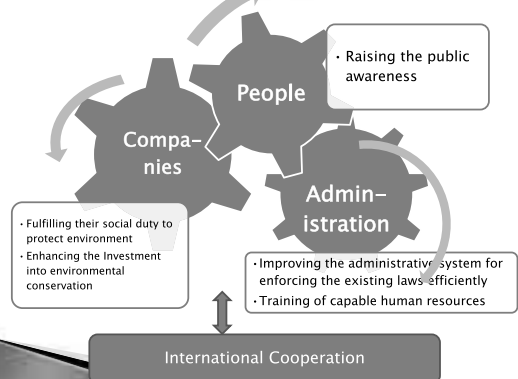
Air Pollution in Vietnam: Proposal of Solutions

- ▶ Thoroughly enforcing the existing measures and regulations for the control of transport demand and gas emission from motor vehicles.
- Construction of UMRT
- Improving the public bus service
- Introduction of mandatory emission checks and maintenance

Garbage Treatment Problems in Vietnam: Proposal of Solutions

- Raising the public awareness of the 3Rs
- Providing waste treatment facilities with appropriate treatment capacity
- Forming a general consensus about the need for building treatment facilities among the neighboring residents
- Creation of a workable legal framework to address the existing circumstances

Economic Growth and Environmental Protection in Vietnam



For Discussions

Do you have any trouble caused by environmental problems in your daily life?

As university students, what can we do to contribute to the achievement of the solutions ?

What measures should be taken to achieve each solutions?

How to raise environmental awareness?

55

IV. References

56

- ▶ I. Industrialization and urbanization
 - Ministry of Economy, trade and industry <http://www.meti.go.jp/>
 - JETRO (Japan External trade Organization), Annual report of Vietnam <http://www.jetro.go.jp/world/gtir/2012/pdf/2012-vn.pdf>
- ▶ II - 1 Water Pollution
 - Ministry of Environment <http://www.env.go.jp/>
 - Ministry of Economy, trade and industry <http://www.meti.go.jp/>
 - HOTNAM! <http://www.hotnam.com/>
- ▶ II - 2 Air Pollution
 - National Environmental Research Institute(2010), Urban Air Quality And Management In Hanoi, Vietnam
 - Engineering and Consulting Firms Association, Japan(2011), Preliminary Study on Traffic Control Center in Hanoi ,Vietnam
 - JICA(2010), Project on Integrated UMRT and Urban Development for Hanoi in Vietnam
- ▶ II - 3 Garbage Treatment Problem
 - IDE-JETRO <http://www.ide.go.jp/japanese/>
 - Ministry of Planning and Investment, *Migration and Urbanization in Vietnam: Patterns, Trends and Differentials*, Hanoi, 2011

57

格差班

The Income Gap in Vietnam

メンバー： エミリ、片岡、仲、中川、堀部

1. 一橋大学プレゼン概要

1976年の南北統合以来、ベトナムは社会主義政策を行ってきたが、1986年のドイモイ政策の実施によって徐々に資本主義体制に近づきつつある。このような背景の中で、現在ベトナムの所得格差の状況は一体悪化しているのか。格差班はこの疑問に注目し、1) 現状、2) 格差の原因、3) ベトナム政府が打ち出している対策、主にこの3つの要素に焦点を当てながら、プレゼンをした。

○現状

一人当たり平均所得、貧困率やジニ係数といったデータを地域別に比較すると、以下の結論を導ける。ベトナムは著しい経済成長を成し遂げてきたが、経済的な格差が大きくなったことも間違いない。具体的に述べると、ベトナムの北部と東南地域間のギャップは注目に値するものであり、北部の人々は一般的に農村に住んでいるのに対して、東南地域の人々は都市に住んでいる。

○格差の原因

ベトナムの格差が生まれた原因は主に6つある。1) 教育政策・教育水準のアンバランスによる都市と農村間の教育格差、2) 職業訓練、3) 少数民族、4) 工業化を中心とするベトナムの発展戦略、5) 都市への海外直接投資の流入、6) 戸籍上の規制といった移動障害。

○政策

ベトナム政府は格差を是正するために、次のような政策を打ち出している：1) 大規模インフラ開発政策、2) 農村における工業化政策、3) クラフトツーリズムといった観光促進政策、4) 教育水準の向上、5) マイクロファイナンス。

○まとめ

ベトナムの格差問題を解決するには、上述の政策は十分に効果的とは言えないであろう。したがって、今後ベトナム政府は既存のアプローチを見直し、問題の根本から取り組む必要があ

学生交流レポート

るかもしれない。

2. ハノイ財政大学プレゼン概要

財政大学のプレゼンもほぼ同様に現状、格差の原因と解決策の3つに分けられたが、我がグループの内容とは違った視点も少なくなかった。

○現状

ベトナムの所得格差は広がっているということだけではなく、その事実が与えている影響も語られた。例えば、都市と農村の消費パターンや就学率などのみならず、格差によって生じている医療サービスの格差という現状も挙げられていた。

○格差の原因

わがグループと同様に格差を生む投資と発展政策について述べたが、その他に5つの原因を提起した。それらは1) 自然環境条件、2) 農村地域におけるインフラの不足、3) 地方行政のマネジメント能力の低さ、4) 農村市場の未成熟さ、5) 貧困層への情報提供不足による機会の格差である。

○解決策

我がグループはベトナム政府がすでに打ち出している政策について発表したが、財政大学の方はそれに注目するのではなく、格差の是正につながる解決策を幾つか挙げた。その中には、より累進的な課税システム、地方行政スタッフのマネジメント・トレーニング、農村地域の生産性を向上させるための技術移転促進、そして基礎インフラと施設の拡充措置などである。さらに、教育の質を高めることも非常に重要な政策の1つであり、格差問題を是正するための長期的な解決策である。

○まとめ

以上のことをまとめると、ベトナムの格差問題は実は深刻なものではないと言っている経済学者もいるが、データを見るとベトナムの所得分配は以前より不平等になりつつある。これを視野に入れて、格差を縮小させる努力が必要なのではないであろうか。

3. 感想

格差班にとってディスカッションをする時間はあまりなかったことは非常に残念なことだと個人的に思った。ディスカッションの時間はほんの少しの2、3分しかなかったが、財政大学の学生たちから1つ質問を聞かれた。それは、ベトナムの格差問題を生む原因の中でどの原因が最も重大なのか、という質問であった。一見とても簡単で当たり前だと思われる質問だったが、我がグループはそれに対してどう答えるかわからなかった。たぶん質問に答えられるようにするには、我がグループはまず時間を取って全員で討論する必要があったであろう。なぜなら、我々がプレゼンで挙げた格差の原因と財政大のプレゼンで挙げられていた格差の原因はそもそも異なったものであり、ベトナムの格差問題には実はこれほどたくさんの原因が潜んでいたと気付いたからである。加えて、多くの原因の中で、何が格差の現状に最も影響を与えたのかを考えたことはなかったからであろう。ゆえに、私はこの質問によって、より深くベトナムの格差問題を考えさせられて、とてもよかったと思う。やはり、自らどこまで調べたとしても、他人のインプットがあれば、マルチプライア効果のおかげで多くのものを得られるのではないだろうか。

上述のように、ディスカッションをする時間はあまりなくて残念だったが、その後の交流会はとても楽しかった。財政大学の学生たちはみんな元気で、学校からランチの場所までバスに乗って行ったが、彼らはバスに乗ってすぐにベトナムの歌を大きな声で歌った。それから、ベトナム人の学生は母語が全く英語ではなかったのに、英語という外国語で私たちに必死に話しかけた。私は本当にこのような積極さに、ただただ感心の気持ちを持つばかりだった。そして、お昼の場所はとても豪華なバイキングレストランで、ベトナム料理はもちろん、日本料理も含めて様々な料理が揃っていた。美味しい料理を食べながらベトナムの学生たちと会話したり写真を撮ったりした。初対面だったことに加えて、言語の障壁もあったため、私たちは無論それほど深い話はできなかった。しかし、私にとっては、このようにベトナムの学生と交流するのは全く初めてなので、今回の経験はとても貴重な機会だと感じている。

最後に、お土産についての話だが、私たち日本人学生はハノイに行ったのに有名なハーロン湾に行けなかったが、財政大学側からはハーロン湾の風景が描かれているとてもきれいな絵をいただいた。また、私たちがさしあげたおみやげもベトナム人の先生と学生に気に入っていただいていた。本当によかったと思う。今回の勉強会と交流会を通じて、ベトナムの生徒たちと一緒に楽しい時間を過ごし、完全に元気づけられたと思った。

学生交流レポート



The Income Gap in Vietnam

2012 Summer Training Program in Vietnam
Hitotsubashi University
September, 13, 2012

Ayano Kataoka, Aki Nakagawa, Emily Lek,
Tatsunori Naka, Tomoyasu Horibe

1

Background of the Income Gap in Vietnam

Before 1976

South Vietnam -Capitalism

North Vietnam -Socialism

→The cause of the difference in economic development between the North and the South

After North-South unification in 1976

Vietnam implemented socialist policies of “a society in which people share poverty”



▶ 2

Background of the Income Gap in Vietnam (cont.)

In 1986, the Vietnamese government adopted Doi Moi reforms and steered the economy towards the free market system

→Remarkable improvement of people’s living standards

→Revelation of serious social problems (economic disparity, corruption of officials etc.)

The South led in economic development, taking advantage of its experience in capitalism

—The attainment of personal wealth as the first step to social prosperity

▶ 3

Table of Contents

I. The Current Situation of Income Gap in Vietnam

II. Causes of Income Gap in Vietnam

II-1. Education

II-2. Vocational Training

II-3. Ethnic Minorities

II-4. Industrialization-centered Development Strategy

II-5. Concentrated flow of FDI into Urban Areas

II-6. Barriers to the Domestic Mobility

III. Measures Taken by the Vietnamese Government

III-1. Large-scale Infrastructural Development

III-2. Industrializing Rural Areas

III-3. Tourism-related Measures

III-4. Improving Education

III-5. Microfinance

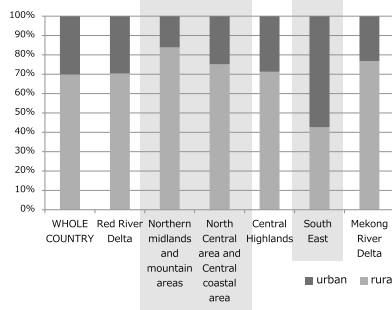
IV. Conclusion / Discussion Topics

V. References

▶ 4

I. The Current Situation of Income Gap in Vietnam

Urban/Rural Population by Region



▶ 6

(General Statistics Office of Vietnam)

5

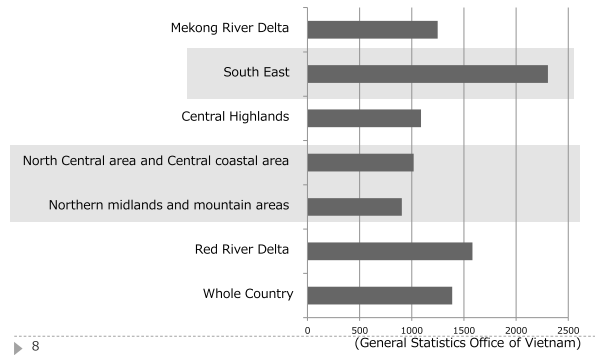
Disparity between Rural and Urban Areas (2010)

	Monthly average income per capita	Monthly average consumption expenditure per capita	General poverty rate
Whole Country	1,387	1139	14.2
Urban Areas	2,130	1726	6.9
Rural Areas	1,071	891	17.4

▶ 7

(General Statistics Office of Vietnam)

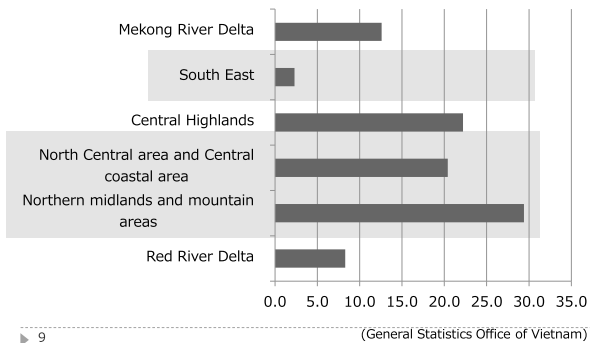
Monthly Average Income per Capita by Region (2010)



▶ 8

(General Statistics Office of Vietnam)

General Poverty Rate by Region (2010)

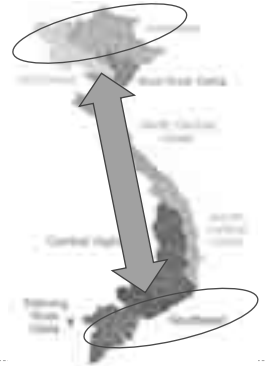


▶ 9

(General Statistics Office of Vietnam)

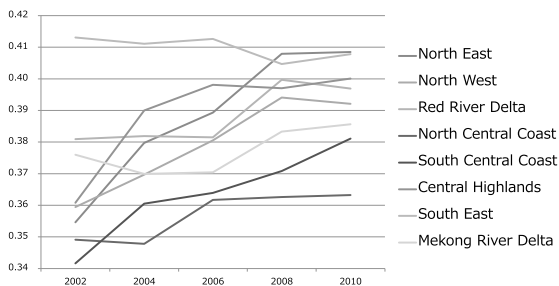
Regional Gaps in Vietnam

- ▶ Gaps between the Northern areas and the Southeast region are noticeable
- ▶ People from the North mainly live in rural areas, while people in the Southeast region mainly live in urban areas



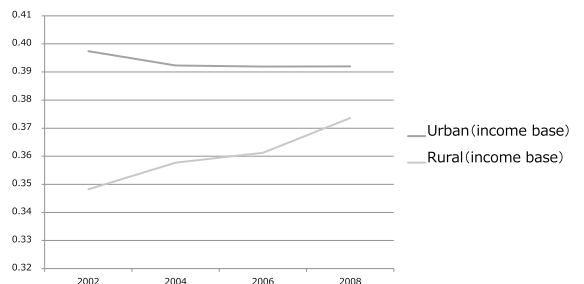
▶ 10

GINI Coefficient by Region



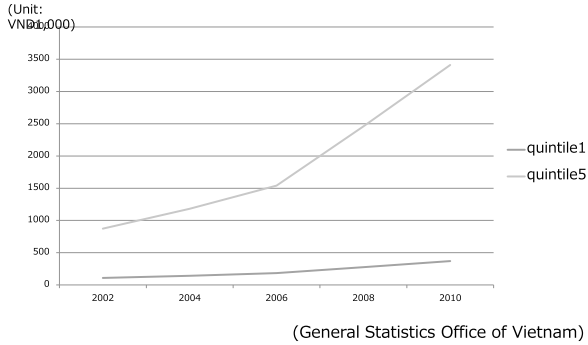
▶ 11

GINI Coefficient between Urban and Rural



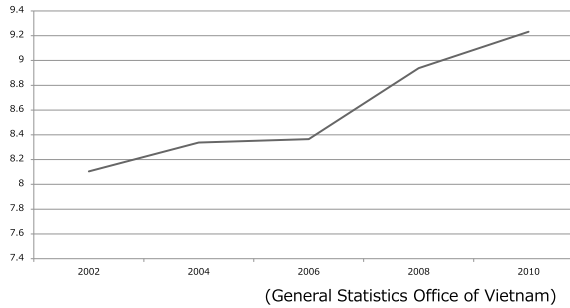
▶ 12

Monthly Income per Capita



▶ 13

Monthly Income per Capita quintile5/quintile1



▶ 14

In View of the Current Situation...

- ▶ Vietnam has achieved rapid economic growth, but income inequality has also increased at the same time.
- ▶ In the next chapter, we will examine the causes of Vietnam's income inequality from the following six viewpoints:
 1. Education
 2. Vocational Training
 3. Ethnic Minorities
 4. Industrialization-centered Development Strategy
 5. Concentrated Flow of FDI into Urban Areas
 6. Barriers to the Domestic Mobility

▶ 15

II-1. Education

Causes of Income Gap in Vietnam (1)

16

Education in Vietnam

5-4-3 schooling system

**Compulsory education
elementary school &
junior high school**

School attendance rate

Elementary school 94.8%
Junior high school 83.8%
High school 54.7%
University/College 20%



(General Statistics Office of Vietnam 2009)

⇒ School attendance rate is rising on the whole.
⇒ But there are disparities in the quality of education according to the differences in incomes, ethnicities and regions.

▶ 17

Number of the Schools by Regions (2009)

Regions	Elementary School	Junior High School	High School
The Whole Country	15,172	10,064	2,267
Urban Areas in the North	2,715	2,426	599
Mountainous Areas in the North	2,843	2,315	397
North Central	3,798	2,542	567
Central Highlands	1,137	671	152
Urban Areas in the Southeast	1,488	729	216
The Mekong Delta	3,191	1,381	336

▶ 18

(General Statistics Office of Vietnam)

Education Policies of Vietnam

After the Doi Moi reforms in 1986, education has been considered important for the national development.

- ▶ Adoption of the policy of **"Education for All(1990)**
School attendance rate of elementary education: 95%
Literacy rate: 90%
→ Quite high figures compared with other developing countries
- ▶ Establishment of **"The Law for the Universalization of Primary Education" (1991)**
- ▶ Establishment of **"The Law of Education" (1998)**
→ Emphasis being put on the literacy education and continuing education.
- ▶ Pledging to **"Dakar Framework for Action"** adopted at UNESCO's World Education Forum (2000)
→ Ensuring that by 2015 all children have access to, and complete primary education of good quality
→ Eliminating gender disparities in education and achieving gender equality in education by 2015.

▶ 19

Improvements Brought by the Various Education Policies

Reduction in the disparity of school attendance by regions

In the early 1990s:
The maximum gap in the school attendance rate: 30% (between the Red River Delta and the Northwest Highlands)
→ The largest gap reduced to 9% by 1998.

Achievement of gender equality in education

Disparity in school attendance rate by genders: mere 1%
"The Educational Development Strategic Plan" (2001) reports—

- Diversification of educational form
- Rise in the school attendance rate
- Improvement of school facilities

➡ However, some problems are still left unsolved.

▶ 20

Remaining Regional Disparities in Education between Urban and Rural Areas

- ▶ **Lower school completion rate in the Northern regions and the Central Highlands**
→ Lack of the educated labor force in these regions
- ▶ **Adoption of two- to third-shift system at the schools in mountainous and rural regions due to poorly-equipped school facilities**
→ Difficulties in securing appropriate length of class hours at school in these regions
- ▶ **Costly examination fees for high schools**
→ Difficulties for the poor in entering high school
→ Difficulties in raising the average income of the poor (The poor with no access to education cannot escape from poverty.)
- ▶ **Lack of awareness of the necessity of attending elementary and junior schools in agricultural districts**

▶ 21

Remaining Regional Disparities in Education between Urban and Rural Areas (cont.)

Heavy burden of expensive school fees

- Disparity in educational cost between urban areas (the Southeast) and rural areas (the Northern regions)
- Economic barrier = Educational barrier for the children of the rural poor to school attendance
- Inaccessibility to education among the poor hinders them from developing into capable personnel and earning a higher income.

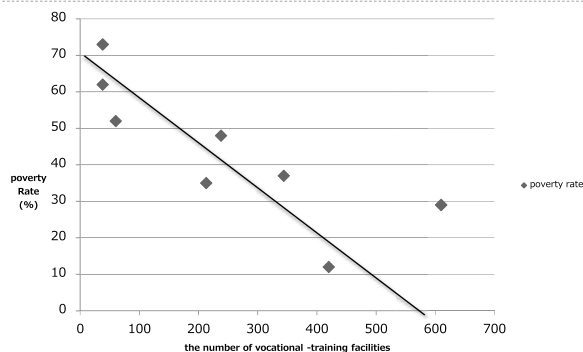
▶ 22

II-2. Vocational Training

Causes of Income Gap in Vietnam (2)

23

Relationship between Vocational Training and Poverty Rate (2009)



▶ 24

(Overseas Vocational Training Association)

Vocational Training and the Income Gap

- ▶ There is a relationship between the number of vocational-training facilities and the poverty rate.
- ▶ The school attendance rate of vocational-training facilities increased by 1.8 times from 1997 to 2000.

However

- ▶ The shortage of the number of the vocational schools is obvious particularly in rural areas.
- ▶ The percentage of those who have received some kind of vocational training is much lower in rural areas than in urban areas.
→ The high cost of vocational training constitutes a serious barrier.

Provision of more vocational training facilities in rural areas is an urgent task.

▶ 25

II-3. Ethnic Minorities

Causes of Income Gap in Vietnam (3)

26

The Ethnic Composition of Vietnam (1999 Census)

- ▶ **Majority : Kinh 85.7%**
- ▶ **Other ethnic groups (53 minor groups):**
 - Thai and Tay ... 3.7%
 - Hoa ... 3 %
 - Muong ... 1.5%
 - Khmer ... 1.5%
 - Hmong ... 1.2 %
 - Nung ... 1.1%
 - Others ... 5.3%

CIA , The world Factbook 2008.11.18

▶ 27

Ethnic by Regions

Regions	Poverty Rate	Rate of Minorities	Rate of the Non-natives of Vietnamese
The Red River Delta	29	1	0
Northeast Region	62	34	8
Northwest Region	73	78	22
North central Region	48	11	3
Central Coast	35	5	2
Central Highlands	52	26	8
Southeast Region	12	8	2
The Mekong Delta	37	6	1
National Average	58	13	3

▶ 28

(World Bank 2001)

Ethnic Minorities and the Income Gap

	Ratio of minorities to the regional population	Average monthly income of the unskilled workers (2004) (1,000 VND)
The Red River Delta (excluding Hanoi)	1 (%)	607
The Northeast	34	581
The Northwest	78	575
The North Central	3	590
The Central Coast	2	640
The Central Highlands	26	620
The Southeast (excluding Ho Chi Minh)	8	713
The Mekong Delta	6	645
Hanoi	1	690
Ho Chi Minh	8	830

▶ 29

(Overseas Vocational Training Association)

Ethnic Minorities and the Income Gap (cont.)

- ▶ **Average income in the North and the Central Highlands is relatively low**
- ▶ **Ethnic minorities have conservative values**
e.g.) Indifference to education (Prejudice against the education of women, in particular)
- ▶ **Vicious circle of poverty and inaccessibility to education**
Ethnic minorities = reluctant to bear heavy educational expenses (in proportion to their low incomes)
→ Loss of opportunities to receive adequate education
→ Fixed in the life on low incomes
- ▶ **Students from the families of the ethnic minorities face language barriers**
- ▶ **Suffering of the farmers of ethnic minorities**
The prices of their agricultural products are vulnerable to the volatile international market.

▶ 30

II-4. Industrialization-centered Development Strategy

Causes of Income Gap in Vietnam (4)

31

Industrialization-centered Development Strategy

- ▶ Industrialization has long been identified as a key booster of Vietnam's economic growth
 - Less attention has been given to the agricultural sector
- ▶ The manufacturing industry has been protected against the trade liberalization more heavily than the agricultural industry

▶ 32

Industrialization-centered Development Strategy (Cont.)

- ▶ **Effective rate of protection*
 - *measures the real amount of protection afforded to a particular industry by import duties, tariffs or other trade restrictions*
 - 13% for the agricultural industry
 - 80% for the manufacturing industry
- ▶ Exporters of manufactured goods receive preferential tax treatment, while agricultural exporters do not.
 - e.g.) Exemption from value-added and special sales tax, lower tax rate on profits etc.

▶ 33

II-5. Concentrated Flow of Foreign Direct Investment (FDI) into Urban Areas

Causes of Income Gap in Vietnam (5)

34

Concentrated Flow of FDI into Urban Areas

- ▶ Higher quality of infrastructure, labor etc. in urban areas than in rural areas
 - Return on investment is expected higher in urban areas.
 - As a natural consequence, FDI tends to flow into urban areas, which are inherently more affluent than rural areas.
- ▶ FDI promotes the expansion of employment.
 - Average income of urban residents grows still higher.
 - This causes a still greater income inequality between the urban and rural areas.

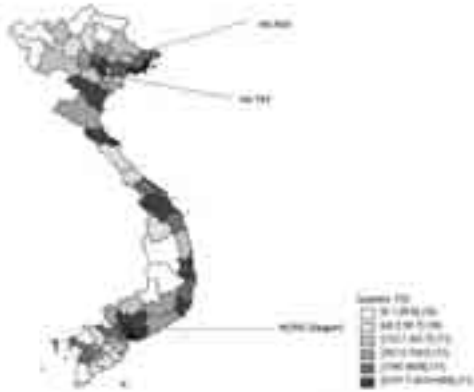
▶ 35

Concentrated Flow of Foreign Direct Investment (FDI) into Urban Areas

- ▶ In our view—
 - the disproportionately larger flow of FDI into urban areas has resulted from the disparity in the quality of education between the two areas.
- ▶ Disparities in education quality
 - Labor force in urban areas are expected to provide the labor of higher quality
 - FDI tends to be concentrated in urban areas (Differences in the flow of FDI between urban and rural areas)

▶ 36

Figure 1 Provincial distribution of cumulative FDI in Vietnam in 2009 (million of US\$)



37

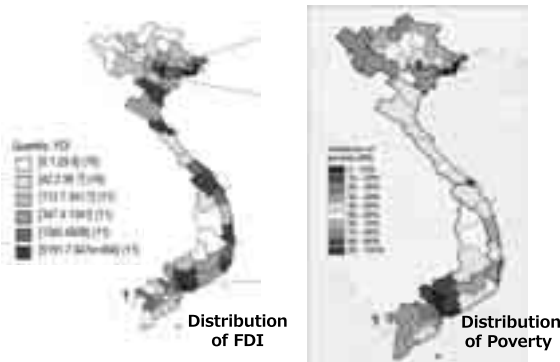
Table 2 Top ten Vietnamese provinces with registered FDI in 2009 (million of US\$)

Region	Province	Registered FDI	Share to Total FDI
South East	Ho Chi Minh	3093.4	14%
South East	Ho Chi Minh	2250.2	11%
Red River	Ha Noi	2250.0	11%
South East	Dong Nai	1705.1	8%
South East	South Dong	1314.6	6%
North Central and Central Coastal	Thanh Hoa	1037.9	5%
North Central and Central Coastal	Da Nang	894.3	4%
North Central and Central Coastal	Phu Yen	860.8	4%
North Central and Central Coastal	Thanh Hoa	794.3	4%
North Central and Central Coastal	Quang Nam	519.5	2%
Total		14917	60%

Source: Own calculation based on data from the General Statistics Office (GSO) of Vietnam.

▶ 38

Comparing FDI inequality and Income Inequality



▶ 39

II-6. Barriers to the Domestic Mobility

Causes of Income Gap in Vietnam (6)

40

Barriers to the Migration from Rural to Urban Areas

- ▶ Under Vietnam's household registration system, people can receive public services (e.g. healthcare and education) only in the municipal district where they are legally registered as its residents.
- ▶ Residents in rural/farming areas have to take one of the two options:
Either to give up moving out from their native districts,
or to move into urban areas and pay higher cost of public services out of their own pockets.

▶ 41

Barriers to the Migration from Rural to Urban Areas (Cont.)

- ▶ If many of the rural residents give up seeking for a higher-paying job in cities and remain in their native districts—
→ The income inequality between the urban and rural areas will not be reduced.
- ▶ These barriers to mobility from rural into urban areas have also brought about a gap in the employment opportunities:
Difficulties of the migration
→ Residents in rural areas are deprived of the opportunity of finding jobs in the urban industries.

▶ 42

Causes of Income Gap in Vietnam

(A Review)

- ▶ In this chapter, we have examined the causes of Vietnam's income inequality from these viewpoints:
 1. Education
 2. Vocational Training
 3. Ethnic Minorities
 4. Industrialization-centered Development Strategy
 5. Concentrated flow of FDI into Urban Areas
 6. Barriers to the Domestic Mobility

▶ 43

Measures Taken by the Vietnamese Government (Topic of the Next Chapter)

- ▶ In the next chapter, we will examine the measures that the Vietnamese Government have taken so far to solve the problem of income gap from the following viewpoints:
 1. Large-scale Infrastructural Development
 2. Industrializing Rural Areas
 3. Tourism-related Measures
 4. Improving Education
 5. Microfinance

▶ 44

III-1. Large-scale Infrastructural Development

Measures Taken by the Vietnamese Government (1)

45

Large-scale Infrastructural Development

- ▶ Under CPRGS (2003), the government emphasized the effectiveness of the large-scale infrastructural development in reducing poverty
- ▶ Development of transportation infrastructure can attract FDI
e.g.) Construction of Hanoi-Hai Phong Corridor
 - The two cities being linked, an easier access to the international market in Hanoi has become available.
Expansion of the industrial parks and further industrialization in the North were achieved.
- ▶ This improvement in transport has brought benefits to the rural villages by making a convenient access to the urban markets and educational opportunities available.

▶ 46

III-2. Industrializing Rural Areas

Measures Taken by the Vietnamese Government (2)

47

Nurturing Traditional Industries in Rural Areas

- ▶ Rice and coffee prices fell in the late 1990s
→ The government began promoting the development projects for the non-agricultural sectors in rural areas
- ▶ These projects aim to develop traditional handicraft industries and increase their export competitiveness
→ increase in rural incomes
e.g.) Bat Trang village (ceramics), handicraft villages in the Ha Tay province (silk fabrics etc.)

▶ 48

Toward the Industrialization of Rural Areas

- ▶ Other than handicrafts, local industries such as food processing are currently growing
- ▶ This gives ethnic minorities and females technical training opportunities as well as chances to earn extra, non-farming income
- ▶ In order for local industries to grow, it is necessary for the government to offer support, such as expanding credit frameworks

▶ 49

III-3. Tourism-related Measures

Measures Taken by the Vietnamese Government (3)

50

Craft Tourism

- ▶ To experience farm life and learn the traditional and cultural values of it
- ▶ Connection of traditional crafts industries with the tourism business
- ▶ In the Tourism Development Strategy for 2010, the government decided to invest in preserving traditional culture for tourism promotion

▶ 51

Number of the Tourists to Vietnam

2007	2008	2009	2010	2011 (Year)
4.17	4.25	3.77	5.04	6.01 (million people)

Source: The Tourist Association of Vietnam

▶ 52

Advantages of Craft Tourism

- ▶ Reduces poverty in mountainous and farming areas
- ▶ Protects Vietnam's traditional handicrafts industry
- ▶ Creates employment opportunities and prevents population decreases in rural areas

▶ 53

Vietnamese Tourism Industry: Problem 1

- ▶ Vietnam's tourism industry still requires further development, especially in the face of tough competition with Thailand and Malaysia

	Rate of Repeated Visits	Period of Stay
Vietnam	30~40%	4~6 Days
Thailand and Malaysia	60~70%	7~10 Days

▶ 54

Comparison of the Number of Tourists to ASEAN Countries

	2002	2003	2004	2005	2006
Malaysia	13.29	10.58	15.71	16.43	17.55
Thailand	10.87	6.90	8.50	11.52	13.82
Singapore	7.57	6.10	8.30	8.94	9.70
Indonesia	5.03	4.30	5.32	4.88	4.87
Vietnam	2.63	2.40	2.93	3.47	3.60

▶ 55

(Unit: million people)

Vietnamese Tourism Industry: Problem 2

- ▶ Imbalance between coastal areas and mountainous areas. 70% of Vietnam's tourist attractions are centered in coastal areas, which attract 80% of tourists to Vietnam. Craft tourism, therefore, does not significantly help to reduce inequality

▶ 56

III-4. Improving Education

Measures Taken by the Vietnamese Government (4)

57

National Strategy 2010

- ▶ To increase school attendance from 95% to 99%
- ▶ To shift from a half-day to a full-day school system primarily in local areas

▶ 58

Toward Educational Improvement in Vietnam: Problem 1

- ▶ Lack of classrooms. Each commune has to pay for the costs of building new classrooms, leading to disparities between communes

	Wages	Actual working hours
Half-day system	A day's wage	Half a day
Full-day system	A day's wage	A whole day

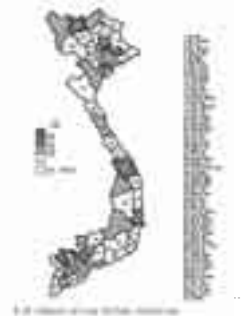
Teachers do not receive extra income under full-day systems
→ They have no incentive to work longer

▶ 59

Full-day Schooling System Statistics

Percentage of schools adopting the full-day school system

Over 80%	7 provinces
50~80%	5 provinces
20~50%	11 provinces
Below 20%	13 provinces



▶ 60

Toward Educational Improvement in Vietnam: Problem 2

- ▶ Education of teachers
- ▶ Teachers do not want to teach at local areas because wages are low and there are few moonlighting opportunities
 - Few teachers are transferred to local areas
- ▶ Few regular training systems for teachers

▶ 61

III-5. Microfinance

Measures Taken by the Vietnamese Government (5)

62

Microfinance

- ▶ A small loan for people who cannot borrow money from traditional credit sources because they are poor.
- ▶ The Vietnam Bank for Social Policies was established in 2003 with the aim of providing microfinance to the poor.
- ▶ Loans are given to groups of 5~50 people who live in the same village

▶ 63

Problems with Microfinance

- ▶ The free rider problem is more serious for groups, as compared to individuals
- ▶ Some people resort to borrowing money from other credit providers to pay back their microloans
 - As the number of microfinance organizations increases, borrowers lose the incentive to return their loans
 - The rate of default rises
- ▶ The poor need to be taught to earn money and become independent
- ▶ Microfinance is only a temporary support measure for people with limited ability. Worse, it makes them borrow more money than before
 - Ineffective

▶ 64

Outstanding Problem with Microfinance

- ▶ The problem of institutional barriers to domestic mobility still remains

▶ 65

IV. Conclusion/Discussion Topics

66

Conclusion

- ▶ Vietnam has regional income gaps, especially between the southern region and the northern region.
- ▶ The income gaps are caused mainly by education gaps, lack of vocational training in rural areas, ethnic problems, concentrated flow of FDI into urban areas, and barriers to the domestic mobility.
- ▶ The Vietnamese Government is taking various measures to reduce inequality, but they are not sufficiently effective.

▶ 67

Discussion Topics

- ▶ What should be done to achieve comprehensive or holistic development?
- ▶ How can we improve the efficiency of these projects?
- ▶ Do you have any project ideas which can help to solve the issue of inequality?

▶ 68

V. References

69

References

- ▶ 香川広海「ベトナムのドイ・モイ後の経済格差の拡大とその要因」『現代社会文化研究No.34』(2005、新潟大学)
- ▶ General Statistics Office of Vietnam <http://www.gso.gov.vn/>
- ▶ Thi, C. and Takahiro, A. 2008. *Urban and Rural Dimensions of Income Inequality in Vietnam*. International University of Japan
- ▶ Esiyok, Bulent and Ugur, Mehmet. 2011. *Foreign direct investment in provinces: A spatial regression approach to FDI in Vietnam*. University of Greenwich
- ▶ Weeks, J., Nguyen T., Rathin R. and Joseph L. 2003. *The Macroeconomics of Poverty Reduction: The Case Study of Vietnam*. Kathmandu: United Nations Development Programme
- ▶ 2010. *Internal Migration and Socio-economic Development in Vietnam: A Call to Action*. Hanoi: United Nations Population Fund

▶ 70

References (cont.)

- ▶ *The Comprehensive Poverty Reduction and Growth Strategy*(2003, Hanoi)
- ▶ 出井富美「ベトナム農村工業化政策の展開—アンザン省の事例を中心に—」『移行期ベトナムの産業変容：地場企業主導による発展の諸相』(2006、アジア経済研究所)
- ▶ 「経済成長から貧困削減へ：ベトナムの貧困削減成長戦略における大規模インフラの役割」(2003、政策研究大学院大学開発フォーラム)
- ▶ 齋藤みを子「ベトナム小学5年生の男女格差とEFA—2001年のベトナム調査の結果より—」『国際教育教育論集 第10巻 第2号』(2007、広島大学教育開発協力研究センター)
- ▶ 日本貿易振興機構「BOPビジネス 潜在ニーズ調査報告書 ベトナム：教育・職業訓練分野」(2011、日本貿易振興機構)

▶ 71

References(cont.)

- ▶ 国際協力銀行「貧困プロフィール要約 ベトナム社会主義共和国」(2001)
- ▶ 杉村美紀「ベトナムにおける基礎教育普遍化への取り組み—質的拡充と女子教育の格差是正—」(2004、上智大学)
- ▶ 潮木守一『初等教育の普遍化戦略に関する事例研究——ベトナムの事例——』(Strategy of Education in Vietnam)(2006)熊本大学『ベトナムにおけるクラフト・ツーリズムと地域開発』(Craft tourism and local development in Vietnam)(2009)

▶ 72

～交流後の所感～

(A description of the student's impressions from the Academy of Finance)

Actually, your slides and presentation left a strong impression on me. You researched 2 topics very carefully. All figures and information that you provided were detailed and valuable. Via the seminar, we knew well about the problems that my country was coping with and the solutions we discussed are very useful. I wish we could have more time to discuss the problems.

In addition, I had an interesting talk with you! I heard about culture and great things about Japan such as Mt. Fuji, ninjas, samurai, the J-league... I love all of them. If you had had more time, I would have taken you to visit Hanoi and introduced the culture of Vietnam. I wish I could visit Japan and go to your university. Thank you for all that you've done!

-- Hoàng Hoàì Nam

The seminar between Hitotsubashi University and Academy of Finance is really an interesting experience. We talked and shared many things although we come from different countries and use different languages. Everyone was friendly and the smile is a language that all of us can understand. However, in this seminar, Vietnamese students know little about Japan because we studied the same topics – environment and income inequality in Vietnam – and there wasn't any information about Japan, unfortunately.

I hope many programs like this activity will be held between our two countries. We will understand other more. Learning and keeping nice memories are wonderful.

-- Phạm Thị Thu Trang

In my opinion, what you've done is good but I hope to learn more about the experience of your country than ours. For example, how my country can handle those problems in the case of lack of technology, money etc. Besides that, I wish we had a couple more days together so I could hang out with all of you and have more discussion time and greater memories.

Lastly, I want to say thank you for your presentation. Well done!

-- Trần Bảo Trung

First impression: The thing that I haven't forgotten since I saw you at first was that most of you stood behind your seats until the MC spoke or our professor finished the greeting.

Your presentation: Actually, we read your presentation one day before we started our seminar. It was interesting that you got data from the General statistics Office of Viet Nam, because I thought that you would take data from Japanese websites. That was very detailed and logical. But, I only didn't understand why we just talked about Vietnam. I wanted to talk about Japan too because we wanted to learn about Japan's experiences. The difference was when you presented your research; you divided roles for each person to present their own part. But we chose one person who had the best English voice to read. I thought each way had its own advantages. But, with our way, the rest of the members missed the chance to present, and with your way, please forgive me if I say that some members had a Japanese accent when speaking English. Anyway, this was a science seminar so we didn't need wonderful English skills, right? (I and some of our members also spoke English badly).

Having lunch: It was a pity that there weren't much traditional food to introduce to you. But you ate very little, was the food not tasty? Or was that enough for you? You are very friendly and have open hearts. Sometime I couldn't express my thoughts in English totally but you were still patient and encouraged me.

Anyway, I hope you had many nice memories and experiences in Viet Nam. Do come back again- we all are looking forward to seeing all of you again.

-- Nguyễn Thị Minh Huệ

I'm really happy that all of you came to Academy of finance! You left a deep impression on me. I can see your professionalism! You live in Japan but you do know about Viet Nam and can show us the problems of Viet Nam. I really like it!

I think students in the world are the same. We are enthusiastic, very fun and dynamic!

At lunch, I wanted more time to talk but we only had 2 hours! The atmosphere at lunch was very friendly and happy!

Also, I can understand more about Japanese students now! Thank you so much! You are very welcome to visit Viet Nam again!

-- Đinh Trọng Nghĩa

I have some opinions about our seminar:

- Your presentations were full, and most principal contents were mentioned. After the seminar, I read your slides again and it was easy to understand. I think your group had to work hard for a long time.
- The time for discussion was too short so we were still confused and couldn't discuss about most of the problems.
- Regarding lunch, I had a great time at lunchtime. You are friendly and good at English too. At lunch, I could chat with you a lot and very comfortably. My friends told me they had a happy and interesting lunch with you.
- I have some suggestions: my and your university should hold more seminars like that every year. And two universities could create more chances for us to take part in each other's cultural programs or volunteer activities together. This would be very helpful.

-- Dinh Quang Trung

ABOUT THE ACADEMY OF FINANCE, VIETNAM

財政大学はベトナムの財政省の下での学校であり、Hanoi University of Finance Accounting（1963年設立）、the Finance Research Institution（1961年設立）と the Financial Training Center（1995年設立）を統合させた結果である。現在、財政大学はハノイに本部を設置しており、ホーチミンとダナンにも支部がある。

財政大学の役割は、大学及び大学院レベルで金融・会計専門の人材を育成すること、そして全国において金融・会計職の公務員への教育および再教育プログラムの提供である。また、金融・会計の分野での学術研究と管理手法・技術の普及もその役割の1つである。

財政大学には、380人の教授・講師を含めて約600人の職員が勤めている。現在、180人の大学院生と約2000人の大学生を教育している。学部は国際金融や公共ファイナンスなど合わせて8学部がある。

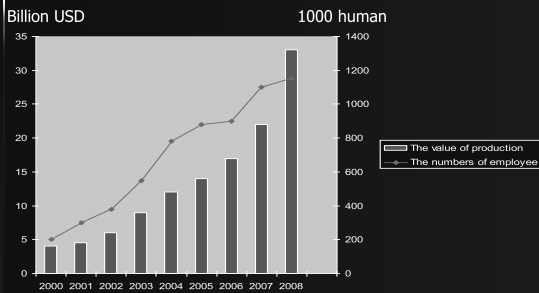


INDUSTRIAL PARK AND POLLUTED ENVIROMENT

1. The advantage of industrial park

- Promotes modernization and industrialization
- Develops technology and science
- Develops service
- Promotes skill of worker, decrease in rate of unemployment
- GDP and Income of people will be increase

The growth of production and the numbers of employee on industrial park from 2000 to 2008



2. The status of pollution on industrial park

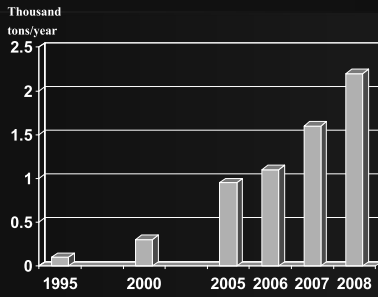
- At the beginning of Innovation process, because of the priority to developing economy as well as limited awareness, We didn't fully appreciate the importance of environmental protection.
- Resulting in pollution became progressively widespread and serious. One of the main pollution sources is the manufacturing activities of factories in Industrial zones.

- There are about **70% of over 1 million m3** of wastewater that from industrial zones directly pour into environment without any treatment. 57% operating industrial zones don't have centralized wastewater processing system.
- This is alarming number about environmental of Vietnam 's industrial zones. Each industrial area produces 30000 billion of solid waste, liquid waste, exhaust fumes and other toxic waste.. per day on

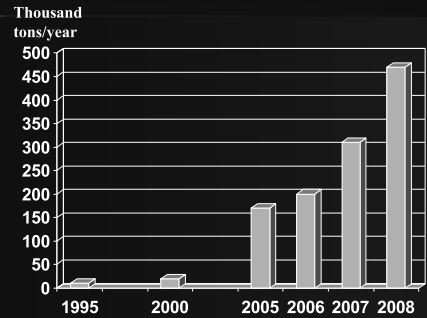
2.1 Solid wastes

- Wastes from industrial areas have a tendency to increase in recent years. The total amount of solid wastes have increased from 25,000 tons / day in 1999 to about 30,000 tons / day in 2005, and amount of solid wastes from industrial activity have also increased. Solid waste volume increased significantly, along with the increase in the proportion of hazardous waste. The majority of hazardous waste is arising from industrial activities.

Estimated volume of solid waste generated in the industrial zone.



Estimates volume of hazardous waste generated in the industrial zone.



Forecast the volume of solid waste generated from the industrial park south 2020

Number	Province/City	Unhazardous volume (tons / day)	Hazardous volume (tons/ day)
1	Dong Nai	1.301	325
2	Binh Duong	1.313	328
3	Ho Chi Minh City	1.313	328
4	Long An	1.696	424
5	Binh Phuoc	833	208
6	Ba Ria – Vung Tau	1.472	368
7	Tay Ninh	91	23
8	Tien Giang	80	20
9	11 provinces of DBSCL (unless Long An, Tien Giang)	1.469	367
Total		9.568	2.391

2.2 Emissions

- Air pollutants from industrial districts are discharged by two origins: burning fuel process to provide energy for production process and leak of pollutants in production process. Each line of production discharges specific emissions for each category technology.
- It's very difficult to determine all sort of air pollutant

- Emission trend changes is extended trend. Forecast, total of national SO2 emission will reach 5,000,000 kg/day in 2015 and 6,000,000 in 2020.
- These are alarming numbers that require authorities to resolve early.

- Harm of emissions for environment and human life is serious. It's main agent that cause acid rain, environmental damage, phenomenon dust mist in industrial districts.
- It causes respiratory disease, eye pain...there are many chemicals in emission are cause of green house effect, damage ozone layer.

2.3 Waste water

- Water sources pollution now is a serious issue of social. One of main sources contaminates environment is the waste water from industrial zones that discharges into environment without treatment
- About 70% of more than 1 m³ waste water per day from industrial parks is discharged directly into receiving sources without treatment, which pollutes salty water sources

- Increase in waste water from industrial areas in recent years is huge. The growth rate is higher than increase in the total amount of waste water from fields in the country

Estimate of total amount of waste water and pollutants in waste water from industrial zones of 4 key economic regions in 2009

Regions	Amount of waste water (m ³ /day)	Total amount of pollutants (kilograms/day)				
		TSS	BOD	COD	Total nitrogen	Total phosphorus
Northern key economic region	155,055	34,112	21,243	49,463	8,933	12,404
Central key economic region	58,808	12,937	8,057	18,760	3,411	4,705
Southern key economic region	413,400	90,948	56,636	131,875	23,977	33,072
Mekong Delta key economic region	13,700	3,014	1,877	4,370	795	1,096
Total	640,963	141,012	87,812	204,467	37,176	51,277

- Impact of untreated waste water is very enormous. Along with domestic sewage, waste water from industrial parks contributes to make pollution of rivers, lakes, canals more seriously.
- The places that receive waste water from industrial zones are polluted very badly, many places have water sources which are not used for any other purpose. The situation does not happen in lower section of rivers, but also spreads to upper section of ones such as valleys of Dong Nai, Nhue, Day, Thi Vai rivers.
- According to development of industrial zones, forecast total amount of waste water from industrial parks in the country in 2015 will get 2 millions m³ per day and up to 2.4 millions m³ per day in 2020.

3. Existed problem and the reasons

3.1 Existed problem

- Compliance of business with laws is weak. Many businesses execute no strictly regulations of government about environmental protection.
- Handling of pollutants in many industrial districts isn't executed strictly that affect to natural environment and habitat of people who live around districts
- Regulations system about environmental exist many insufficient. Checking and inspecting mission aren't organized frequently

3.2 The reasons

- Human resource is weak and scarce, the environmental protection consciousness of investors and businesses in the industrial park is still restricted.
- Industrial zones are not planned synchronously with the waste treatment areas
- That some industrial zones only focuses on attracting investment projects makes environmental protection be out of concern

- The national management system of environmental protection has been loose and weak, in addition, it has not yet satisfied the requirements of industrial zones' development.
- The combination of Central Office (The Ministry of Resources and Environment, The Ministry of Planning and Investment) and Local Office (The industrial park management, The Resources and Environment Department, Environmental police) has not been regular and close.

- The legal documents system of environmental management has not been incomplete, the deployment of management tools has not been really effective.
- There are environment offices in industrial park managing department, nevertheless, they still lack of modern equipments and good tools to detect mistakes created in environmental protection. Otherwise, according to the law of administrative violation punishment, that the industrial park managing department has no right to fine administrative violation reduces the environmental management process effect.

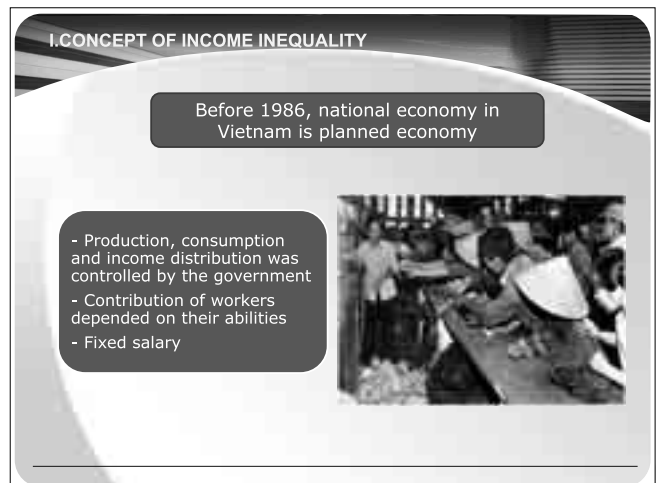
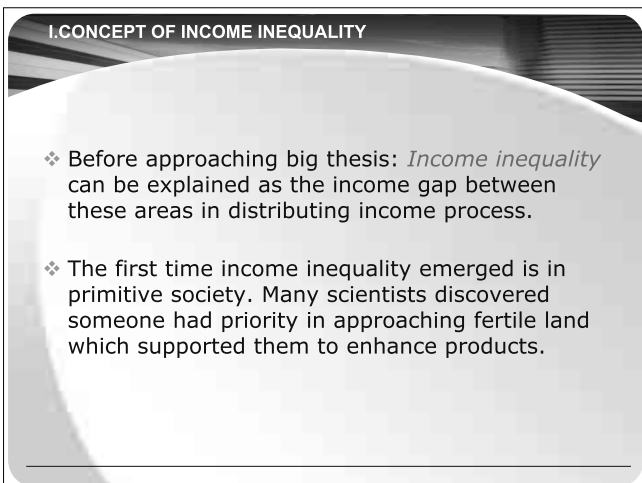
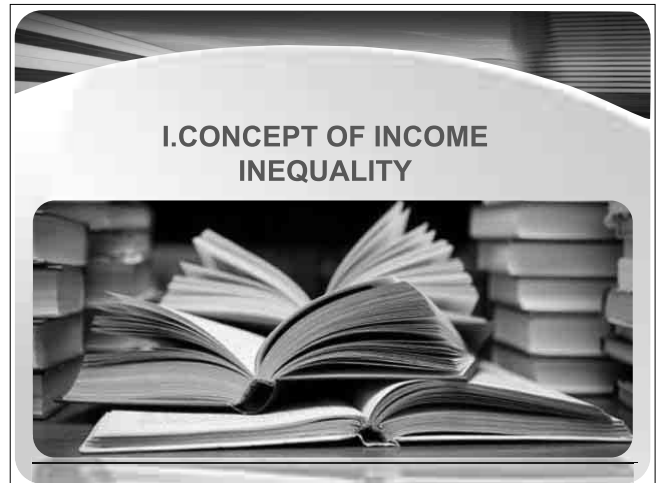
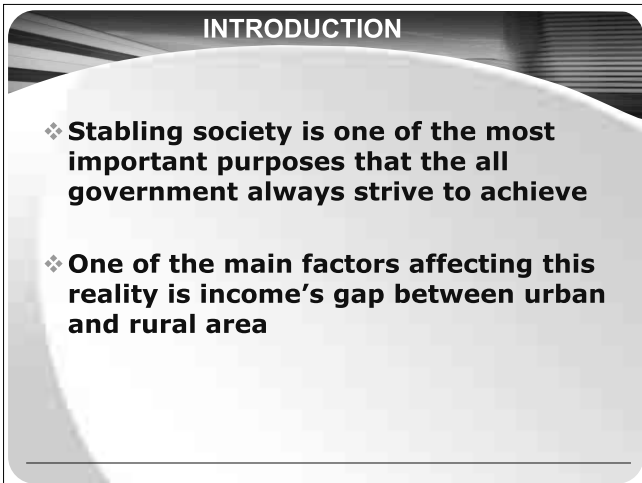
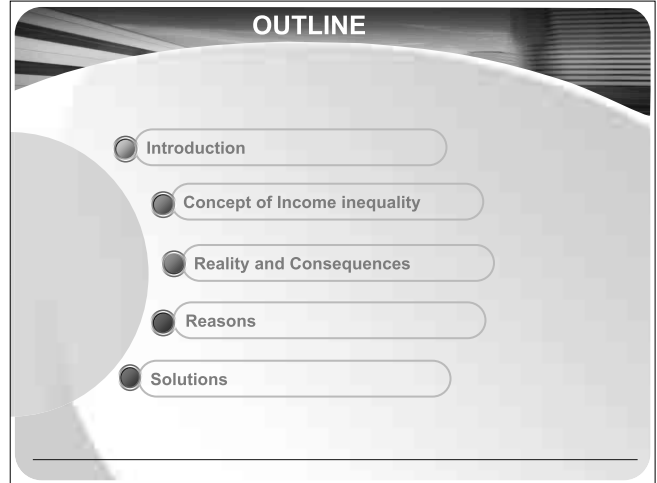
- The Government budget used to support garbage treatment structures for harsh regions is still poor. On the other hand, attracted fund from investment resource for those is difficult. Individual companies are required to face many obstacles of capital borrowing from Environment fund, banks and ODA; those are, high interests, complicated borrowing conditions, short of fund resources, etc.

4. Solutions

- Improve organization structure of environment management systems in industrial zones
- Enhance enforcement of environment protection in industrial parks: pollution tax, quotas.
- Projecting industrial zones associates with planning overall development of economy – social and protecting environment.

- There are solutions from industrial zones and enterprises in them.
 - + Make and complete centralized pollutants treatment systems of industrial zones.
 - + Enterprises in industrial parks execute the provisions of law about environment protection, implement waste treatment strictly.
 - + Use science and technology, innovate technology, develop production with reducing waste matter and environment pollution

Thank you for listening



I. CONCEPT OF INCOME INEQUALITY

- ❖ In Vietnam, the income gap between cities and countryside initially appeared after 1986.
- ❖ In 1986, government decided to change from planned economy to mixed economy.
- ❖ Since 1986, Vietnamese economy have grown dramatically which also let the income gap between urban and rural become bigger and reach 9 times higher between 20% of richest and poorest groups last year.

I. CONCEPT OF INCOME INEQUALITY

Two main ways to measure this inequality

Gini Coefficient

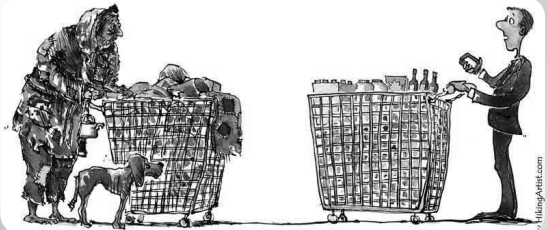
Lorenz Curve

I. CONCEPT OF INCOME INEQUALITY

Lorenz curve and Gini coefficient



II. REALITY AND CONSEQUENCES



II. REALITY AND CONSEQUENCES

1. INCOME

Based on the General Statistic Office, table 1 describes the increased trend in income in both rural and urban as well as the rise in Gini coefficient.

Table 1. Monthly income per capita by urban rural. (Unit: 1000/VND)

Year	Gini coefficient	Average income in urban(VND/month)	Average income in rural(VND/month)	Average income in country(VND/month)
2002	0.418	622.1	275.1	356.1
2004	0.42	815.4	378.1	454.4
2006	0.42	1058.4	505.7	630.5
2008	0.43	1605.2	762.2	995.2
2010	0.433	2130	1070	1387

II. REALITY AND CONSEQUENCES

2. POVERTY

- ❖ This inequality in poverty headcount reduction lead to an increase between urban and rural
- ❖ The income's gap between urban and rural have been expanded

	Poverty headcount			
	1993	1998	2002	2004
Vietnam	58.1	37.4	28.3	19.5
Urban	25.1	9.2	6.6	3.8
Rural	66.4	45.5	35.8	25
The gap (times)	2.65	4.96	5.4	6.54

II. REALITY AND CONSEQUENCES

3. EXPENDITURE

- ❖ The figure below will show Proportion of eating, drinking and smoking consumption expenditure in consumption expenditure for living
- ❖ This expenditure still account for high rate in spending of low income people which is around 56.4%

	Unit: %			
	2004	2006	2008	2010
Whole country	53.5	52.8	53.0	52.9
Urban	48.9	48.2	48.6	48.9
Rural	56.7	56.2	56.4	56.1

II. REALITY AND CONSEQUENCES

	Unit: %			
	2004	2006	2008	2010
Whole country	53.5	52.8	53.0	52.9
Urban	48.9	48.2	48.6	48.9
Rural	56.7	56.2	56.4	56.1

- ❖ The rural income is very low and they spend more than a half this money for food
- ❖ Richest groups spend on accommodation, water, electricity and sanitary 11 times higher than poorest groups

II. REALITY AND CONSEQUENCES

4. EDUCATION

- ❖ The number of people who are over 15 years old and never go to school from rural area is 38.1% which is nearly 5 times higher than those from urban
- ❖ Education expenditure in urban is high as 2.6 times as this in rural
- ❖ People with high income generally have good education

II. REALITY AND CONSEQUENCES

5. HEALTHCARE

- ❖ Health care is also a concern issue of income inequality
- ❖ In Vietnam, people, especially poor one, do not have habit to go to hospital to check periodically their health because:
 - Poor people do not have health insurance
 - They are afraid that doctors will find many illnesses on them
- ❖ In the North of Vietnam, ethnic minorities still choose to stay at home and ask help from local doctor
- ❖ Poor people have few chances to approach health services

II. REALITY AND CONSEQUENCES

6. UNEQUAL BENEFIT – DISTRIBUTION FROM GOVERNMENT POLICIES

Program 135, which has been carried out by government from 1998 to present is a project for developing economy and society in ethnic minorities and mountainous regions

The purposes of the project is to make a rapid change in manufacturing, improving physical and spiritual living condition of urban people and to destruct the inequality by regions and minoroties

Since 2006, Government has spend 14000 billion VND on the second period of this program

people who work for local governments rushed into creating as many projects as possible

The local governors didn't care of the productivity and the long-live of the projects

Many projects which cost billions VND has been left unfinished

II. THE REASONS



III. THE REASONS

- 1 Natural conditions.
- 2 Infrastructure.
- 3 Management.
- 4 Investment and Development Policies
- 5 Undeveloped market
- 6 Unequal opportunities.


III. THE REASONS

NATURAL CONDITIONS

The main source of rural living is agriculture.

However, the natural conditions of central and mountainous region is lack of fertile land ,harsh climate and frequent natural disaster-not favourable for agricultural production.

Moreover it becomes worse when the population is too large so land areas per person is smaller and smaller



III. THE REASONS

Central and Mountainous Regions




III. THE REASONS

INFRASTRUCTURE

Though infrastructure was significantly improved compared to the past, but it is still poor and do not meet the requirements of investors.

Therefore, trade, tourism and industries that require good infrastructure are not developed.

Even the current irrigation system can't meet the demand for water for agriculture, so land is degenerated and exhausted.





II. THE REASON

INFRASTRUCTURE

Especially ,it has low quality population with the majority of non- qualified workers. Furthermore, the farming technical is outdated, the rate of illiteracy and unemployment is high and the health is weak.

In particular, a high percent of ethnic minorities and women in all areas of the central coast and in the Central Highlands is illiterate and not high-skilled.





II. THE REASON

III. THE REASON

MANAGEMENT

- Many programs and policies for social-economic development can't be done effectively at the local level.
- The local management of projects, government funding programs at both the state and village level aren't transparent.
- People usually notice about what citizens are required to do, but are not informed of what they need to know or what they are doing.

Management capacity of local government officials is weak



Transparent Management

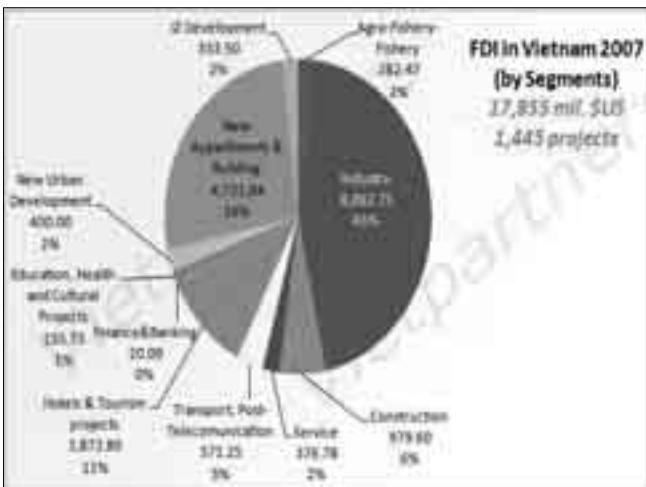


III. THE REASONS

INVESTMENT AND DEVELOPMENT POLICIES

Uneven invest and development policies

- Nowadays, the investment for rural areas is still limited which is 14% of total investment and FDI in these areas accounts for 3% of total FDI.
- While science -technology investment in area currently is 0.13% of agricultural, the figure of the grant for the whole country is 4%.
- Big cities have priorities in developing industrialization whereas old business models is still popular in rural.



III. THE REASON

INVESTMENT AND DEVELOPMENT POLICIES

Policies which intend to improve the quality of living standard of poor people accidentally create income for rich people

- During 4 years, authority invested 2 billion VND for 2,300 poor villages. However, until now, villagers are still suffering poverty
- Hundreds billion of state budget of program 135 was lost which was mostly taken by rich people.

III. THE REASONS

UNDEVELOPED MARKET

- The less developed markets and lack of investment opportunities has led to a lack of capital and create an unhealthy market environment



III. THE REASON

UNDEVELOPED MARKET



The poor, especially ethnic minorities have no experience in commercial activities and is taken advantage by trader when they used the tips in the trades. People complain that traders often are free to manipulate the prices of agricultural products, particularly in the pre-harvest period

III. THE REASONS

UNEQUAL OPPORTUNITIES

- The poor do not have enough information about their rights because of illiteracy, unconfident and no experience and available information to them
- They struggle to stay day by day and not have a little voice in local government



III. THE REASONS

UNEQUAL OPPORTUNITIES



- The poor are those who have least benefited from economic and social Vietnamese government programs
- Opportunities for the poor to escape poverty no more because the banks do not want the poor due to high risk-loans and no collateral

IV. SOLUTIONS



IV. SOLUTIONS

1. *Tax and government improvement*
 - ❖ **A more progressive tax system:**
 - ✓ Increasing tax rates on top incomes
 - ✓ Reduce and tax cuts on bottom incomes
 - ✓ Eliminating unfair tax preferences, closing tax loopholes and access to tax havens
 - ✓ Applying financial activities or transactions taxes
 - ✓ Introducing an inheritance tax on large estates
 - ❖ **Government system need to be improved**
 - ✓ Management level training for local staff
 - ✓ Encourage talented people to work in rural areas
 - ✓ Reform the administrative system and administrative procedures

IV. SOLUTIONS

2. Improving productivity of rural and mountainous areas (This solution focuses on using more technologies and expanding and raising the standard of agricultural services)

- ❖ Achieving agricultural growth by applying new technologies is one of the most important ways to reduce rural poverty.
- ❖ New technologies concludes: biology technology which will provide more kinds of plants, new methods to raise plants and animals efficiently, etc and modern facilities

IV. SOLUTIONS

3. Access to quality education is the long - term solution

- ❖ The best way government can address economic inequality and barriers to economic mobility is to improve access and opportunity for quality education
 - ✓ Increase accountability for education outcomes
 - ✓ Enhance student performance
 - ✓ Promote teachers that excel in helping students learn

IV. SOLUTIONS

4. Improve infrastructure

- ❖ Upgrade basic infrastructure and facilities such as roads, schools, medical centers, or providing internet over the country
 - ✓ More children sent to schools, closer ethnic minorities people approach to high knowledge and civilization
 - ✓ More convenient for rural people to trade with people from other regions
- ❖ Although improving infrastructure can make the life rural and mountainous areas better, we should keep eyes on the opportunity costs of that

CONCLUSION

It is indisputable that the distribution of income in the Vietnam has become more unequal.

However, many economists say they believe that turnover among both the poor and the rich substantially mitigates its impact.

If everyone remained in the same income bracket year after year, the negative effects of inequality would be far worse.

企業・機関訪問レポート



Sub-Contents(日程順)

- ・ JICA ベトナム事務所
- ・ JETRO ハノイ事務所
- ・ 世界銀行ベトナム事務所
- ・ タンロン工業団地 ヤマハ発動機
- ・ タンロン工業団地 タンロン工業団地管理会社／住友商事
- ・ ベトナム計画投資省
- ・ ベトナム中央銀行
- ・ ホーチミン市都市鉄道建設事業
- ・ サイゴン東西ハイウェイ建設事業
- ・ ホーチミン市下水管理能力開発プロジェクト (フェーズ2)

国際協力機構ベトナム事務所 (JICA Vietnam)

文責 岩田典久

1. 訪問日：9月10日月曜日 9:00～11:00
2. 場所：16th Floor, Daeha Business Center,
360 Kim Ma, Ba Dinh Dist., Hanoi
3. ヒアリング先：JICA ベトナム事務所 清水様
4. ヒアリング内容：



○機関概要

国際協力機構(JICA)は、技術協力、有償資金協力(円借款)、無償資金協力という日本の政府開発援助(ODA)の3つの形態を一元的に実施する援助機関である。

大規模な社会基盤整備への支援から、コミュニティに根ざした草の根レベルの協力まで、途上国の多様なニーズに対応することにより、“Inclusive and Dynamic Development”（「全ての人々が恩恵を受けるダイナミックな開発」）の実現を目指した事業を展開している。

(JICA ベトナム パンフレットより)

○説明概要

1. ベトナム国概要

人口

約 9,055 万人 総人口の 6 割強が 30 歳未満（日本は 3 割が 30 歳未満）

進出日系企業数

ハノイ：456 社、ホーチミン：579 社、ダナン；53 社 計約 1,100 社

在留邦人数

9,313 名(2011 年 10 月現在) 北・中部：4,149 名 南部：5,164 名

経済成長率

2000 年から 2010 年までの平均経済成長率は 7.3%

2011 年の実質 GDP 成長率：5.9%（2010 年は 6.8%）

2011 年の 1 人当たり GDP：1,374 ドル（日本：45,920 ドル）

企業・機関訪問レポート

貿易・投資

海外直接投資実行額：2011年は前年ほぼ同額の110億ドル

(2012年上半期日本の直接投資申請額は41.6億ドルで全体の65%)

貿易額：2011年の輸出額969億ドル(対前年比34.2%増)、輸入額974億ドル(同26.0%増)

2. 支援実績

円借款

2011年度承諾額：2,700億円(2010年度：1,485億円)

支援分野：電力—29%、運輸—39%、通信—4%

社会的サービス(下水道等)—17%、その他—13%

無償資金協力

2011年度承諾額：54億円(2010年度：35億円)

主な支援分野：NACCS(通関情報処理システム)、ITS、気象レーダー等

技術協力

現在派遣中の長期専門家：82名

支援分野：投資促進、産業人材育成、中小企業育成、保健医療、農村開発、環境保全

ボランティア事業

現在派遣中のボランティア：シニア28名、一般41名

支援分野：保健医療、農村開発、環境教育、裾野産業支援、日本語教育

3. 代表的な協力

(1) 交通インフラ(都市交通)

- ・深刻な交通渋滞に対応するため、ハノイ及びホーチミンの都市鉄道建設を対象として、日本の経験・技術を活用した総合的な支援を実施

<支援内容>

- ①都市交通計画、鉄道技術基準の策定
- ②都市鉄道建設事業への円借款供与(STEP案件)
- ③運営維持管理に関する技術協力(鉄道運営会社の設立(東京メトロ、大阪市営地下鉄による協力)、料金徴収システム(SUICA)の導入等)
- ④沿線・駅周辺開発計画の策定(官民連携事業の支援)

企業・機関訪問レポート

(2) 交通インフラ(高速道路)

- ・南北高速道路の建設に対して円借款供与とあわせ、日本方式の道路情報管理・料金徴収システム(ITS/ETC)の導入を促進

(3) 交通インフラ(橋梁)

- ・我が国の優れた橋梁技術やノウハウを活用し、ベトナムにおける日本技術の普及と日本企業の投資を促進

(4) 都市水質改善

- ・主要都市の下水管への接続率は 20-35%、ハノイでは小規模の下水処理場があるのみ
 - ・多くの工業団地で排水処理施設が未整備
- 都市内の河川・湖沼の水質汚染を軽減し、都市の生活環境改善を図る
- 技術協力と円借款の両スキームを有機的に関連づけ、水環境改善に向けた支援を実施
- <支援内容>

- ①汚染源対策の立案・実施、違反監視強化
- ②汚染源の測定、分析・評価を担う人材の育成
- ③排水・汚水処理施設建設への円借款供与
- ④日本の自治体との協力を促進(ハイフォン市/北九州市等)

(5) 中小企業・裾野産業振興

- ・中小企業の数是全企業数の 98.8%
 - ・在越日系企業の部品・原料の現地調達率は 24%
(タイ:56%、インドネシア・マレーシア:40%台)
- 裾野産業の育成は日系企業の製造拠点の確保、国内製造業の発展のために必要不可欠
- <支援内容>

- ①裾野産業振興に関する具体的施策の立案
 - ②中小企業向け融資促進のための円借款供与
 - ③中小企業経営者・技能者育成
 - ④日系企業と連携した工業大学カリキュラムの策定・実施
- ⇒円借款、技術協力、ボランティアの有機的連携を図り、中小企業・裾野産業育成を支援
- ⇒我が国中小企業のベトナム進出に資する現場の情報を提供

(6) 保健医療

- ・基礎的保健医療サービスの提供は、格差是正・社会的弱者支援の観点から必要不可欠であり、保健医療サービスの質の低さ(施設機材の不足、上位病院への患者の集中等)の改善が必要

<支援内容>

- ①地域の拠点病院に対して、技術協力・無償資金協力により人材育成・施設整備を支援
- ②拠点病院での成果を活用した円借款、ボランティアによる地方省病院への支援を計画・実施

(7) 防災

- ・近年、中部地域を中心に毎年のように台風被害が発生。洪水被害の増加に対し、日本の経験・技術を生かした防災協力のニーズが高まっている

<支援内容>

- ①行政による防災計画の立案、コミュニティ防災手法の開発・普及等を技術協力で実施
- ②堤防・排水施設・予警報システム等の施設整備、観測衛星の開発・データ活用(宇宙センター事業)
- ③気候変動による影響予測を取り入れた災害対策の実施

(8) 気候変動

- ・長い海岸線、河口付近に広大なデルタ地帯を持つベトナムは、世界の中でも気候変動の影響を最も受けやすい国の一つ
- ・特にメコンデルタへの影響が甚大で、1 mの海面上昇によって60%以上の土地が喪失すると予測

<支援内容>

- ①気候変動対策のために制度改革を目的として、JICA がベトナム政府とドナーの政策対話をリードし、政策アクションを促進するための財政支援(円借款)を実施
- ②メコンデルタ地帯の塩水遡上等の気候変動影響への対応を策定するため、開発調査を実施

4.最近の新たな取り組み

(1) 民間連携の促進

- ・日本企業による投資環境改善を目的とした「日越共同イニシアティブ」に基づく技術協力、円借款の拡大
- ・日本企業による官民パートナーシップ(PPP)事業参画を支援

(2) 内外一元化

- ・海外と国内の課題を一元的にとらえ「国際協力を通じ、国内の課題の解決にも貢献する」という視点での案件実施を推進

(3) 南南協力

- ・ベトナムとアフリカの協力を橋渡し

○質疑応答

①期待したほど上手くいかなかったプロジェクトはあるか。

A.ある。全くだめだったというものはない。プロジェクトの開始前にはかなり綿密に打ち合わせをするが、実際には上手くいかない。しかし、長く続けていくうちに相互理解が生まれ、軋轢が解消されるケースも多い。一例として、地方政府を対象に行った少数民族対策において、下からの意見を吸い上げるアプローチをとったが、ベトナムは社会主義国なのでトップダウンの方式が主流であり、文化的にも上を敬う風潮が強い。そのため、当初はそのアプローチを理解してもらえなかった。しかし、2、3年後に中央政府が当プロジェクトのアプローチの仕方に興味を示し、地方政府も他の地域へ適応できるようにするなどの動きが見られた。苦労も多かったが、最終的には予想以上の結果が得られた。

②ODA 額・予算・人員が減少しているなか、JICA はどう対応しているか。

A.援助する地域や分野を絞っていく。現在、アフリカのウェイトが大きくなりつつある。とはいえ、アジアがかなりのウェイトを占める。中南米地域などへの援助が削られている。

③ベトナムの経済発展につれて、どこまで援助をすべきだと考えているか。

A.経済が発展したら、援助額は減らしていかなくてはならない。一方、JICA の目的は国際社会への貢献を通して日本の経済社会の発展にも寄与することである。被援助国の経済が発展するにつれ、日本と当該国の関係をより深めていくような支援を展開していく。

④どの程度の技術を提供しているか。最先端技術か、それともベトナムが自力で発展していくために、最先端より一歩手前の技術を提供しているか。(例えば、人の生命に関わる医療についてはどうか。)

A.医療を含め、基本的には研究段階にある最先端の技術ではなく、確立した技術を提供。一方、分野によっては最先端の技術移転を行う。例えば、検疫の技術向上は日本企業にとっても有意義なものである。また、農業における遺伝子の研究にも最先端の技術が提供されている。

⑤援助を行うインセンティブは何か。日本人として援助を行う意義は何か。

A.その国の経済社会の発展に寄与し、なおかつ日本の経済社会の発展にも寄与すること。

⑥支援することによる日本側のメリットは何か。

A.具体的な例として、昨年の震災の際に各国が寄付をしてくれ、日本は昨年度世界一の被援助国になった。このようなことも、日本の今までの活動が評価されていることの表れではないか。また、日本も過去に多くの援助を受けてきた。世銀への返済は1990年まで行われ、それまでは被援助国だった。

⑦各プロジェクトから撤退するタイミングはいつか。何ををもってプロジェクト完了と考えているか。

A.プロジェクト実施にあたって計画目標を策定し、そこまで終われば完了となる。大きなプロジェクトに関しては、段階的に計画目標を策定する。

⑧多国籍援助機関や他国の援助機関とは協力関係にあるか、競争関係にあるか。

A.両方の側面がある。大きなプロジェクトは協力なしには出来ない。一方で、日本の利益のためという点では利害が対立することも。

⑨(ベトナム内に)貧困地域が沢山あるなかで、援助地域を決める基準は何か。

A.JICAの業務は、相手国政府からの要請に基づく。要請のないものは行わない。なぜかという、プロジェクトの遂行には相手国の理解と協力が必要。欧米はサプライドリブン※の方式をとることもある。そういった中で、日本として援助をする意義があるか、日本人が実際に活動できる地域かも考慮する。また、JICAが策定している支援分野ごとの大枠に合致しているかどうかも考慮。

※サプライドリブン・ドナー側主導の方式。相手国の理解を得られないことや、ニーズに沿

わないことも。また人件費などの費用が丸抱えになるなど、ドナー側の負担も大きい。

⑩無償資金援助をする際、ベトナム自身の向上心や自立的発展の機会を失わないようにする仕組みはどのようなものか。

A.要請に基づいて実施すること。また、援助が終了して引き渡した後に維持管理を続けていけるようなものにする。このようなことは無償援助に限ったことではない。

⑪ベトナムの国民は日本による援助を知っているのか。広報活動は行われているか。

A.広報には非常に力を入れている。工事現場には立て看板を立て、出来た建物に必ずプレートを入れるなどして、JICA の協力によるものであることを示す。現地メディアでも宣伝しており、新聞には年間千数百件取り上げられている。また、出来た建物に日本の国旗が掲げられることもある(フエ中央病院など)。日本や JICA のことはある程度浸透しているのではないだろうか。

⑫ベトナムから他国の援助は具体的にどのように行われているか。

A.最近 JICA が携わったものとしては、以前、ベトナムに対して果物の検疫の技術協力プロジェクトが行われ、その後、ベトナムからラオスなどの他国へ技術移転が行われた。

⑬援助が日本の国益に資することへの批判はないのか。

A.道理に合わないことや露骨なことを行えばもちろん批判されるし、そのようなものは長続きしない。相手を理解することが必要であり、お互いに妥協点を探りながらバランスをとっていく。

⑭長期スパンの開発計画が多い中、短い派遣期間でどこにやりがいを感じるか。

A.目標に向けて前進していく過程にやりがいを感じる。相手との関係を構築していくなかで、将来に希望が持てる。実際に出来上がっていく工事現場を見ると実感しやすい。人材育成などではわかりにくいですが、人々の意識が変わっていくのを見ると実感できる。

⑮ベトナム政府からの要請に基づいて援助をするのに、軋轢はどのようにして生じるのか。

A.おおもとの要請は実施機関からあがるが、実際の要請は政府からくるため、食い違いが生じることがある。実施機関はハノイから遠かったりするなどして、話し合いが十分に出来ないことも。また、他国とは異なる日本のアプローチが理解されないこともある。

企業・機関訪問レポート

⑩交通インフラのソフト面での協力は行われているか。(ハノイ市内の交通状況を見て)

A.マスタープランはある。交通警察への技術協力もしている。徐々に改善するしかない。

⑪支援する分野に関する食い違いはあるか。

A.ある。ただ、JICA も要請を待っているだけでなく、ベトナム政府にこちら側の考えを伝えてある。

⑫金融制度の改革援助は行われているか。

A.これからというところ。中央銀行にアドバイザーとして1人出向いている。ベトナムで深刻な問題は金融機関の運営。最近では、リーマンショックや日本のバブルの仕組み、教訓などに関するセミナーを行った。

⑬金融制度改革のような大きなプロジェクトになると、国際機関との協調が必要になるが、協力は行われているのか。

A.まだ、そこまでは話が進んでいない。



JICA ベトナム事務所入口にて

JETRO ハノイ事務所

文責 堀部智靖

1. 訪問日：9月10日月曜日 13:30～14:30

2. 場所：2rd Floor, 63 Ly Thai To, Hanoi



3. ヒアリング先：ジェトロハノイ事務所 佐藤様

4. ヒアリング内容：

○機関概要

正式名称は日本貿易振興機構。ジェトロの目的は貿易・投資促進と開発途上国研究を通じ、日本の経済・社会の更なる発展に貢献することである。

主な取り組みとしては、

(1) 日本企業の海外展開を支援

輸出販路開拓、海外進出先での支援、海外ビジネス情報の提供など、中小企業を中心とする日本企業の海外ビジネスを支援。特に、(1)機械・機械部品、電子部品や環境エネルギー、(2)農林水産品・食品、(3)クリエイティブ産業、(4)インフラシステムなどの分野での輸出促進、「日本ブランド」の発信に力を入れている。

(2) 対日投資を促進

海外企業に日本への進出を働きかける活動や、外国企業による拠点作りをスムーズにするための数々の活動を行っている。特に、アジア本社、研究開発センターなど、アジアにおける中核的な拠点の新設環境・省エネや健康・福祉関連などの成長産業、雇用効果の大きい案件に重点を置いている。

(3) 調査・研究を通じた日本経済への貢献

各国・地域の経済・貿易投資・産業動向、法制度情報等を調査・分析・提供し、日本企業のグローバルな事業展開や経営判断、日本の通商政策に貢献している。また、ジェトロの研究機関であるアジア経済研究所は、アジア諸国をはじめとする開発途上国・地域の経済、政治、社会に関する諸問題についての基礎的・総合的研究を行っている。これらの研究を通じて、日本の貿易・投資の拡大および開発途上国への経済協力の促進に寄与している。

(以上 JETRO のホームページ <http://www.jetro.go.jp/jetro/scheme/>より)

○ベトナムに対する印象

ベトナムに対する印象は変化していつている。90年代はベトナムに対してベトナム戦争の印象を持っている人がたくさんいたが、今のベトナムに対する印象は、食べ物がおいしいことや、オートバイが多いなど、戦争に関する印象がなくなっている。その意味では、マイナスイメージがなくなっているため、ベトナムに対する印象はよくなっていると考えられる。

○ベトナムの一般的な特徴

東南アジアの他国と比べると、識字率が高く、90.3%である。識字率が高いことにより労働者に対して教育をしっかりとできる。教育をしっかりとできることにより、労働者の質が上がり、労働の効率が上がる、という長所がある。日本企業が持っているベトナムに対するイメージは、若い人が多い、低い賃金、手先が器用というものがある。だが実際は若い人がなかなか集まらず、思ったよりは手先が器用ではない、賃金も上がっている、という特徴も見られる。今のところ賃金は比較的安い、上昇率は16.8%とかなり高めである。最低賃金も上昇していつているので、この点が企業にとってボトルネックとなり、企業側としてはベトナム進出をためらう要素になる可能性がある。だがその他の東南アジアの国々と比べるとやはり条件は良いと考えられる。また、男性よりも女性の方が優秀であり、まじめで勤勉である、という傾向が見られる。

○ベトナムの地理

日本政府の支援により南北高速道路や東西回廊などのインフラが整備されつつある。日系企業の輸出には北部のハイフォン港が利用されている。陸路の費用は海路の3倍、空路の費用は海路の5倍かかるので、海路が輸出には主に使われている。右の地図は2020年時点の予定回廊図である。ハノイにおいて鉄道も整備されつつある。今回の研修でも日系企業による鉄道事業を視察した。

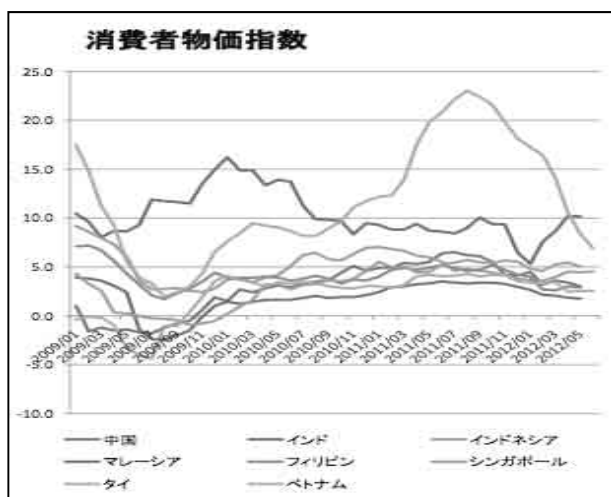


○ベトナム経済概況

このレポートでは3つの特徴を説明する。

1つ目は現地調達率が低いという点である。現在、ベトナムの現地調達率は、28.7%である。それに対してタイの現地調達率は53.0%である。裾野産業が未熟であるため現地調達率が低くなってしまっている。現地調達率の低さは為替レートに影響を与える。現地調達率が低いということは輸入に頼らざるを得なくなってくる。すると貿易赤字になり為替レートに影響を及ぼすことになってしまう。また現地調達率の低さは企業にも影響を及ぼす。現地調達率が低いと、先ほども書いた通り、他の国から材料を調達しなければならない。他の国から材料を調達するには、大きなコストがかかる。現在、ベトナムは賃金が安いこともあり、コストが抑えられ、企業が進出するメリットがあるが、賃金が上がっていき、現地調達率が低いままであると、他の国で生産するほうがコストを抑えることができ、ベトナムに進出するメリットがなくなってしまう。ASEAN では、FTA 締結に向けて動いており、近いうちに、域内関税撤廃になる。すると、現地調達率が高い国で生産しベトナムに輸出する、ということも起こりうるだろう。

2つ目の特徴はインフレ率が高い点である。具体的には下のグラフを見てほしい。2011年あたりに大幅に他国より上に出ているのがベトナムである。見てわかるように、他のアジア諸国は比較的安定していて、5%前後を推移している。だが、ベトナムは2009年初頭には約16%前後、そのあと下がっていき2009年終わりには3%ぐらいになっているが、再び上昇し始め2011年終わりには20%を超えている。不安定で推移するインフレ率は、企業にとっては先行きが読みにくいという不安要素になり、進出をためらう企業も増えてしまうかもしれない。



(出所)CEIC データベース (原データは各国政府、中央銀行等)

3つ目の特徴としては、成長率は高いが、一人当たりのGDPはまだまだ低い点である。

ベトナムのGDPの成長率は5.3%(2009)、6.8%(2010)、5.8%(2011)、6.3%(2012)と決して低い水準ではない。だが、一人当たりのGDPはまだまだ低い水準である。右のグラフを見てほしい。右のグラフはアジア各国の一人当たりGDPの推移を表している。一番上の水準にあるのがマレーシアであり、ベトナムはグラフにおける7カ国において最も下の水準にある。これは成長を続けているがまだまだ成長の余地があることを示している。

○ベトナムにおける日本企業

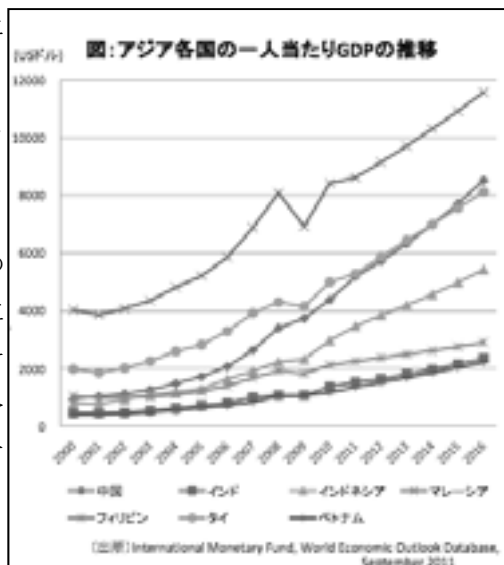
日本商工会加盟企業数は右肩上がりに増えていっている。アジア通貨危機以降北部を中心に企業数が増えていっている。具体的には2007年の企業数は604、2012年の企業数は1052、と6年間で倍増している。製造・輸出の企業を中心に増えていっている。日本に来るベトナムの研修生が優秀であるため、ベトナムに進出しようとする企業が出てきている。

2015年にASEANで域内関税撤廃が実施されるため、ベトナム市場向けにベトナム現地で作っているものは他のASEAN諸国からの輸入に変わっていく見通しである。先ほども書いたように、現地調達率が低く、また今のところ賃金は比較的安い、だんだんと上昇してきているため、ベトナム現地で生産するメリットがなくなる可能性がある。

ベトナムにとってこれから大事になってくる日系企業は輸出7割、国内向け3割の割合で販売していく企業である。輸出のみだったらタイなど他のアジアの国々に負けてしまうからである。

日本企業は、韓国企業に打ち勝つことが重要となってくる。韓国企業には強さがある。メディアと産業が組み合わせり戦略的に産業を育成していっている。例えば、ドラマなどで韓国製品を数多く使うことで、その製品の知名度をあげていくなど戦略的に企業を育成していっている。日本企業も韓国企業に負けない強さをつけることが大事である。

ベトナムの中国に対するイメージは悪い。侵略された歴史もあり、また中国企業のマナーが悪く、環境汚染が進んでしまっている背景もある。そのため、ベトナムは中国との貿易をよく思っていない、中国からモノが入ってきてほしくないと思っている。日本企業はこの状況を生かし、最新技術を提供しベトナムの企業を支援することで中国との差別化を図ることが大事である。



世界銀行ベトナム事務所

文責 中川瑛

1. 訪問日：9月10日月曜日 16:00～17:00

2. 場所：8th Floor, 63 Ly Thai To, Hanoi



3. ヒアリング先：

Nguyen Hong Ngan(Communications Officer)様、

Doan Hong Quang(Senior Economist)様

4. ヒアリング内容：

○機関概要

世界銀行は、発展途上国の経済・社会の発展、生活水準の向上、持続的成長のために資金協力、知的支援などを提供する国際開発金融機関である。1944年ブレトン・ウッズ会議において国際通貨基金とともに設立が決定され、1946年から業務が開始された。当初は、第二次世界大戦後の先進国の復興及び発展途上国の開発が目的であったが、現在では開発途上国に対する融資が主な業務である。水道や電気といったインフラ、保健・教育、地球環境問題、ジェンダー、ガバナンスなど、国際協力の分野を多岐にわたってカバーしている。

○説明概要

(1) 構成

世界銀行グループは、国際復興開発銀行（IBRD）、国際開発協会（IDA）、国際金融公社（IFC）、多数国間投資保証機関（MIGA）、投資紛争解決国際センター（ICSID）の5つの機関から構成されている。現在187か国が加盟している。

(2) ベトナム経済の現状

ベトナムは近年急速な経済成長とともに、深刻なインフレを抱えている。原因としては、

- ① ベトナムの国際経済に対する開放度が高まっていることから、これまで以上に国際価格上昇の影響を受けやすくなったため。
- ② WTOに加盟した後、巨額の資本がベトナムに流入、外貨準備が短期間で増加する中、中央銀行がこの増加を安定化することができず、マネーサプライが増加したため。

③ ベトナム政府が投資支出を拡大することで経済成長率を加速させようと試みたため。の3つがあげられるが、最近は特に①がインフレの主な原因である。

政府はインフレを解決しようと金融の引き締め政策と公共投資の削減を行ったが、外国からの投資を減速させることにもなってしまった。インフレ率は一桁に落ち着き、国際収支の状況は改善し、外貨準備も回復したが、同時に経済成長が減速してしまった（2012年度第一四半期の経済成長率は4%、ここ数年は約7%）。

（3）社会主義と市場経済

ベトナムは社会主義国ではあるが、市場経済システムを導入している。計画経済と市場経済の2つのシステムの間でベトナム政府は様々な課題を抱えているが、ベトナムの社会主義には良い側面もある。例えば、ベトナムでは所得格差はあまり深刻な問題ではない。ジニ係数（所得配分の不平等さを測る指標）は中国に比べてとても低く、36～37%である。国家予算を使った所得再分配政策も効果をあげており、貧しい地域はより多くの所得移転を受けている。また、1980年代の改革では、農家により多くの土地が割り当てられており、これは1990年代にベトナムが高い水準で経済成長を達成した大きな理由としてあげられる。ベトナムでも所得格差が生じているという認識もあるが、ジニ係数といった統計はそうではないことを示している。

（4）役割

世界銀行は貧困削減と持続的な経済成長の理念のもと、ベトナムの経済成長のサポートをしている。世界銀行のベトナムに対する役割は変化している。20年前、開発の初期段階では、あらゆる分野で資金とアドバイスが必要とされており、世界銀行は様々な分野を支援するために多くの貸付金をベトナムに供給してきた。昨今、国の全体の投資規模と比較すると徐々に世界銀行の援助の割合は減少しているが、これは経済状況が改善されて民間に投資の余力が増えたためだ。もはや、ベトナム経済は慢性的な資本不足とは見なされなくなった。ベトナム政府は工業化に力を入れており、その目標に必要なアドバイスや資金面での支援を行っている。さらにその先、中所得国への移行という政府の目標を達成するための支援をしたいと考えている。

○質疑応答

①最近のベトナムの経済状況をどのように考えているか？

A.2008年の世界経済危機までの20年間はとてもうまくいっていたと思うが、2008年以降は再びマクロ経済が不安定になっている。2010年のインフレ率は20%以上で、2011年も高いインフレが続いていることからわかるように、現在は再び経済過熱の問題を抱えている。

ベトナム経済の課題は、銀行部門、国有企業、公共投資の三部門に及ぶ経済再建である。

②ベトナムで遂行されている様々なプロジェクトの総合的な効果をどのように評価しているか？

A.世界銀行にはプロジェクトを評価する独立部署があり、今のところ「満足」かそれ以上の評価がなされている。他国と比べるとプロジェクトが完了するまでに長い時間がかかる（平均7年）ことが問題である。しかし、他のアジアと比べるとベトナムの世界銀行のプロジェクトは高く評価されている。

③ベトナムの強みは何か？

A.勤勉で若く、安価で魅力的な労働力。しかし、最近の教育制度は労働に必要なスキルを教えていないため、労働市場で需要と供給のミスマッチが起きている。

④ベトナム中央銀行とどのような関係があるのか？

A.中央銀行はベトナムにおける世界銀行の活動の中心的なコーディネーターとして政府から指名されている。したがって、世界銀行の融資や支援の契約は世界銀行とベトナム中央銀行の間で取り交わされる。加えて中央銀行とはマクロ経済運営と金融支援に関し多くの意見交換を行っており、財務省、計画投資省とともに最も重要なパートナーである。

⑤ベトナムの計画経済と社会主義にはどのように対処しているのか？

A.民間部門に目を向ければ市場経済であるが、政府は経済運営においては計画経済と市場経済の間でもがいている。制度上の変化はとても時間のかかるものであり、ベトナムの発展のためのパートナーとして、ベトナムの進展に辛抱しなければならない。とはいうものの、民間部門はますます大きく成長し、これが政府に対してさらなる市場化へのプレッシャーをかけており、状況はよい方向に進んでいると考えられる。また、ベトナムの社会主義は貧困格差を最小限にするなど、良い所もある。

⑥発展支援のための国際機関として、世界銀行のベトナムにおける特有の役割は何か？

A.世界銀行は社会経済の発展に伴って変化する開発ニーズに対応し、役割を変えていかななくてはならないと考えている。今の世界銀行の戦略は、ベトナムを低所得国から中所得国へと完全移行する手伝いをする事、つまり2020年までに一人当たり所得が3000米ドル以上の中所得国になるという国の目標が達成できるように支援したいと考えている。また、高等教育

企業・機関訪問レポート

も重視しており、世界銀行は3、4つの大学に絞って投資をして優れた大学にし、国がこのモデルを見習ってさらによい大学を建設できるようにしている。かつては、お金による支援を重視していたが、今は、この大学プロジェクトのようにお金を減らしてアドバイスによる支援を重視している。



↑事務所玄関にて。



世界銀行ハノイ事務所にて。英語でのヒアリングであった。

ヤマハ発動機

YAMAHA MOTOR PARTS MANUFACTURING VIETNAM CO. LTD

文責 片岡綾乃

1. 訪問日：9月11日火曜日 9:00～10:30

2. 場所：G1 Thang Long Industrial Park,
Dong Anh District, Hanoi



3. ヒアリング先：ヤマハ発動機 戸谷裕司様、大山隆庸様

4. ヒアリング内容：

○企業概要

ハノイのタンロン工業団地に位置し、二輪車の部品を製造する。2006年創設。二輪車の組み立てを行うヤマハ・モーター・ベトナムに、部品を出荷している。主にギア類、ヘッド、キャストホイール、クラッチ用歯車を製造している。

○説明概要

①ベトナムの基本情報

ベトナムでは原材料が手に入らないことに加え、近年賃金も上昇しており、製造業にとっては厳しい状況になっている。

ベトナム人は、大人数で一台のバイクに乗ったり、日本では考えられないような大荷物を載せてバイクに乗ったりするなど、日本とは全く違うバイクの使い方をする。最近ベトナムで、コンパクトなタイプのバイクを売り出したのだが、このような事情から、ベトナムでは全く売れていない。

バイクの売上自体はかなり伸びており、ベトナムでのヤマハのシェアは29%ほど。中国のコピー車も出回っているが、品質が悪いためにシェアは減少している。

ベトナムでのバイクの値段は、一台10万円を超えるくらい。工場労働者の初任給は1万円くらいなので、日本でいうところの車を買うくらいの値段である。

②会社の紹介

二輪車の組み立てを行うヤマハ・モーター・ベトナムに部品を供給している。2006年にできた新しい会社。アSEMBリー会社と部品会社の二本立てで生産を行う形（このやり方はインドネシアやタイでも同じ）。ヤマハ自体は、タンロン工業団地で3番目に大きい規模をもつ。YPMVの従業員数は2100人、平均年齢は23歳。男女比は4：6で、女性が多い。組織としては、社長、副社長、課長などを含め日本人は7人駐在しており、ベトナム人の課長も2人いる。

○工場見学

実際に二輪車の部品をつくらしている工場の見学をさせていただいた。かなり広い敷地で、ギアや歯車を製造していた。労働者はもちろんベトナム人で、見た目からもかなり若い人たちだとわかった。工場労働のシフトは、6時から14時と、14時から22時の2シフト制。私たちがうかがったときは、一部の働いている方々が休憩をとっており、学食のようなところで食事をとっていた。

工場内部は、清潔で広かったが、かなりの熱気と独特のにおいがあった。製品をつくるのに使われている技術を簡単に説明していただき、工場内を一回りさせていただいた。私たちの目から見て、労働者の方は勤勉に働いているという印象を受けた。

○質疑応答

①工場労働者の離職率は？

A.毎月3%ほど。今年は景気が悪いので仕事を辞める人が少なくなっている。

②ベトナムを撤退することは考えていますか？

A.考えていない。

③2015年のASEAN関税撤廃に関してはどうのように考えていますか？

A.ヤマハは残り続ける。製品を使うところでつくるのが間違いないから。

④経済発展につれて所得が向上すると、バイクから車への移行が考えられると思うが、それについてはどう考えていますか？

A.これから10年・15年ではそのようにはならないと考えている。むしろ、人口増、インフラ整備の遅れ、バスの不人気、自動車普及の遅れなどの要因により、需要は伸びると考えられる。ベトナムではローンが普及していないため、自動車の普及にはあと10年はかかる。都市部では需要は飽和しているように見えるが、地方の需要と買い替え需要に期待している。

⑤現地調達率を上げるための工夫はしていますか？

A.原材料の現地調達はできていない。簡単なものだったらベトナムでつくれないかとは検討している。部品会社ではなく、本体の方の会社では現地調達はかなり重視している。サプライヤーの育成や関連会社の進出などを検討している。

⑥離職やストライキを防ぐための対策などはしていますか？

A.募集した人員の10倍くらいは応募があるので、リクルートに苦労はしていない。ストライキを防ぐためには、食堂の修理や食事の改善、作業環境の改善、パーティーを開くなどの福利厚生を行っている。

⑦環境汚染への配慮ではどんなことをしていますか？

A.排水基準などは工業団地で定められているので、定期測定をして遵守している。電気の使用量の削減にも取り組んでいる。日本の基準とほとんど変わらない基準で環境配慮をしている。排水基準では、日本ではありえないような厳しい基準がベトナム政府によって課せられている。ベトナムでは、法律はあるのだが、その法律に根拠がないこともままある。そうした法律に違反したことで罰を受けることもある。そうした理不尽な措置に対して、日本企業としては、商工会から異議を申し立てたり、日越共同イニシアチブに訴えたり、大使館経由で申し入れたりといった対処をしている。監査の基準や頻度も一定ではなく、コネクションの力も強い。

⑧注目する二輪市場はどこですか？

A.既存の拠点としてはインド、新しい拠点としてはカンボジアに注目している。

⑨社会主義の国だと感じることはありますか？

A.あまりない。比較的やわらかい体制だと思う。ただ、土地は国のものとされているので、土地を使用する際は国と契約を結び、使用後は更地にして返すことになっている。(その分の費用を積み立てなければならないと無茶を言われることも)

⑩タンロン工業団地のメリットはなんですか？

A.日系の工業団地なので、情報交換も速いし、文句もいいやすい。インフラ整備も進んでいる。また、ハノイから近いのでリクルートしやすい。(労働者の方々は、ハノイからではなく団地の近くに部屋を借りて、そこから通っていることが多い)

⑪組合の活動は活発ですか？

A.活発です。ストライキや要求が多いわけではない。労働組合は企業別。タンロン全体の組合があるわけではない。

⑫労働者の学歴や経歴は？

A.ワーカーは短大や高校卒、スタッフは大卒。両者の間にははっきりした線引きがある。

⑬ベトナム人の労働者の働きぶりはどうですか？

A.真面目、手先も器用。ただ、ミスの原因などを深く分析することが苦手だという印象。フローチャートなどで長期的な計画を立てることも苦手。でも、こちらから言えばきちんと仕事をこなす。



事務所の前で記念撮影。

タンロン工業団地

文責 屋野巧磨

1. 訪問日：9月11日火曜日 午前

2. 場所：Thang Long Industrial Park,
Dong Anh District, Hanoi

3. ヒアリング先：タンロン工業団地管理会社/
住友商事 清水禎彦様

4. ヒアリング内容：

○企業概要

1997年2月に住友商事が58%、ドンアインメカニカルカンパニー（ベトナム国営企業）が42%出資して設立された合弁企業。総投資額は9,000万USドル、資本金は2,447万USドル。総開発面積は274ha。ハノイ市から北へ約16キロに位置し、主に日系企業が入居する工業団地である。入居企業数は105社（製造業78社/サービス事務所27社）で、雇用人数は約62,000人（日本人駐在員約450名）である。工業団地は三期に分けて工事・販売され、2000年6月第一期（121ha）、2005年1月第二期（74ha）、2007年9月第三期（79ha）いずれも工事は完了し、完売の状態である。

タンロン工業団地が建設された背景には、日本政府が出した「マスタープラン95」がある。このマスタープランに沿ってベトナム北部の工業化が図られた。住友商事が先導する形で上下水道、変電所、配管、道路の設置がすすめられ、工業団地が建設された。開発には144億円の円借款が当てられ、現在のPPPの先駆けとなった。



○説明概要

(1) 工業団地販売後の収益モデル

土地販売後は工業団地で入居企業のサポートを行い、主に3つの収益の柱がある。1つ目は水事業である。自前の浄水場と下水処理場を持つ。入居企業と直接契約して水の提供や排水の処理を行う。2つ目は貸し工場である。初期投資を抑えたい、資産を持ちたくない企業に向けて、月毎に賃料を受け取る形で工場を貸し出す。3つ目は管理費である。入居企業に等しく管理費を納めてもらう。

(2) ソフト面の整備

- ・採用掲示板の設置。求人への協力。2012年は金融引き締めによる不景気で最近では労働供給が超過ぎみだったが、去年までは離職者（離職率は2～3%程度）の補充が大変だった。
- ・一木会の開催。第1木曜日に入居企業の責任者が集まり、情報交換会を行う。最低賃金引き上げや新たな労働法の施行、大規模工事など入居企業に重要な情報を提供する。毎月90人規模の大会議で入居者同士でも意見交換を行う。
- ・地域共生への貢献。12000ドルの募金を集め、奨学金や幼稚園の屋根の修理にあてた。
- ・警察署と消防署の設置。10名の警官が常駐し、団地内での交通事故や盗難事故、傷害事件に迅速に対応。
- ・日本食レストラン「ほたる食堂」の運営
- ・工業団地全体のベトナム経済への貢献をアピール。ベトナム政府への発言力を維持、強化するために、雇用の創出（約62000人）と外貨の獲得（22億米ドル、2011年）による貢献を伝える。

(3) 小規模投資案件の増加

従来は1案件当たり2000㎡単位で貸し工場を提供していたが、2009年ごろから小規模投資の需要が増え始めた。ベトナムでの日系製造業の裾野が広がりを見せ、中小企業が進出傾向にある。そこで、従来の2000㎡の貸し工場を壁で4つに仕切り500㎡から契約できるように変更した。（2011年3月完成）東日本大震災に背中を押される形で、検討していた中小企業が進出に積極的な状態にある。

Ex) 吉中精工…福井県に本社。有限会社。資本金は500万円。本社従業員10人。精密金型（自動車部品用の）を製造。リーマンショックを機に3名のベトナム人を雇用し始める。その働きぶりに感心し、国内の不景気も重なって、ベトナムに進出する。福井の本社をNo.2に任せて、社長自らがベトナムに駐在している。2012年8月枝野経済産業大臣がタンロン工業団

企業・機関訪問レポート

地を訪れた際に、社長が「ベトナムに出てきてよかった。日本に留まっていたは今のような成果は得られなかった。」と発言した。日本では3次請けの部品メーカーとの取引が中心だったのに対し、ベトナムではその品質と価格競争力が評価されて1次下請けの部品メーカーと中心に取引している。さらに、ベトナムでの評価をきっかけに日本でも仕事の受注が回復しつつある。日本の雇用も守りつつ、海外で成功を収める。中小企業の海外進出のモデルケースともいえる事例である。

(4) ベトナム進出のマイナスの側面

A 役所の問題

- ・行政サービス、ガイダンスがない
- ・法律の基準があいまい
- ・賄賂の存在
- ・業者の斡旋

→日越共同イニシアティブなど、官民が協力して環境改善を試みてはいるが一朝一夕に治るものではない。

B 労働力の確保、労働争議

近年、サービス産業の割合が増加している。2012年は景気後退のために労働供給超過であったが、今後は切迫してくるだろう。賃金上昇も大きな懸念材料である。政府いわく、現在は最低賃金が最低限の生活水準に不足している状態で、両者の水準がマッチングした後は賃金上昇の兆しは落ち着くとのこと。加えて年間約1000件の労働争議が起こっている。そのうち7割が外資系の企業である。労働争議がほとんど存在しない日本の人事では、適切な対応準備ができていない現状がある。

C 脆弱な電力インフラ

2010年、タンロン団地でも初めて計画停電が実施された。原因は渇水である。水力発電の割合が非常に大きい北部ベトナムでは深刻な影響が発生した。中国やラオスから電気を購入したが電力が不足した。電力インフラに不安があると、半導体等の長時間の電気供給が必要な産業は進出を控えざるを得ない。現在マスタープランの推進中だが、2020年の原子力導入が軌道に乗らなければ、非常に厳しい状況を迎えるとの見方もある。

○質疑応答

①ベトナムの工業団地で働くやりがいは何ですか？

A.まず、1 つめはタンロン工業団地に入居している企業に感謝されること。企業がベトナムで成功する姿を見るのは嬉しい。2 つめはベトナムの地域社会の役に立てること。雇用の創出以外にも子供への奨学金や周辺施設の改善などの地域貢献がある。ベトナムで仕事をさせていただいているという精神を忘れてはならない。

②工業団地建設に伴い、地元の住人とトラブルはありましたか？

A.土地収用に関して、事業がスムーズに進まない場合がある。ベトナムでは末端の自治が浸透しているの、特に難しい。第二タンロン工業団地が建設された土地には、もともと 2000 世帯の農民が暮らしていた。住民説明会を開き、工業団地建設の将来的なメリットを説明した。地元政府と協力して、根気強く働きかけて納得してもらった。最終的には補償金を支払い、納得の上で土地を手放してもらった。



集合写真

ベトナム計画投資省

文責 仲建紀

1. 訪問日：2012年9月11日 午後

2. 場所：No. 6B, Hoang Dieu, Ba Dinh, Hanoi

(ヒアリングはJICA事務所で開催)

3. ヒアリング先：ベトナム計画投資省ミン顧問

JICA 内田様



4. ヒアリング内容：

○機関概要

ベトナム計画投資省は計画投資に関するマネジメントの役割を担う国家機関である。具体的な役割としては、五ヵ年計画などの国家社会経済発展の計画や経済発展と特定分野課題における政策策定・調整などである。また国内の投資や海外投資の促進、工業団地や輸出加工地区の経営や政府開発援助の受入れ、国家全体のビジネスルールの策定なども実行している。

○説明概要

ベトナム計画投資省は五ヵ年計画の草案を策定し、首相にその計画を提出する。首相はほかの大臣と協力してその計画を仕上げ、国会に提出する。その後国会がそれについて討論し、決定する。これが計画投資省の役割である。そのほかの役割として、政府開発援助(ODA)の受入れの調整も行っている。計画投資省は五ヵ年計画の実施面においても重要な役割を担っている。2011-2015年の五ヵ年計画の内容は、以下のとおりである。

- ①健全な金融政策を主導的に行うこと。また、市場経済メカニズムに沿った価格政策をフレキシブルに実施することによって、マクロ経済の安定的な持続成長を目指す。
- ②国家経済の構造改革を続ける。国内産業の中心を軽工業からハイテク産業にシフトさせること。国営部門の主導を維持しながら、民間部門の支援策も強化する。
- ③公平な競争環境の創出、ビジネス環境の改善、企業の競争力の向上。
- ④経済成長と社会進歩を同時に考慮し、重視する。貧困削減計画を引き続き実施し、社会保障制度を改善する。
- ⑤国家機関の能力向上、社会主義志向の市場経済体制改善を持続する。



○質疑応答

①ベトナムがより強力な経済成長を達成するためにベトナム計画投資省はどのような戦略をとっているか。

A.我々の戦略の目的はベトナムを産業の豊かな国に成長させることであり、それを達成するためにマクロ経済の安定、経済の再編、環境開発、社会の格差や貧困の削減が重要である。ベトナムがより強力な成長を遂げるために重要なのが、五ヵ年計画である。五ヵ年計画の3つの目標が経済発展、社会の発展、環境問題の解決である。これらを改善することが重要である。

②日本の企業はベトナム経済においてどのような役割を果たしているか。

A.日本の企業はベトナムの経済成長に大きな役割を果たしている。1つ目に資本導入に大きく貢献している点である。日本の企業はベトナムに大きなFDIをもたらすからである。2つ目は技術である。日本の企業はベトナムに技術力とノウハウをもたらすからである。

③日本とそのほかの国では役割としてどのような違いがあるか。

A.日本はほかの地域と違いベトナムと同じアジアの国であることから価値観が類似している。文化伝統や歴史がベトナムと類似している。また日本は効果的な近代社会経済成長を経験していることから、ベトナムに大きな教訓をもたらす。

④将来の投資に関して現在どの分野がベトナム政府に注目されているか。

A.FDIによって人的資本や投資環境の改善、行政改革や新技術・マネジメントの活用促進もたらされる。特に高度な技術や高いレベルの人的資本の形成にFDIは利用される。ベトナム

政府は将来の FDI を非常に重要視している。将来不足が心配される投資資金の資金源として FDI は重要であり、10 カ年戦略でも欠かせないものとなるだろう。

⑤ベトナム政府は貧困削減の方法としてどのようなものをするつもりであるか（特に農業）。

A. 貧困の削減はベトナムにおいて急を要する大きな課題である。ベトナムの成長は目覚ましいが、いまだに貧しい国である。一人当たり GDP は 1,100US ドルを超え、貧困削減に尽力している。全体の貧困率が 10%ほどになっている。貧困率が高い地域が地方に集中し、また少数民族に偏ってしまっている。貧困を解消するために、政府は社会保障制度、雇用プログラム、マイクロファイナンス、貧しい家庭の子供への支援を行っている。

⑥経済成長と格差の是正ではどちらを優先すべきか。

A. 五カ年計画では経済成長、社会の発展、環境開発が支柱である。当然、経済成長は重要であるが、同時に格差の是正も重要な問題であり、それを同時に解決することが目標である。経済成長と格差の是正は相互に補完しあう。経済成長は格差の是正を補助し、格差の是正は経済を安定化させるため経済成長につながる。

⑦環境改善や、医療保障、格差の是正などのプロジェクトの中でどれが最も優先度が高いか。またその理由はなぜか。

A. どのプロジェクトも重要であり、我々はこれらをいかにすべて実行し、実現し解決するかが大きな課題である。

⑧経済成長を達成する上で主要な課題はなにか。

A. 3 つ大きな課題がある。1 つ目は経済インフラである。高速道路や IT の整備が経済成長には欠かせないだろう。2 つ目は高い質の人的資本の開発である。教育者の育成が人的資本の開発につながるため重要である。3 つ目は国際経済に参画していくことである。そのほか貧困の削減も大きな課題である。

⑨ベトナムにおける FDI の役割はなにか。

A. FDI はベトナムに投資や経済成長、経済再編などをもたらす。また技術の移転や国家予算（税収）においても非常に重要である。また新たな未成熟な部門（ベトナムでは農業部門）の成長に関しても非常に重要である。

⑩TPPには大きなメリットとデメリットがあると思うが、もし中国がTPPに参入したら大きな影響がでるだろう。そこでベトナムが参入するかについてどのように考えているか。

A.TPPにメリットデメリットの両方があるがベトナムはTPPに参加する。TPPはFTAと類似しており、貿易や投資の機会を生む。また開放政策の進展や企業のビジネスチャンスの増加なども大きいだろう。

⑪FDIはハノイやホーチミンなどの都市に集中し地方には行き渡っていない。これが所得格差につながっていると考えられるが、この課題をどのように考えているか。

A.政府は地方にも海外投資がいくような補助をしている。1つ目は経済インフラを整備するなどして、投資によりよい環境を地方に作ることである。2つ目は五カ年計画などで、投資のインセンティブをこれらの地域にも与えることである。



集合写真

ベトナム中央銀行

文責 山本彩加

1. 訪問先：9月11日火曜日 16:00～17:00

2. 場所：49 Ly Thai To – Hoan Kiem, Hanoi



3. ヒアリング先：ベトナム中央銀行 Ms.Duong

4. ヒアリング内容：

○機関概要

ベトナム中央銀行(以下 **SBV** と呼ぶ)は金融、銀行業務を実行・監督する中央政府の機関である。具体的な業種職務は①紙幣の印刷、造幣、保管、②短期信用と流動性の提供、③金融市場の規制、公開市場操作の実施、④決済システムの管理(決済状況の管理、決済サービスの提供、非現金決済の拡大と発展を奨励する政策の実施、国庫へのバンキングサービス等)、⑤情報システムとバンキングサービス関連情報の提供、⑥ベトナム企業の信用情報管理及び運営等、である。(以上 **SBV** のホームページより)

○説明内容

(1)経済概要

ベトナムは 2007 年に **WTO** に加盟したことで国際市場からの影響を受けやすくなった。加盟をきっかけに海外からの直接投資が増加、貿易依存度もほぼ倍になった。このようなプラスの効果があった反面、世界経済の動向、特に金融危機の影響を受けやすくなった。ヨーロッパの債務問題によりヨーロッパ向け輸出そしてヨーロッパからの直接投資が減り、国際収支が悪化、また景気の下支えのために歳出を拡大した結果、財政赤字が 4～5%のマイナスとなった。GDP の成長率は 7%で国際的に見ても高水準を保っているが、不安定要素が大きい。貿易収支は赤字であり成長を直接投資といった海外からの資本調達に大きく依存していること、加えて銀行部門が大きな課題を抱えていることを考慮すれば、経済成長の質としては良くない。ベトナムはインフレ率の変動が激しく、2008 年前半には物価上昇率が 20%を超えていたが、その後リーマンショックの影響で景気の後退とともにインフレは収まった。しかし 2011 年に入って夏ごろから再びインフレ率が昂進した。その後年末から 2012 年にかけて尾を引くヨーロッ

企業訪問

金融不安の影響などから収斂を見せている。しかしながらインフレの水準は依然として高く国民生活に対する深刻な問題となっている。インフレの動向を見極めつつ中央銀行は政策金利の切り下げを行っているが、企業の資金調達(資金繰り)が銀行に依存していること、その銀行部門にも大きな課題があることに十分注意する必要がある。

(2)政策内容

①政策目標

一つ目に、変動しやすいインフレ率をコントロールする。二つ目に、GDP の成長率を安定的に高くする。三つ目に、金利水準を低めに誘導しつつ、為替を安定させる。

②最近の実施内容

(i)インフレが収斂傾向を見せているため、2012年に入ってから政策金利を段階的に5回下げ、計5%下げた。

(ii)預金金利上限を引き下げた(一か月超1年以下の預金金利上限9.0%、12ヶ月超の預金金利に対しては上限を設定しない)。

(iii)4分野に関しては特別に貸出金利上限を設定し優遇した。

(iv)2011年の与信増加率目標を20%以下とし、商業銀行に対し増加率を20%以下とする規制を課したが、実績は12%であった。2012年の与信増加率目標は15~17%とし、商業銀行を4つのグループに分類し、グループごとに異なる与信増加率の上限を定めた(グループI:17.0%、II:15.0%、III:8.0%、IV:0%)。

(v)金融機関への監査活動も積極的に実施。

③政策の結果

まず、インフレに関してだが、2011年の消費者物価上昇率は18.7%だったが、2011年9月から連続12ヶ月物価は下落し続けている。しかし、金融政策の緩和への転換による経済成長の加速に伴って、2012年末には7~8%に上昇すると予想される。インフレ率が沈静化したことや、国際収支が改善し外貨準備率は増加したため、為替レートは安定した。次に、GDPに関してだが、2012年のGDPの成長率は、第一四半期は4%、第二四半期は4.6%、第三四半期は5~5.6%となっており回復していることがわかるが、インフレへの対処を行った結果前年度と比べると下がっていることがわかる。最後に、金利水準に関して、貸出金利は、2012年当初と比べて2~3%低下している。また預金金利は3~5%低下している。

企業訪問

○質疑応答

①貸出金利優遇企業とは具体的にどこですか？

A.農業、裾野産業、中小企業、輸出の4つの分野に属する企業である。貸出金利の上限は13%である。

②預貸率が他国と比べて高いのではないのでしょうか？

A.2011年年末には100%以上だったが、現在は90%と下がってきている。基本的に70-80%の比率が望ましいが、一概に高いとは言えないし、その比率は各金融機関が決めれば大丈夫である。

③金利水準が高すぎるのではないのでしょうか？

A.1つ目にインフレがとても高いこと(2011年年末には18.13%)と2つ目に企業の調達に銀行ローンなのでこれは銀行にとって一つの大きな収入であることが背景にある。対策として貸出金利の上限と預金金利の上限を設けた。

④海外の銀行が自由に支店を出すことはできるのでしょうか？

A.制限している。支店を出すときは中央銀行の許可が必要。また、国営銀行や民間の商業銀行や外国の銀行などを合わせると100店以上あり、現在は整理したいため、支店の増大を抑えたい。

企業訪問



スタッフのかたにお話を伺った会議室。インタビューが始まる前。



集合写真

ホーチミン市都市鉄道建設事業

文責 レック・エミリ

1. 訪問日：9月14日金曜日 9:00～10:00

2. 場所：35/11 D5 Street, Ward 25, Binh Thanh Dist. HCMC

3. ヒアリング先：NJPT Association for
General Consultants' Service



日本工営株式会社

4. ヒアリング内容：

○企業概要

日本工営株式会社は1946年に設立しており、地域づくりと人々の生活空間の構築などを目的とし、社会基盤の整備や維持管理に関わる総合的な建設コンサルタント事業を行っている。開発および建設技術コンサルティング業務ならびに技術評価業務のほかに、電力設備、各種工事の設計・施行、電力関連機器、電子機器、装置などの製作・販売にも携わっている。また、日本工営はアジアを中心に、アフリカ、中近東、中南米など世界60か国以上で、水資源・河川、エネルギー、都市・地域開発、運輸・交通など幅広い分野で途上国の発展を支える多数のプロジェクトを手掛けている。

○説明概要

現在、日本工営が担当しているホーチミン市都市鉄道建設事業については、ホーチミン市中心部のベンタインから、市東北部に位置するスオイティエンまでの区間において19.7キロの都市鉄道が建設される予定である。事業内容は次のように分けられており、1) 地下区間および高架区間の土木工事（地下駅、高架駅および軌道工事を含む）、2) 車両基地工事 3) 電気・通信・信号システム関連、4) 車両調達。円借款承諾実績に関しては、このプロジェクトの総事業費は約2,281億円（内円借款対象1,997億円）の見込みであり、今後第3期以降も借款を供与する予定である。鉄道建設事業の進捗状況は、高架区間は2012年5月に契約されており、2012年8月に着工された。他は現時点では未だに入札中だが、順調に行けば2018年開通の見込みである。

○質疑応答

① バイク利用が多い中で電車を使ってもらう戦略はどのようなものですか？

A. 1) モータライゼーションの進展で歴史的に鉄道事業は斜陽産業となったが、モータライゼーションの更なる進展で道路渋滞問題が深刻化し、現在は世界的に大量輸送手段である鉄道の役割が見直されている状況にある。

2) 鉄道が有利とされるのは、①都市鉄道、②長距離高速鉄道（新幹線）、③拠点間貨物輸送（内陸部への貨物輸送、資源輸送など）の場合。近距離都市間旅客輸送や、一般の貨物輸送は鉄道は道路輸送に対して優位性がなく、事業として成立させるのは難しい。

3) ベトナムでは都市内の交通手段が、①自転車（過去）→ ②バイク（現在）→ ③自動車（将来）と変換する。現在のバイク利用者が自動車利用者に切り替わると、都市内では大変な道路渋滞が発生する。MRT（大量高速輸送機関）計画はそのような将来を想定しての対策。

4) MRT 1路線のみの調整ではバイク・自動車からの十分な利用者転換が望めない。東京のように MRT ネットワークを整備し利便性を高める必要がある。

5) 現在ベトナム政府はバイクから自動車への転換を抑えるため、バイクの乗車定員をゆるく設定している（法令上 Max 大人 2 名、子供 1 名の計 3 名。実際には大人 2 名子供 3 名が乗っているケースも多々）。将来バイクの乗車定員を抑えることにより公共交通への転換が促進される。

6) 日本のような公共交通費（通勤費）の事業負担制度の導入が検討される必要がある。これにより都市部の人口集中が郊外に拡散されることも期待でき、これが MRT の利用者となる。

② 電車の混雑をどのように予測していますか？

A. 1) 将来利用者需要は MRT マスタープラン策定時に将来交通需要予測（4 段階推定法）により算定している。

2) この将来需要値（目標年 2040 年）に対して、設定した一両当たりの乗車定員をベースに、一列車当たりの車両数と車両運転間隔を決めている。

③ ソフト面での支援が充実していますか？

A. 1) O&M カンパニー設立支援：概要の所で説明の通り、制度・組織作り支援を対象に別途技術協力プログラムが進行中。MRT 運転手に対する研修・免許制度もこの中で検討されている。

2) Operation 指導：GC 契約の中で、GC が開業前に運転手に対する Operation 指導を行う。

3) Maintenance 指導：鉄道システムコントラクターが開業後 5 年間 O&M カンパニーの職員を指導しながら実際の鉄道システムの Maintenance を行う。

④ ホーチミンの鉄道事業は今後将来においてどのように発展すると見込んでいますか？

現在建設中の鉄道はそれにおいてどのような役割を果たすと考えていますか？

A. 1) 前述のように、将来さらにモータライゼーションが進むと、自動車利用者が急増し、都市内で深刻な交通渋滞が発生し、大気汚染などの社会問題も発生する。MRT はそれに対する唯一の対策といえ、役割は大きい。

2) マスタープランで示されているように将来は MRT7 路線+LRT2 路線が整備される計画であるが、実現できるかは事業資金の手当て次第。ベトナム政府自国資金は十分でなく、外国からの政府開発援助 (ODA) の拡大が求められる。

3) 鉄道事業は巨額の初期投資を必要とし、さらに開業後の運営維持管理も事業者側で行わねばならず(その点が道路事業と根本的に異なる点)、民間資金による整備は極めて難しい。

4) MRT 整備により、駅周辺を核とした地域開発が可能となる。地域開発はそれにより鉄道利用者も増えるので、開発の相乗効果が期待できる (田園都市線型開発手法)。

⑤ 日本が支援することの日越それぞれへのメリットは何ですか？

A. 1) ベトナムはインフラ整備 (特に道路) が遅れており、これが外国からの投資を呼び込むネックとなっている。

2) ベトナム政府はインフラ整備する自国予算がまったく不足している状態で、インフラ整備は ODA 頼りとなっている状況がある。日本は最大の ODA 支援国であり、ベトナムとしては日本の ODA (円借) に頼っている状況。

3) 日本のメリットとしては、以下の通り。

①受注する日本企業のビジネスチャンスの拡大 (特に日本タイドが適用される STEP 円借の場合)

②日本の技術基準の海外への普及

③戦略的パートナー (特に対中国) としての外交上のメリット

④ベトナムに進出する日本企業に対するインフラ整備を通じてのビジネス環境の改善

⑥ ベトナム以外に進出を検討している国はありますか？

A. インド、インドネシアのジャカルタとエジプトのカイロなどはある。話は少し変わるが、実は日本以外にもベトナム進出を検討している国は以下にあります。

企業・機関訪問レポート

- 1) HCMC MRT 事業で言えば、ドイツ（2号線）、スペイン（5号線）
- 2) Hanoi MRT ではフランス（3号線）、中国（2a号線）

⑦ 国内では成熟している鉄道産業の海外展開をどのように考えますか？

- A. 1) 現在日本の鉄道事業者のうち数社が海外事業に興味を示している。JR 東日本、京阪、大阪市交通局、東急電鉄など。
- 2) 鉄道事業は土木、建築、鉄道システム（E&M）が混ざった複合事業となり、全体の事業管理（マネジメント）能力が求められる。鉄道会社は各国とも軍隊組織と同じように縦割り組織となっており、事業全体を管理する人材が育成されていない。この点の改善が1つのポイント。
- 3) 鉄道事業は各国とも国内マーケットのみを対象に育成されてきたので、国際感覚（国際基準への適用も含め）を持つことが求められるが、なかなか難しい。
- 4) 英語の問題、国際契約約款への適応も解決すべき問題。
- 5) 日本は世界的にも最先端の技術を持っており、海外展開するのに技術的優位性はあるものの、上記のような課題を克服する必要がある。

⑧ 作り終わった後のメンテナンスの計画はどのようなものですか？

- A. 前述の通り。

⑨ 設計図がなく地下に戦争時の爆弾があるかもしれない状態への対処の仕方はどうなのですか？

- A. 1) UXO (Unexploded Ordinance: 不発弾) 処理は工事に先立って施主が実施する。
- 2) 処理を実施するのは軍の中の不発弾専門の部署が行う。HCMC 人民委員会が軍の専門部隊に業務を発注する形態となる。



➤ 事務所にて



➤ 将来、ここには鉄道が通る



- 現場近くにあった看板。日本とベトナムの国旗が描かれている。



- 建設現場にてヒアリング中

サイゴン東西ハイウェイ建設事業

文責 大橋克樹

1. 訪問日：9月14日金曜日 10:30～11:15

2. 場所：6F, Thien Son Building, 5 Nguyen Gia Thieu Street, District 3, HCMC



3. ヒアリング先：

株式会社オリエンタルコンサルタンツ プロジェクトマネージャー 眞井隆二様、
株式会社大林組 星野様

4. ヒアリング内容：

○事業概要

本事業は、ホーチミン市南西部の国道1号線から同市の東北方向に伸びるハノイ・ハイウェイまでの区間において、サイゴン川兩岸をトンネルで結ぶとともに、トンネル前後の道路を新設、拡幅するものである。2011年11月20日に全線が開通し、今後市内における激しい交通渋滞の緩和が期待される。

○説明概要

〈概要〉

本事業は全長22kmに及ぶ、ホーチミン市内でのハイウェイ建設事業である。実施機関（≒施主）はホーチミン市人民委員会、設計、施工監理コンサルは Oriental Consultants Co. Ltd in association with TEDI and APECO となっている。ホーチミン市内の渋滞解消や運河周辺の環境改善を主な目的として実施された事業である。総事業費は906億円（住民移転含む）であり、その55.1%に当たる500億円がJICAによる融資によっている。しかしながら、上述のとおり2011年11月に全線が開通したものの、実施機関からの資金支払いが遅延しており問題となっている。最終支払い完了は2013年6月以降となる見込みである。

〈工事の詳細について〉

・パッケージ1

サイゴン河西側の13.4kmの道路建設。大林・PS三菱JVが受注。

企業・機関訪問レポート

2005年5月に工事が開始された。9000件に及ぶ不法占拠住居の撤去、電線や水道管など基礎インフラの移設、湿地帯における沈下防止なども含まれている。

本来2007年に完了予定であったが、住民移転が遅延したことから工期が延長され、2009年2月に完成した。遅延補償金が発生するが、住民移転遅延の責任は施主（ホーチミン市）が負うべきものであるため、実施機関とコントラクターとの間で折衝が行われている。

・パッケージ2

サイゴン河東側の8.4kmの道路およびサイゴン河下のトンネル建設。大林組が受注。

2005年2月に工事が開始された。この区間における工事の目玉は「沈埋トンネル」である。沈埋函と呼ばれる函体を川底に沈めることによりトンネルをつくる工法であり、ベトナムでは初めて採用された工法となる。沈埋トンネルの沈下対策も課題の一つである。

2011年11月に工事が完成した。

・パッケージ3

トンネル部分の設備工事。川崎重工-GTECH JVが受注。

2005年12月に工事が開始され、2011年11月に完成した。

〈コンサルタンツ・第三者技術者の役割〉

コンサルタンツは、詳細設計や予算積算業務、入札に係る諸業務などを行う。また第三者技術者（The Engineer）として、施主へのアドバイス、追加工事の発注、工事監理、査定、係争事項の最終決定などを実施する。法律や経済を含むすべての状況を把握した、公平な判断が要求されている。

なお、ヒアリング後には沈埋トンネルを含む東西ハイウェイを実際にバスから視察した。



○質疑応答

①建設時の住民からの反応はどのようなものであったか？

A.大工事ということで、住民も興味を持っている様子。町中で事業について尋ねられることもある。一方で建物のひび割れや地盤沈下による苦情や、それに伴う金銭の請求も生じている。

②工事をするベトナム人への指導で工夫・苦勞したことはあったか？

A.常識が通用しないという点で苦勞した。ヘルメット着用など日本で常識とされる安全対策が徹底されていない。朝礼や安全大会を日本同様に実施し、指導し続けることが大切だと考えている。技術面では、ベトナム人の QC (Quality Control) スタッフを指導することを通じて、品質の向上をはかっている。また、挨拶の励行を行っている。

③どのように東西ハイウェイ事業の受注にこぎつけたのか？

A.JBIC による ODA への国際入札 (2003 年 5 月) による。入札したのは 4 社。2 位は大成建設で、入札金額は大林組と約 1%しか変わらなかった。その後契約ネゴの遅延などもあり、2005 年 2 月に工事を開始した。

④事業を通じ、ベトナムへの技術移転が出来たと考えるか？

A.沈埋トンネルの工事はベトナムで初めてであるうえ、橋梁工事も基礎工から上部工まですべてを経験できたということは、それ自体が非常に貴重な経験である。日本人スタッフが引き上げた後のメンテナンスに必要な技術の移転が、今後の課題であると考えている。

⑤この大規模インフラ事業を実施するうえで生じた具体的な困難はどのようなものがあるか？またそれをどのように乗り越えたか？

A.工区が広いため、広い範囲を限られた数の日本人スタッフで監督することが問題となった。これを解決するために、優れたベトナム人スタッフを教育し監督業務の現地化を進めて効率的な工事を目指した。また他国で経験を積んだ日本人スタッフも呼び寄せて要所に配置した。

⑥数ある事業の中からこの事業受注を選択した理由は何か？

A.国内での受注が見込めない今日、国外へと視野を広げている。競争も激しいため、機会があれば受注を目指している。ただし、その際には当該国での今後の受注見込みや、治安の安定性なども考慮の材料としている。

⑦全線開通した現在、予想した通りの効果は見られているか？

A.見込みよりかなり少ない。通行量予測は5万台/日であったが、現時点実績では2万台/日となっている。ただし、東部エリアへの行政機関移転や再開発が進行すれば通行量は増加すると考えている。また、市内の交通量や渋滞は開通前より減少しているように感じる。

⑧メンテナンスの計画はどのようにになっているか？

A.2012年11月までは瑕疵期間となっており、その後の管理移譲をスムーズに行うことが重要だと考えている。移譲後は、管理機関が30~40へと細分化される。現在マニュアルの製作要望を受けており、本来ならばすべての機関の現状を踏まえて作成、指導を行う必要があるが、それは難しい。

⑨物価の高騰は工事に影響したか？

A.材料費や労務費など、影響は大きい。ただし、物価上昇分は施主にクレーム出来る契約になっており、現在交渉している。

⑩ホーチミン市の支払い遅延は他の事業にも発生しているのか？

A.契約上、基本は第三者技術者が工事の確認及び支払いに関する権限を有しているが、現状は、第三者技術者が工事に対しOKを出しても市が支払いを行わない。工事遅延、支払い遅滞ともに、施主の過剰な干渉が原因にある。



集合写真

ホーチミン市下水管理能力開発プロジェクト(フェーズ2)

文責 石塚卓

1. 訪問日：9月14日金曜日 14:30～16:30
2. 場所：Binh Hung Commune, Binh Chanh District, HCMC
3. ヒアリング先：大阪市建設局 浜田哲也様、藤田武士様
アシスタント ハー様、バオ様



4. ヒアリング内容：

○プロジェクト実施の背景

ベトナム最大の都市であるホーチミンは急速な工業化と都市化に伴い、未処理の家庭排水及び工場排水の流入による河川や水路の水質汚濁が深刻化している。ホーチミン市の合流式排水施設は植民地時代の宗主国・フランスによって1870年台に建設されたが、当初の設計人口は150万人を想定しており、処理能力は大幅に不足していた。

近年のホーチミン市の下水道計画は、主に日本・ベルギー・世界銀行の支援を受け下水・排水インフラ整備は改善されつつある。

その中でも日本による支援は以下のような経緯をたどっている。

JICA開発調査「ホーチミン市排水・下水道整備計画調査」(1998-1999)に基づき、円借款事業「ホーチミン市水環境改善事業(第1期・2001年～建設中)(第2期・2006年～建設中)」による下水処理場及び排水インフラ整備が行われた。今回訪問したビンフン下水処理場は日本の円借款により2009年に建設されたベトナム初の近代下水処理場である。

しかし下水道施設の管理者であるホーチミン市洪水管理センター(SCFC)の管理運営能力は人材、技術、機材、システム、連携等の面で不足しており、下水・排水インフラのハード整備に、組織としての能力が追いつかない状況にある。このような背景から、日本の経験と知見に



フランス植民地時代に造られた側溝。
街の至るところで目にする事ができる。

企業・機関訪問レポート

よる洪水管理センターの能力向上を目的に2009年から10年にかけて、ホーチミン市からの要請に基づきJICAにより「ホーチミン市下水管理能力開発プロジェクト(フェーズ1)」が実施され、主に先行研究が行われていた。その第二段階として本プロジェクトが実施されている。浜田様・藤田様は官民連携による水道事業の海外展開を重要業務として位置づけている大阪市の職員であり、長期専門家として2年間ホーチミン市に派遣されている。

○プロジェクト概要

ホーチミン市下水管理能力開発プロジェクト(フェーズ2)

プロジェクト期間:2011年9月～2014年9月

プロジェクト目標:ホーチミン市洪水対策センター(SCFC)の下水管理能力の向上

本プロジェクトに求められる成果は以下の3つがあり、それぞれの成果を達成するために活動が分類されて行われている。

- 成果1:タウファー・ベンゲー・ドイテ排水区におけるSCFCの事業運営能力が向上すること。
 - 活動内容:SCFC 組織強化、資産管理システム導入、人材育成計画、広報・啓発活動計画、水質管理能力向上
- 成果2:SCFCの業務委託会社の選定および監督能力が強化されること。
 - 活動内容:監督能力向上、維持管理契約手法改善、維持管理計画
- 成果3:ホーチミン市における下水整備プロジェクト実施のロードマップ計画立案能力が強化されること。
 - 活動内容:ロードマップ策定能力開発

ホーチミン市の汚水処理および下水処理施設の現状として、以下のようにご説明頂いた。

まずホーチミン市の汚水処理施設に関しては、ホーチミン市に存在する工場施設のうち、約90%の施設はオンサイト排水処理施設を設置していないことが問題となっている。排水管理の点から見ると、高度な排水処理を必要とする工場施設は、同様の工場施設をま



めた上で郊外の工業団地に移転させ、そこで一括して排水処理を行うべきであり、郊外への移

企業・機関訪問レポート

転が難しい工業施設に対しては、下水管および下水処理場の機能を保護するための適切なオンサイト排水処理施設の設置が必要である。

ホーチミン市の下水道施設については、市内1日の下水は約200万トンであるが、下水処理ができてるのは現時点で約17%であり、市内の多くの汚水が放流されているのが現状である。各家庭にはセップテックタンクが設置されており、し尿を沈殿させてから下水として排水されているが、やはりきちんとした下水処理が必要。ビンフン下水処理場の処理能力は141,000m³/日であるが、今後処理施設を3倍に拡大して処理能力を約480,000m³/日まで高め、処理区域が大幅に拡大される見込みである。



ビンフン下水処理場の沈殿槽から
管理棟等

下水処理場は現在の3倍の大きさに拡大される予定であり、SCFCの下水管理能力開発プロジェクトが実施されている。

○質疑応答

①タイの洪水被害をどう受け止めたか?

A.タイとベトナムは地形が似ており、ベトナムは海面の上昇の影響を最も受けやすい国のひとつであり、深刻に受け止めている。洪水対策はベトナムにとっても重要な課題の一つとなっている。

②ベトナム人自身の環境意識はどのようなもの?

A.ベトナム人自身もきれいな水環境を求めているが、行動が伴わないのが現状。市内でも路上にごみを放り投げるのをたびたび目撃する。

③施設を管理・維持していく上で、日本の技術をそのまま適用できたか?

A.日本の技術をそのまま適用している。ホーチミン市より要求されている放流基準が日本より1段階低いため反応タンクを小さくしているが、今後排水する水の水質の基準を厳しくするようホーチミン市から要請されても十分に対応することができる。

④現地企業は汚水処理に協力的ですか？

A.排水を直接河川へ流す、井戸を掘り汚染物質を埋める、検査時のみ施設を動かすなど、基準を守れていない企業が多い。現地企業は協力的であるとは言い難く、政府は罰金によりこれらの企業に対応している。

⑤この排水事業により、どの程度現状が改善されましたか？

A.数値的な比較は単純にはできないが、ビンフン下水処理場近辺の運河の水質は大きく改善されている。



管理棟の前にて記念撮影。日の丸とベトナム国旗が掲揚され、日本との共同事業であることを示している。

Column ハノイ観光レポート

ハノイでは特別に観光をする時間はなかったが、プログラムのスケジュールを終えた後の夜や、早朝に少しだけ観光することが出来た。小さい町なので割りとどこでも歩いていける。

○ホアンキエム湖

ハノイの目玉とも言える名所、ホアンキエム湖。市民の憩いの場にもなっており、湖の周りでは、遊んでいる子供や散歩する家族、肩を寄せ合うカップルなど多くの人を見かけた。周辺にはカフェもたくさんある。この湖にはひとつの伝説がある。ベトナム(黎朝)



の王が神から授かった宝剣で中国(明)軍を撃退し、その剣をこの湖の小島で金の亀に返した、というものだ。ホアンキエム湖とは還剣の湖という意味らしい。



○ホーチミン廟

ホーチミンの墓。この建造物の大きさと目の前の広場の広さを見ると、ホーチミンがベトナムにおいていかに偉大な存在であるかがわかる。中には永久保存処置を施されたホーチミンの遺体が安置されており、見ることも出来る。しかし、撮影・私語は厳禁であり、短パン不可など服装の指定もある。また、入口には常に2人の警備兵が立っ

ている。せっかくだから、朝早く起きて見に行ったが、ちょうど遺体のメンテナンス期間に入っており、見ることは出来なかった。

○一柱寺

池の中心で、一本の柱の上に立っているお寺。というか小さなお堂。昔は木の柱だったらしいが、今はコンクリートになってしまっている。ホーチミン廟のすぐ近くにある。帰りのタクシー代が安過ぎてびっくり。



Column ベトナムカフェめぐり～ホーチミン～

ホーチミンにはベトナムのコーヒーチェーンであるハイランド・コーヒーやチュングエン・コーヒーの店がたくさんあった。ハノイに比べ、きれいでおしゃれな感じのカフェが多い。

○Kem Bach Dang (ケム・バクダン)

バクダン・カフェとして多くの旅行ガイド本に載っている店。ホーチミンでは老舗のアイスクリーム店。”Bach Dang”は爆弾という意味ではなく、川の名前らしい。”Kem”はアイスクリーム。名物は“Kem Trai Dua”というアイス(写真)。ココナッツの容器にチョコのアイス、次いでバニラのアイスが入っており、その上にライチやドラゴンフルーツなどの果物がのっている。ボリューム満点だが、とても美味しいのであっさり食べきってしまった。確実に私の体重増加の一因を担った曲者。



○MOJO (モージョー)

5つ星のシェラトンホテルの1階にあるカフェ。ドンコイ通りに面してガラス張りとなっている。店内は音楽が流れ、いすも大きくゆったりとしており、かなりくつろげる。しかし、とてもお洒落過ぎるので、人によっては逆に落ち着かないかもしれない。価格帯は現地としては高めで、客も欧米人が多い。ドリンクのメニューが非常に豊富。ケーキも10種類くらいある。夜はバーとなり、お酒も飲めるらしい。ドリンクもケーキも安くはないが、美味しい。盛り付けがお洒落。カップもお洒落。とにかくお洒落。銀座にありそう。



Column ホーチミン観光レポート



様々な訪問を終えた最終日、私たちは一日ホーチミンを視察することができた。「まじめ」な部分はすべて終わり、メンバーの気も楽になったところで、博物館見学やショッピングなどを楽しんだ。ここでは、その様子をお伝えしたい。

まず向かったのは、統一会堂と呼ばれる場所。南ベトナムの大統領の官邸として使用された建物だ。ベトナム戦争終結時、北ベトナムの軍隊がこの建物に突入したことにより、「サイゴン陥落」となったという、歴史ある建物だ。「歴史ある」とはいつても、官邸として使用されていたのはたかが数十年前のこと。豪華な調度品や当時使われていた作戦室など、かなりリアリティを感じる建物だった。

次は、戦争博物館へ。ベトナム戦争の戦禍について様々な資料を展示する場所で、民間人を対象に行われた米軍による虐殺の写真や遺品などを見ることができる。かなり生々しい写真

も展示されていて、その悲惨さにシ

ョックを受けた。また、世界中の反ベトナム戦争運動や社会主義運動のポスターなどもあり、社会主義国のベトナムらしい博物館だという印象を受けた。

そして、ホーチミンに残るヨーロッパ風の教会と郵便局へ。ベトナムにいるとは思えないような建物に驚かされた。教会も郵便局も19世紀末に建てられたそうで、植民地としてのベトナムの歴史を感じながら、とりあえず写真撮影。



ベトナムの複雑な歴史に触れた後は、「シクロ」と呼ばれる人力車に乗車。日本の人力車とは違い、客が乗る部分の後ろに自転車がかっついている形なので、乗っている客はかなりのスリルが味わえる。バイクや車で混沌としているベトナムの道（車道）を人力車で駆け抜けるのは、とてもわくわくする体験だった。運悪く大粒の雨が降ってきてしまったのだが、シクロを漕ぐおじさんたちは、何でもないことのようにビニールシートを取り出し、客として乗っている私たちの前にかけてくれた。

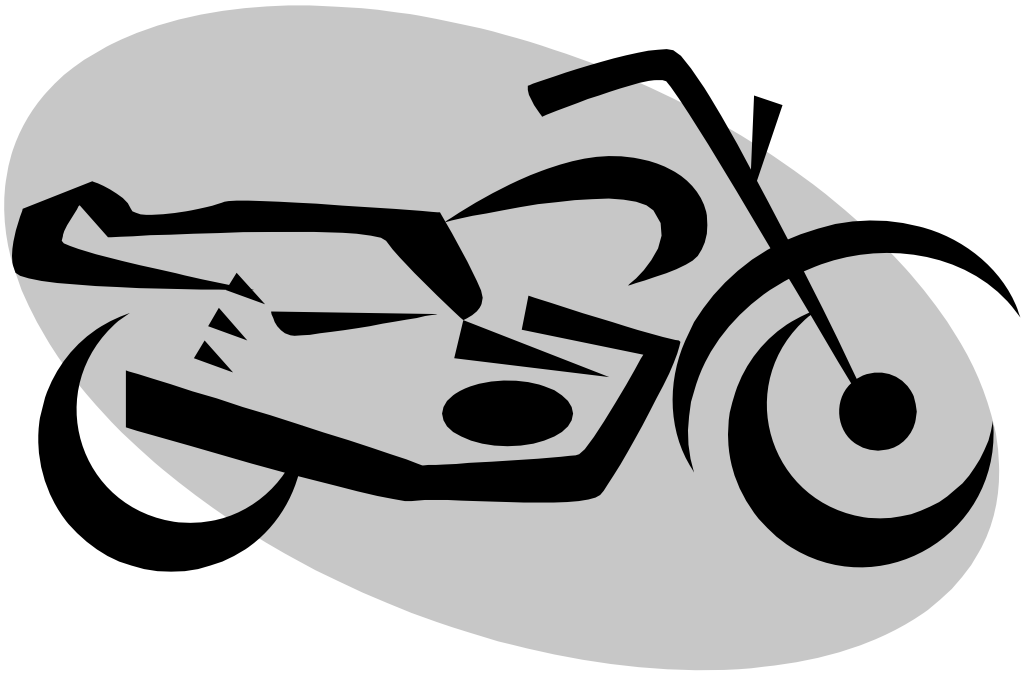


ベトナム名物のコーヒー！

シクロで向かった先は、ホーチミンで有名なベンタイン市場。衣料品や雑貨、食料品などが売られており、観光客をターゲットとしたお土産屋さんも多い。かなり広い空間に、ものすごい数のお店があり、迷路のようになっている。お店とお店の間をかきわけながら進むような感じで、物量に圧倒された。この市場の名物は、「値切り」。商品には値段がついていないことも多く、値段は売り手と買い手の交渉次第でもある。メンバーも張り切って値切りをし、次々にお土産をゲットしていた。時には、最初に売り手が言った値段の3分の1で買えることもあり、驚くやら少々心配になるやらで、面白い買い物体験だった。お店の人の多くは、数字や挨拶程度は日本語を話すことができ、英語は商売に困らない程度には話せるようで、少し感心してしまった。最近「グローバル人材」がもてはやされるようだが、

本当のグローバル人材はこういった商魂たくましい人々なんじゃないだろうか…。

IV 部



調査プログラムを終えて

- 個人レポート
- アルバム

ベトナム研修を経た決意

経済学部3年 石塚卓

冒頭でも簡単に述べたが、私がこのベトナム短期海外調査に参加したきっかけは、現在勉強していることを生かして、将来世のため人のために海外で働きたいという希望があったからだ。そのためにただの旅・留学でもなく、ただの海外インターンでもない体験を従来からしたいと考えていた。そのような時にこのプログラムを見つけ、自分が望む体験と一致するのではないかと期待して応募した。当初抱いていたこの漠然とした想いをベースにベトナム短期研修の振り返りをしたいと思う。

ベトナムで働く様々な立場の人のお話を聞き、働き振りを拝見させていただいたことは何事にも代えがたい収穫であった。官民の違いはあるにせよ、JICA、JETRO、日系企業の方々のお話からは、日本人の立場からベトナムで働くということの意味について学ぶと同時に、仕事の上でベトナム独自の困難があることも学んだ。計画投資省や中央銀行の方々はひずみを抱えつつ成長を続けるベトナムを今後どの方向に導くかについて、世銀の方はそのようなベトナムを国際機関としてどのようにサポートしていくかについて語って下さり、この国の将来について考えを深めることができた。また財政大学との討論会を通じては、ベトナムが抱える諸問題について熱い議論を展開することができ、今後この国を支える同世代の大学生のエネルギーに圧倒されつつも交流を深めることができた。このようにベトナムという国を非常に多くの視点から学ぶことができ、自分の視野を広げることができた。

こうした多くの方との出会いを通じて強く感じたのはベトナムという国の独自の難しさだ。ベトナムは東南アジアの中でも高い経済成長率を誇り中国の次の生産拠点として・有望な市場として注目を集めつつあるという報道を多く目にする。多くのメディアがこのような報道をする中現地に赴いて感じたのは、ベトナム経済が多くの難題を抱えた未熟な状態にあることであり、日本の企業もビジネスを展開する上で多くの苦労を経験しているということだ。金融政策のかじ取りはいまだ不安定であり、多方面での産業の人材の育成・裾野産業の育成が急務であると計画投資省の方もしきりにおっしゃっていた。日系企業の方は未払い問題、不透明な行政指導といった社会主義国家としての難しさを指摘しており、また企業文化が始まって歴

個人レポート

史が浅いベトナムでは他国で通用するビジネスの仕方が通用しないということ、現地調達が他国と比較して困難であることもおっしゃっていた。日本と全く異なる考えや文化を持つ人々と良好な関係を築いて仕事を行うことがいかに困難かを知った。

しかし研修に参加して発見したことはこうした現実だけではない。ベトナム経済の傾きは間違いなくプラスであるということだ。特にハノイで感じたのだが、市場で生活する人々は非常にエネルギッシュであり、希望に満ち溢れていた。ベトナムには計り知れない多くの可能性があることをこの目で確かめることができた。

そしてこうした国で働くことのやりがいについても多くの方々が語って下さった。特にホーチミン市都市鉄道建設に携わる合川さんが「やっと、やっとここまで来たんだ」と着工が始まった工事現場で発せられたときの表情が私の脳裏に強く残っている。多くのバイクがホーチミン中心部に向かって走っている幹線道路のすぐ隣に、ベトナムの都市交通を変えうる鉄道が走る姿を想像して私も身震いを感じた。将来自分の行いによりそのような実感をしたくと強く感じた。

冒頭に私がこのベトナム短期研修に参加した理由を述べたが、当初の思いと比較した現在の心境を簡単に触れることでまとめとしたい。将来私は現在勉強していることを生かして、世のため人のために、海外で働きたいという希望を持っていたが、そんなに簡単なものではないことを知った。しかしその事実を知ったことも収穫であった。勉強不足を痛感し、文化や習慣の違いなど現地に来てみなければ知りえなかった多くのことを知ることができた。そしてその思いを一步踏み込んだ形で再確認できたからだ。また考えや文化の異なる異国の地で働くためには、まずその国を好きになることから始める必要があるとの言葉を如水会の懇親会の場でいただいた。その次にすべきことについて考えるのは私に課せられた宿題であろう。

またこのプログラムではベトナムという国を通じて見た日本、アジアという立場から見た日本を感じることもできた。日本の存在感はベトナムにおいて非常に大きいと感じた。将来日本人の一人として自分にも活躍の舞台はあるのではないかと感じ、自分も将来日本のプレゼンスを高められるようなことをしたいと強く思った。

この1週間で具体的な何かを成し遂げたわけでは決してない。しかしこのプログラムは自分の勉強不足・非力さを感じさせつつも、私にアジア・世界を強く感じさせ、今後のキャリアに大きな影響を与える貴重な体験を与えてくれた。この研修の成果は今後の自分の将来にかかっていると言えよう。ベトナムで肌で感じ取ったことを今後の将来に生かしていきたい。

ベトナムでの日々を振り返って

法学部3年 岩田典久

海外経験のなかった私にとってベトナムでの研修は、現地に行くことでベトナムという国についての理解を深めるとともに、国際社会における日本というものを見直すきっかけともなった。簡単ではあるが、感じたことを述べたいと思う。

○五感で感じたベトナム

百聞は一見に如かず、とはまさに言い得て妙である。ベトナムについて日本でどれほど調べようと、現地での体験には勝らないのだと実感した。まず空港に降り立つと、ムットとした空気が体を包む。マイクロバスに乗ってハノイ市内へと向かう途中にはだだっ広い工事現場にいくつものクレーンが見える。あまり整備されてない道を進むがゆえに、振動が体を揺らす。ハノイ市内に入ると、道路を埋め尽くすバイクが目に入る。バスを降りれば、耳には鳴り止まないクラクションやエンジン音。排気ガスの嫌な臭いと東南アジア独特のエスニックな香りが鼻を抜ける。自分が日本を出て、海外にいるのだということをまざまざと実感させられ、なんともいえない新鮮な感覚に支配される。このような感覚は、いくら本を読もうが、写真を見ようが、得られるものではない。自分の体でした経験とは、何物にも代えがたい貴重なものだ。(ちなみに、美味しいもの好きな私が一番駆使したのは五感のうちやはり味覚であろう。) だから何を得られたのだ、といわれると少々返答に困る。だが、ベトナムにおいて道を渡るのがあんなにも大変で、でも実はコツがあり、慣れてくれば簡単に渡れてしまう、なんていうことは、自分で体験しなければわからなかったのである。また実際に、若者で溢れる街の活気に満ちた様子を見たり、高層ビルの立ち並ぶ区域と市街地の違いを感じたりする中で、急成長を遂げている最中のベトナムの姿、そしてベトナムに秘められたパワーというものを実感することが出来たのである。

個人レポート

○国際社会における日本

短い期間ではあったが、ベトナムで活躍する方々の話を聞き、海外から日本を俯瞰することで、国際社会における日本というものを見つめなおすことが出来た。ニュースでは、日韓の軋轢や日本企業の世界市場での後退などが連日報じられ、日本人にとって、自国日本にポジティブな印象を持つのは難しいかもしれない。私自身、日本を誇りに思うことはそんなに多くないだろう。しかし日本の国際協力の現場で働く人たちに話を伺い、その姿を見て、私は日本がやはり尊い国であることを実感した。真摯に物事と向き合い、情熱を持ち続ける。相手と対話することを忘れず、相手のことを思いやる。そんな姿勢が、日本が国際社会において多くの国に支持される理由であろう。相手を理解しようと努力すること、これは単なるきれいごとではなく、非常に重要なことであると改めて感じた。また、企業で働く方々の話にも非常に刺激を受けた。新天地に乗り込み、仕事をするに生きがいを感じるというその姿はとても輝いてみえた。国際社会における中国や韓国のプレゼンスがますます高まっていくなかで、日本の影響力が落ち込みつつあると嘆かれるが、諦観するにはまだ早過ぎる。日本は国際社会において、依然重要な存在であり続けるだろう。それは経済的な側面のみではない。日本の国際協力活動は、確実に日本と多くの国々を強く深く結び付けているのだと感じた。もちろん悠長なことばかりも言っておられず、国際経済における日本の衰退は無視することが出来ない。日本はアジアにおいて群を抜いた先進国であったが、いまや経済規模では中国に抜かれ、分野によっては韓国に遅れをとっている。胡坐をかいているのを辞め、これらの国々から学ぶべきことも多いだろう。しかし、そんなときでも決して私が誇りに思った日本式の姿勢は失わないでほしいと願う。私自身も日々精進し、日本式の姿勢を持って国際社会に貢献できるような人間になりたいと思う。

このたびの研修により、急成長するベトナムのパワーを実感するとともに、まだまだ捨てたものではない日本の姿というものも知ることが出来た。このような素晴らしい経験が出来たこと、また今回の研修で数多くの素晴らしい方々と出会えたことを非常に光栄に、そして幸運に思う。紙面ではあるが、先生方やゼミの仲間、訪問先の方々を始め、この短期調査に携わってくださったすべての方々に謝意を表したい。

研修を通して感じたこと

社会学部 2年 大橋克樹

このプログラムは絶好の機会だと思った。旅行で東南アジアを訪れたことは幾度とあり、また大学でも東南アジアについて学びたいという漠然とした希望を抱いてはいたものの、その現状に対して真摯に向き合ったことはなかった。研修参加にあたり、(簡単なものだとしても)学問的な視角からどのように東南アジアという地域に向き合うことが出来るのかを考える、という目標を設定した。研修が終了した今振り返ると、その目標が達成されたかどうかは心許ないが、一方で以下の点で認識をあらたにすることができた。

○専門性を深めることの重要性

本研修を通じて、日系企業に勤務している方、ベトナムの大学生、外資系企業に勤務するベトナム人の方など、様々な方との出会いの機会を得た。その中で皆さんに共通していたことは、どの方も専門性を身に着け、またそれを武器として勝負している(またはしようとしている)ことである。開発の取り組みでは特に顕著であろうかと思うが、スペシャリストが地域で活動する情熱を持ち、各々の協力関係が構築された環境が形成されることによって、ひとつのプロジェクトが完成される、という過程を本研修で目の当たりにすることが出来た。こうして専門性を深めた人々が、つぎにジェネラリストとして地域の現状を把握し、開発を推進することの出来る能力を得られるのではないかという印象を強く持った。

○東南アジア地域の多様さ

「経済開発」や「企業の海外進出」といったキーワードから東南アジア地域を考えてみると、その際抱く印象はきっと「急激な経済成長」「低賃金労働力」「真面目な人柄」などといったものとなるだろう。勿論このすべてが間違っているわけではないが、しかしながら、その実情は各国によって大きく異なる。例えば、2015年に予定されているASEAN域内関税撤廃に伴い予想される産業構造の変動は、ベトナムとタイでは異なる結果を生むと考えられているとよく言われる。また、その国内市場の規模も大きく異なる(ベトナムのバイクの多さからもそれを垣間見ることが出来よう。ここは現地を歩くことで最も強く感じられる点だと思う)。日本では似通

個人レポート

っているように見える国々の現状を、それぞれ正確に捉える必要性を痛感した。

○日本人が出来ることはなにか

準備段階から「開発において日本人だからこそ出来ることはあるのか」という疑問を抱いてはいたものの、現地でお話を伺う過程を通じ、その疑問はより深まっていった。と同時に、自分が日本人であるという意識が強まっていった。それはむしろ、単なるナショナリズム的高揚のことを意味しているのではない。

ハノイ財政大学の学生の方々と昼食を伴にした際、彼らからはマンガ・アニメに代表される日本文化への憧れや、日本の大学への留学希望をまっすぐにぶつけられた。彼らいわく、工業化においても、資源賦存量や国土の特性、歴史的経緯など、前提条件が多く共通していることから、日本とベトナムは比較し参考にする点が多くあるという。

我々はこれらにどうやって向き合えばよいのだろうか。前でも述べたように、ベトナムを単なる低賃金労働力の供給源として捉えるのでは、なにも齎さないであろう。そこでは、ホーチミンシティの地下鉄建設プロジェクトの姿勢が参考になると考える。すなわち、日本の最先端技術をすべて押し付けるのではなくて、ベトナムの財政や社会を含めた現状を把握し、それに見合った技術を導入するよう試みているのである。

開発というトピックを扱うとき、ODA 支出世界第2位の日本出身であることから、我々は目を背けることは出来ない。また、とりわけアジアで活動するとき、同じく我々は日本出身であることを強く意識させられる。ベトナムでの会話や調査を通じて抱いた最大の問題意識は、そうした背景に直面させられた際に行動し得る「背骨」をつくっておく必要性であった。

ベトナムは経済発展が著しいとはいえ、ハロン湾や山岳部の農村をはじめ、古くからのよき自然がいまだに残る国家である（今回はそれらを堪能する機会には恵まれなかったが）。この国の開発を考えるには、まず何よりもどのような社会をつくっていきたいかをベトナムの人々と情熱的に話し合っていくことが不可欠であり、それを以って始めてこの調査で取りまとめたベトナムの現状が生かされてゆくのではないかと思う。

末筆ながら、本調査にご協力いただいたすべての方々に御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

調査プログラムを終えて

経済学部4年 レック・エミリ

「自分の目で見られた」

去年小田島先生の Selected Topics in Economics: Development Policy in Asian Perspective という講義を取って、そこで貧しい人々が直面する様々な問題について勉強した。しかし、勉強したといっても、そういう問題や彼らが置かれている状況などがわかっているとは限らない。やはり、実際にベトナムに来て、現地の人々の日常生活を見たり観察したりしてから、わかるのではないかと気づいた。むろん、それだけではなく、各企業・組織訪問を通じて、ベトナムの発展過程における問題（水道や、交通など）と他の発展プロジェクトに関してたくさんの情報を得た。まさにグラウンド・ゼロで働いている、各分野の直接関係のある専門家からベトナムの発展事情と彼らの経験に関する言葉を聞いて、非常に貴重な勉強になったことは間違いない。

「生き生きしたベトナム」

上述以外に思ったのは、ベトナムは本当にびっくりするほど、活気に溢れているところだなあということである。ベトナムの人々の熱情にも、私はとても感動した。どうしてみんなこのように元気なのかは、私にとって未だに不思議なものだが、やはり発展途上国だからかもしれないであろう。先進国みたいに、ある程度の経済的な豊かさと生活水準を達したため、そこまで頑張らなくてもいいじゃないと考えている人は少なくないであろう。もちろん、これは一般化されているものであり、また個人的な考えに過ぎない。でも、現在ヨーロッパが債務危機に取り込まれており、日本の財政問題がさらに大きくなっており、アメリカがまだまだ高い失業率で苦しんでいる中で、生き生きしたベトナムに来てポジティブな雰囲気と活気に囲まれてよかったと思っただけだった。

個人レポート

「勉強 X 観光」

最後に、この現地調査プログラムのスケジュールはかなり忙しくて途中で多少疲れを感じるが、今回ベトナムに行ったのは初めてだったから、それは大きな勉強のモチベーションを与えてくれた。毎日今まで見たことがない風景を見たり、食べたことがないものを食べたり、聞いたことがめったにない言葉を聞いたりしながら、企業を訪問してベトナムについての知識を増やし、本当に楽しかった、あるいは楽しく勉強できた。やはり、観光しながら、遊びながら物事を学ぶということは最もよい方法であろう。なぜなら、疲れは感じた時でもインセンティブも存分に感じられるからなのではないだろうか。

さらに、一人ではなく、素敵な準備ゼミの仲間と一緒に学習のための旅に行けることはとても意義のある機会であった。同じプログラムに参加しているみんなはそれぞれ個性があり、仕事をする時に誰よりも真面目でプロフェッショナルだが、遊ぶ時に一緒にいて本当に楽しいなあとと思われる人たちである。こういうメンバーに恵まれてこそ、実りがあって楽しい「調査 X 旅行」ができたに違いない。また、一週間ずっと面倒を見てくださった小田島先生と奥田先生、この旅で出会ったニュンさん、可愛くて面白すぎるガイドさんのティエンさん、驚いたほど私たちを歓迎して話しかけてくれた財政大学の学生たちなど、みんなのおかげでこの現地調査プログラムを無事に終えられ、ベトナムに関する知識のみならず、ベトナムのことと関係なく人生の知恵までも日本までお持ち帰りできた。

たくさんの方々にお世話になりました。ありがとうございました！

研修を終えて

社会学部3年 片岡綾乃

この研修に参加する前、私のベトナムの印象は、「社会主義」「ベトナム戦争」「ドイモイ」といった要素でできていた。もとは社会主義政策をとっており、独立戦争やアメリカとの戦争など経済発展を阻害するような歴史を経てきてはいるものの、ドイモイ政策により資本主義的な経済政策に転換し、現在は新興国の仲間入りをしつつある。それが教科書に書いてあったことだった。

その捉え方は、もちろん間違いではなかった。しかし、その捉え方だけでは、ベトナムの生きた姿を十分に見ることはできないということ、この短期調査で学ぶことができた。ハノイの空港について、まずその規模の小ささに驚き、ハノイ市内に向かうバスの中から見える、ローカル感あふれる光景に衝撃を受け、また路上のバイクの数に唖然とした。うまく機能しているとは思えない信号機や、東京と比べるとデコボコで穴だらけの歩道など、「経済発展しつつある国の首都」という私の勝手なイメージからはかけ離れたハノイの姿があった。また、街を散策してみて、ベトナム人の活気にも驚かされた。路上で食べ物を売る人々や歩道に椅子を出して食事する人たち、3人も4人も人を乗せて走るバイクなど、雑然とした街でパワフルに生活するベトナム人を感じることができた。「発展すれば、都市は東京のような街になり、皆スーツで道を行き交うようになる」というような幻想が自分の中にあっただことに気づかされた。

さらに、ベトナムの特徴的な歴史が、想像以上に現在の社会状況に影響を与えていることも感じさせられた。私は、事前学習で、ベトナムの格差問題について調べていった。ベトナムは、南北に分断されていたときそれぞれ違う経済政策をとっていたので、統合の後も経済発展の度合いに違いが生まれ、かつて資本主義だった南側の方が発展が進んでいる。それは、ハノイからホーチミンに移動したときに自分の目で確認することになった。ホーチミンの方がはるかにバイクよりも車が多く、高い建物も多いように見えた。最終日、ホーチミンを観光し、統一会堂や戦争博物館を見学した。そのとき初めて、たった40年前にはこの国は戦争状態にあったのだということを実感できたように思う。ホーチミン如水会の方が、「この国は企業とい

個人レポート

う文化を30年しか経験していない」とおっしゃっていたことを思い出した。戦争博物館で展示されていた、痛ましい虐殺の写真や兵士・一般市民の遺品が、たった40年前のものである、自分の両親ぐらいの年齢の人たちが戦争を経験しているということは、私にとっては衝撃的だった。逆に言えば、それまでは知識としてあったはずの「ベトナム戦争は1960年代～1970年代」という事実が、本当には理解できていなかったのだと思う。

もう一つ私が感じたことは、ベトナムで働く日本人の方々が、日本という国に誇りをもって仕事をしていらっしゃるのだ。もちろん、海外進出したからには、その分の利益を上げなければならない。限りないプレッシャーを抱えながら、異国の地で仕事をする苦労も、たった一週間ではあったが様々な駐在の方から感じる事ができた。しかし、そのプレッシャーだけを原動力としているわけではないように私には見えた。日本の優れた技術やノウハウを伝えたい、あるいは日本がアジアをリードして発展していきたい、ベトナム人がよりよい生活を送れるようにしたい、といった、(ちょっとくさい表現かもしれないが)「情熱」の部分を感じることができたように思う。

私も、以前から途上国や新興国で働きたいと思っていた。しかしそれは、「日本ではもう見ることでできないだろう経済発展の現場に居合わせてみたい」「沈みかけた日本から抜け出したい」という気持ちも正直なところ大きかった。しかし、私たちが出会った日本人の方々は、みな自分の持つスキルや自分の故郷である日本に誇りを持っており、自信とプライドをかけて仕事をされていた。そんな姿を見て、自分の仕事観や将来への考え方を改めるきっかけにもなったと思う。

まとめると、私は今回の研修で、「新興国」「途上国」といったフィルターである国を見ることの危険さ、その国ごとの歴史や文化が経済や社会に与える影響の大きさ、そして海外で働くということの面白さを感じることができた。社会学部で経済の知識が全くなかった私にもこのような機会を与えていただいたことに感謝したいと思う。

ベトナム海外研修

経済学部2年 仲建紀

私がベトナムの海外研修に参加しようと考えていた理由は途上国という位置づけであるベトナムに行くことで、途上国に関する知識と現状の差を理解すること、また日本とはまったく異なる環境を知ることによって自分の世界を広げることになりました。これらの目的は今回の海外研修を通して達成できたと考えています。

□ベトナムのインフラ状況

事前の学習においてベトナムのインフラの状況については大まかに把握していました。実情としましては、交通に関しては主な移動手段はオートバイとなっています。車は高級品となっており、オートバイは日本の車の価値と同様に一般家庭の年収と同等であります。町に出歩いた際にはほとんどがオートバイであり自動車はあまり見かけませんでした。道路はハノイ市やホーチミン市の中心では整備されていますが、市街地ではいまだ整備はいきわたっていませんでした。信号に関しても同様です。また下水処理に関しても全体の20%ほどしか処理されておらず不十分であるといえるでしょう。ただ下水処理の施設に関しては日本と同レベルの技術が使用されています。また浄水処理も不十分であるため水道水も基本的に飲むことはできません。これらのインフラ事業はJICAさんが支援をすることが多いため技術的には高度なものが使用されています。

□ベトナムの所得格差

私たちは財政大学と討論するにあたってベトナムの所得格差をテーマにおきました。この所得格差に関して私たちは所得格差は大きく改善すべきだ、と考えました。しかしこれははたして正しいといえるかは疑問です。たしかに自転車に乗る人、オートバイに乗る人、自動車に乗る人。富裕層向けの日本でも見るような高級店もあれば貧困層・一般層に向けた店もあります。数値としては所得格差は大きいですが、それでもベトナムの人々の生活には日本にはないような活気がありました。私たちが夜にベトナム市街地を視察した際には、公園では大人子供関係なく百人を超えるほどの人々が遊びみんな笑顔を浮かべていました。事実としてベトナムの幸福度は

個人レポート

世界第二位です。その事実を私は肌で感じました。ベトナムには大きな所得格差はありますが、それ以上のものがベトナムにはあるのだということを知りました。

最後に私が今回の海外研修で一番感じたことはベトナムの成長の余地は考えていたよりも大きいということです。よくいわれているのは現在のベトナムは高度経済成長期の日本と同じであるということです。インフラは整備されはじめていますがいまだ整備はいきわたっていません。インフラの整備は中途であり、しかし経済成長は著しい。インフラの整備には多くの雇用を生み経済はさらに大きく成長します。地下鉄やハノイ・ホーチミン間の高速道路などが整備されることによって物資の流通が潤滑に行われることやそれらによって地方も開発が進むこと、そうすることでベトナム経済は今よりも大きく発展するはずです。

高度経済成長期から数十年経って今の日本はあります。ベトナムはまだ成長ははじまったばかりです。数十年後ベトナムは現在の日本よりも大きな経済大国になる可能性は十分にあります。私の狭い識見ではベトナムが今後どのような成長を遂げるかはわかりませんが、私はベトナムが大きく発展し日本を越えるような国になることを信じています。

ベトナム短期海外研修を終えて

経済学部3年 中川瑛

ベトナムという国に対して、研修前に持っていたイメージといえば、東南アジアにある社会主義の国、春巻きやフォーといったベトナム料理、アオザイ、三角の帽子（ノンラーというらしい）といった程度のものであった。歴史的な視点で見れば、ベトナム戦争で大きく取り上げられる。最近は商品に“made in Vietnam”の表示があるものもあるが、普段日本においてベトナムを身近に感じる機会はそう多くはない。ベトナムに対して上に挙げたようなイメージを持つ人が多いのではないか。

この研修を通して私自身が感じ取った「ベトナム」について紹介していきたい。

◆ 街並みから見るベトナムの昔と今

ハノイもホーチミンも所々に古い洋風建築が並んでいる。フランス統治時代に作られたもので、街の中では植民地時代の名残を伺うことができる。また、ベトナム戦争から40年ほど経った今、急速な経済成長により街の至る所で建設工事が行われ、街には人々が楽しく暮らしている様子が広がり、戦争の爪痕は街にはほとんど見られないように思える。しかし、ベトナムの街にはまだベトナム戦争の影響が残っている。海外からの投資を誘致する上での課題として、タイなどの他の東南アジア諸国よりもインフラ整備が遅れている点あげられるが、これはベトナム戦争時にインフラが破壊され、その復興に時間がかかったことが原因の一つである。

ベトナムでは現在、社会主義型市場経済がとられているが、ある方曰く「緩い社会主義」だそうだ。思っていたほど資本主義国との差が顕著ではなかったが、街の看板や大学や国が関わっている企業の事務所には必ずと言っていいほどホーチミンの肖像画や胸像があり、そして何よりFacebookが検閲によりつながりにくいといったことは、社会主義国ならではの事情だ。

◆ ベトナムの衣食住

ベトナムの伝統衣装アオザイは、現在では日常生活できている人はほとんど見かけず、レストランや観光地などでしか着ている人の姿を見ることはできなかった。一方、あの三角の帽子ノンラーをかぶっている人はたくさんいた。天秤棒を担いで

個人レポート

果物や野菜を売っている人だけでなく、バイクに乗っている人まで被っており、街を散策しているときにあの帽子を被っている人たちを見かけたときは「ベトナムに来た！」という実感がわいた。ベトナム人は日本人が白米を食べるように、毎日フォーを食べている。私たちが研修中に食事をとったようなレストランはあまり現地の人は利用せず、小さな店でプラスチック製の小さな椅子に座って食事をするそうだ。住居は間口が狭く、国旗を掲げているものが多かった。ガイドさん曰く、ベトナムのものは米も人も家も何でも細長いとのことだ。

◆ 山積みの課題

ベトナムにはたくさんの課題が残されている。インフラの未整理、不払い問題、仕事に対する姿勢、格差など。ベトナム人は政府も含めて、問題を先延ばしにしてしまう傾向があると、訪問先の方がおっしゃっていた。また、滞在中、金銭に対する正確さの無さが現れた出来事もいくつかあった。このように、ベトナムには様々な規模の課題が残されている。しかし、如水会の方曰く、「最後には何とかする」のがベトナムだそうだ。

◆ 親日国ベトナム—日本の存在感—

日本はベトナム人の最も好きな国の一つに挙げられている。ガイドさんは戦争をしたことがないという点が好きな国の基準の一つだとおっしゃっていた。ベトナムの歴史を振り返ると、他国から侵略を受けたり戦争をしたりしているイメージがある。研修を通して強く感じたことは、ベトナム人の日本に対する強い憧れである。ベトナム人の必需品であるバイクのシェアはほとんどが日本企業であり、家電製品をはじめとする多くの生活必需品で日本製品が見られる。ベトナムでは日常生活で「日本」を感じる場面が多く、ベトナムにとって日本の存在感はとても大きい。(実は、ベトナム人の日本に対する憧れはベトナム戦争の時代には既に存在している。)また、外交上でも日本とベトナムは協力すべき関係である。このようにベトナムと日本はどの側面をとっても友好的な関係なのである。

日本では経済が停滞しているためか、諦めの風潮が広まっているように思える。ベトナムで働く日本企業の方の誇りやベトナム人の期待を知ると、日本はもっと前向きになり、その誇りや期待に応え続ける必要があると感じた。

素晴らしいメンバーと共に貴重な体験ができ、この研修はとても楽しく、有意義なものだった。このような機会を私たちに設けてくださったすべての方々に感謝したいと思う。

初めてのアジア

経済学部3年 堀部智靖

今回の研修ではたくさんのことを学びました。実際に現地に行くことでアジアの成長を肌で感じ、将来に向けてとても素晴らしい経験をすることができました。この経験を忘れないようにするため、今回の研修をこの場を借りて振り返ってみたいと思います。

<準備期間>

現地にいたのは一週間でしたが、準備期間は四か月ありました。主な作業は、財政大学でのプレゼンの準備、訪問する企業・機関への質問事項の作成です。あれほど長いプレゼンを、しかも英語で作ったことがなかったので大変でしたが、ベトナムについて深く調べることができました。また私は企業連絡係であり、訪問する日系企業の方や一橋大学の先輩方と連絡を取る係でした。言葉遣いなど、大変なところもありましたが、よい経験ができました。

<現地で感じたこと>

研修に行く前のアジア全体の印象は、食事に癖があり、店や道路は、きれいではない、という悪い印象だったので、日系企業の方に対して、ベトナムで働くのはつらくないのか、日本に帰りたくないのか、とっていました。けれど実際には、治安はよく、食事もおいしく、道路もしっかり整備されていて、物価も安く、高層ビルも建っていました。今回の研修で日系企業や国際機関の方、一橋大学の先輩方や財政大学の学生などたくさんの方にお会いすることができました。お会いする中で、みなさん楽しそうに仕事をしているという印象を受けました。ベトナムの学生は日本の学生とは違う力強さを持っていて、一橋大学の先輩方もとても楽しそうに仕事の話をしてくれました。日本で働くのではなく、海外に飛び出して働くことで難しいがやりがいのある仕事ができるのではないかと思いました。私は今までアジアのことを軽く見ていたように思います。新聞でも気になる話題は欧米ばかりで、アジアの話題には関心がありませんでした。けれど今は、新聞を読む時、アジアの話題を探すようになりました。日本は成熟して、成長が止まっています。それに対して確実にアジアは成長しています。中国がアメリカを抜き、GDP1位になる日も近い

個人レポート

です。アメリカはアジアの動向に目を配り、積極的に関わっています。日本はアジアの一員であり、現在はもっとも成熟している国だと思います。日本が、アジアの国々に、官民で協力しどんどん進出し、引っ張っていく存在にならなければならないのです。そのためにもアジアでなにが起こっているのか常に気を配り、今回の研修でお会いできた方のように、アジアで活躍できるような人材になるために、勉強していかなければならないと感じました。

<将来に向けて>

将来、私は海外で働いてみたいとずっと思っていました。ただ、どこで、何を、という具体的なビジョンを持っていませんでした。今回の研修を通じて、自分はアジア人の一員であると意識し、またアジアには日本の影響が強く出ていると感じました。私は中学の時、家族とイギリスへ旅行したのですが、日本を感じることはありませんでした。もちろんたくさんの日本企業が進出していますが、やはり日本とは違う異国の地、というイメージでした。けれど、ベトナムでは、ホンダやヤマハのオートバイを現地のほとんどの人が使い、日本政府が支援して、日本の企業が道路を整備し、鉄道を作っています。あらゆるところに日本が強く影響していて、これからも影響し続けなければならない、と感じました。将来どのような仕事をするかはわかりませんが、アジアと日本をつなぐ架け橋のような仕事をしてみたいと強く思うようになりました。

<まとめ>

今回の研修でたくさんのことを経験できました。アジアの成長を肌で感じ、それに日本の力が生かされていることを感じ嬉しく思いました。現在、日本には、将来に対する希望がないように思えます。政治は安定せず、経済は低迷しています。日本はこのままで大丈夫か、多くの人がそのように思っています。けれど、アジアの新興国には将来に対する希望が満ちあふれていると思います。だからといって、新興国ですべてがうまくいくとは限りません。たくさんの苦労があると思います。けれど、日本とは比べ物にならないような、たくさんのチャンスやわくわくするような仕事が満ちあふれていると思います。今回の研修を通じてアジアの希望を実感し、自分もアジア人の一員であることに喜びを感じました。

最後に、このようなすばらしい機会を与えてくれたすべての人に感謝したいです。ありがとうございました。

ベトナム研修を経て

経済学部 4年 屋野巧磨

プログラムを終えて「将来途上国で働きたい」という思いを一層強くしている。国際機関、政府機関、民間企業、協力隊、それぞれの目的やその分野は異なるが、どの方も生き活きと仕事をされていたのが印象的だった。途上国の現場で多くの困難に見舞われながらも、それぞれがベトナムの未来を描き話される姿にひきつけられた。こんな風に働きたい、率直にそう思った。

私はプログラム開始以前に大学を1年間休学し、バックパッカーとしてアジアやアフリカなど世界の途上国を遊学した経験があり、ベトナムにも1度訪れたことがあった。滞在中に私が交流できたのは、街かどの商人や農村の家族、スラムの住人など途上国で暮らす庶民の人たちであった。交流を通じて現地の生活レベルや宗教、文化の違いを垣間見ることはできたが、その国の政府機関や国際機関、大手企業に勤める人の意見を窺う機会は持てなかった。今回プログラムに参加した理由は、現地でリーダーシップをとって働く日本人やベトナム人の方々とお会いすることで、途上国の現状をもっと多面的に捉えたいと考えたからだ。今後ベトナム経済はどう展望するのか、途上国で働くにはどんな職業の選択があるのか、近年チャイナリスクの見直しとともに、アジアでのプレゼンスを着実に高めつつあるベトナムという国を訪問できることに魅力を感じていた。

以下、学生の私が今回の滞在で感じたことを述べようと思う。

○事前準備の重要性

1週間ほどの短い日程だったが、充実していた。それは訪問先での活動が刺激的だったこともあるが、重ねて約3ヵ月間の準備期間でベトナム経済について理解を深めていたことが現地の研修をより有意義にした。目的意識を強く持って海外を訪れることで、同じ街の風景からも多くの発見があった。「行ってみないとわからない」という言葉があるが、「ただ行っただけではわからないこともある」そう痛感した。

個人レポート

○等身大のベトナム

ASEAN といっても、ベトナムの 1 人当たり GDP は 1500 米ドルに届いておらず、マレーシアやタイとはまだまだ大きな隔りがある。安価で豊富な労働力、1 億人に迫る人口、魅力的な国であるのは間違いないが、そのカントリーリスクは多い。曖昧な法律、不当な賃上げ要求、インフラ整備の遅れ、不安定な金融施策、政府の支払いの滞り、華僑とは異なるビジネス文化、各訪問先でベトナムの問題点や独自性を教えてもらった。実体験に基づく話は、教科書で学ぶよりも強烈だった。途上国で仕事をするには、その国の実情を的確に捉えなければいけないと感じた。

○国際援助、ボランティアに関して

世の大学生が東京のホームレスには目もくれず、アジアやアフリカでボランティアに汗を流すのはなぜか、漠然と抱いていた疑問への答えが今回のプログラムで少しわかった。その理由は今の学生が日本の将来に魅力を感じていないからだ。メディアからは日本の未来を危ぶむニュースが毎日発せられている。逆に途上国は投資の拡大や高い経済成長、前向きなニュースが目につく。学生が海外に目を向けるのは必然かも知れない。貧困問題も同じではないだろうか。誤解を恐れずに言えば、途上国の貧困には未来があって、日本の貧困には未来がない。ゆっくりと沈み始めた日本経済とともに日本の貧困は今後ますます解決しがたくなり、反対に途上国の貧困は方法次第で将来的に大きく改善できることを学生は無意識に感じ取っているのだと思う。

私たちは失われた 20 年を生きてきたわけが、私はこの時代に生まれてよかったと思う。かつてここまで世界と繋がった時代があっただろうか。自分次第でいくらでも世界と近づける、そう再認識した 1 週間だった。今回の経験は私の将来を決心する特別な機会になった。いつの日か、駐在先で日本の学生に熱く語れる日がくればと願う。

ベトナムで印象に残った言葉から今回の研修を振り返る。

経済学部2年 山本彩加

今回の研修では多くの方にお会いした。例えば、企業訪問であつたりベトナム如水会との会食であつたり、現地のベトナム人学生であつたりと多くの出会いがあつた。そのなかで印象に残った言葉を紹介し、今回のレポートとしたい。

・早く帰らないとかみさんに怒られる。

如水会ホーチミン支部との会食で、私の隣にいたパナソニック勤務の方の発言。実は奥さんがベトナム人で、実生活をお聞きすると奥さんが怖いとおっしゃっていた。今回の旅で何回もベトナムの女性は強くたくましいという話を伺ったが、この言葉は如実にそれを表していて、とても興味深いと思った。でも、日本も少し似ているところはあるかもしれない。

・ホーチミン人が嫌いなのは一位に中国、二位にハノイ。

これもホーチミン支部の方の一言。まず、対中国についてだが、ベトナムも日本同様に中国との領土問題があり、反中暴動も頻繁に起きている。全体の印象としても日本や欧米からの観光客は多く見かけたが、中国人は見かけなかった。一方で、比較的親日派のベトナム人は多いらしい。(良かったー!!) 次に対ハノイであるが、ベトナムは日本のように細長い形をしており、面積もほぼ等しい。(ベトナムの形が思い出せない人は日本を想像してほしい。) 北はハノイ、南にはホーチミンが位置しているのだが、(両者は日本でいうところの関東と関西だと思われる)お互い開発が進んでいる都会であるからこそ、それぞれのプライドがあり、嫌い合うのだろうか??

・そのとき歴史が動いた。

ハノイの現地のガイドさんは日本語が上手で、長年日本に居住したこともあるそう。もちろんこのフレーズも日本で覚えてきたみたいでバスの中で持ちネタのように繰り返し、私たちを笑わせてくれた。バスのなかではいつも盛り上げてくださり、今回のベトナム研修が楽しかったのは一つにガイドさんのおかげでもある。本日にチャタリングで、ときにKYな行動をとったガイドさんと一緒にいる時間は短かったけれども、今でもこのフレーズを聞くとあのガイドさんの顔が浮かぶ。

個人レポート

・私のバイク乗ってみる?

ここでもう一人忘れてはいけないのは、一橋大学の大学院に在学中のベトナム人留学生のニユンさん。ニユンさんの旦那さんは外務省勤務、実家もハノイの良いところにある富裕層の方。この研修では通訳からお土産の相談までいつも助けて下さった。たしかヤマハの工場見学でのこと。工場でバイクの製造過程を見せていただき、バイクに触れたこともない私は無知だったため、ニユンさんが詳しくバイクの部品の説明をしてくださった。そういえば、ベトナムではバイクが交通手段として主流であり、女性であってもバイクに乗るのは普通のことである。ニユンさんも同様にバイクを持っているのだが、軽く「私のバイクのらない？」と誘ってくださった。結局時間がなくてバイクはのれなかったが、正直言うと、あの無秩序な道路でバイクに乗るなんて想像しただけでも怖い(笑)

・ベトナム首相の月収はたった二万円。でも高級車を何台も持っている。なぜか?

ベトナム首相は通常のお給料のほかに巨額の別収入があるらしい。この言葉は如水会ホーチミン支部との会食で一番印象に残った言葉。一橋大学卒業した先輩で今は三菱東京 UFJ 銀行のベトナム支店長(記憶があいまいなので少し自信ない。)をされている方が、ベトナムの格差社会と裏社会を揶揄しての一言である。まだまだ奥が深い…ベトナムである。

・You like fruits?

これはベトナム財政大学とのランチのときに隣に座っていたベトナム人の男の子の一言。彼はびっくりするほどのジェントルマン!!しかもイケメン!!かなり気を遣ってくれて、フルーツを取りに行くにも一緒についてきてくれた。(もう感激!!) ベトナム人は男女問わず積極的に話かけてくれて、人見知りの私でもすぐに仲良くなれた。交流は半日程度だったのだが、かなり有意義に過ごせた。(欲を言えば、イケメンの彼ともっと交流したかったー!) あと、会話についてだが、ベトナム人の英語は癖のあるアクセントで少し聞きづらかったのだが、特に困ったことはなかった。(英語はやはり世界共通語と痛感。)

こんな感じでかなり私らしい個人レポートとなったが、本当にベトナム研修は楽しかった。メンバーにも恵まれ、多くの体験ができ、大満足! 自分でも気づかないうちにベトナムにはまってしまったようだ。将来はベトナムで一人旅をして、より一層開発が進んだベトナムも見るのが、楽しみだ。

ベトナムの思い出

1・2日目



出発——!!!いざ、ベトナムへ!



ドンスワン市場にて



中華料理 (in ハノイ)



世界銀行の図書館。本がたくさん!!



ハノイにはおしゃれな建物がたくさん!



ヴィンコム・シティ・タワーズ

3日目

タンロン工業団地内
日本食レストラン
“ほたる食堂”



ベトナムの日本食



ハノイ都心部の景色



デザートのドラゴンフルーツ!!



4日目

早起きしてホーチミン廟に行きました



ドンラム村にて



ベトナム版フランス料理！
おしゃれな店でした



5 日目



左はハノイ財政大学
での発表の様子。
下は交流の様子。



交流後飛行機に乗ってホーチミンへ…

おいしいご飯や夜景を堪能!!



6 日目

再開発地区を背に謎のポーズを決めるの図。



笑顔がまぶしい。



午後の下水処理場見学。

如水会のみなさんとの懇親会。
料理にも舌鼓を打つ。



7日目

小田島先生
満面の笑み



市場のお姉さんと ♥



日本人観光客の写真を撮る

カメラマン **ISHIZUKA**

Column 突撃レポート！～高級 Bar 体験@ホーチミン～

星をいくつも持ったホテルや世界的な有名ブランドの店が軒を連ね、バブリーな雰囲気を醸し出すホーチミンシティ。旅行ガイドを見ると、そこにはお洒落な Bar 特集。ホテルの高層階でお洒落なお酒を飲みながら、美しい夜景を眺める……。こんなこと、平凡な一大学生が日本で出来るはずがない。しかし、ここは物価の安いベトナム！ここでなら一夜の夢を見られるかもしれない！というわけで行ってみた。みんな来てくれなかったのが、男二人で行った。



シェラトンホテル到着。いかにも高級ホテルっぽい入り口である気がしなくもない。



目的の Bar はシェラトンホテルの 23 階にある。ご覧いただけるだろうか。この高級感漂うエレベーターを。何か偉大なものが現れそうだ。足の震えを抑えつつ、23 階へと向かう。

→次ページへ続く

宿泊しているホテルを出て、徒歩数分の場所にあるシェラトンホテルへ。途中、いかにも危なそうな店の人に「オンナノコ 1 ドル」と客引きされる。腕をつかまれたりするのとても怖い。ハノイでは夜遅くでも子供が外で遊んでいたのに、ホーチミンの夜は危険だ。



シェラトンホテルは文句なしの 5 つ ☆ ホテルである。庶民である私にとっては、ロビーに入ることすら恐れ多い場所である。





エレベーターが 23 階に到着した。なんてスタイリッシュな入口なのだろう。名前は“Level 23”この Bar がレベル 23 なら私はレベル 3 くらいだろう。ここは私が足を踏み入れてはいけない場所な気がする。しかし、ここで引き返しては男が廃る！自分に喝をいれ、店内へと向かった。

と、ここまで引っ張って見たものの、店内は割りとラフで、お洒落なカフェ&バーといった感じであった。しかし、油断していたところで店内にいたアジア人(ベトナム人かはわからない)の酔っ払いに高めのテンションで話しかけられ、あたふたしてしまった。



今夜くらい贅沢しようぜっ！ということでスペシャル・カクテルを注文。注文したのは“Moon Walker”と“Coco Rumba”。とりあえず名前の響きで決めた。まさにスペシャルな様子のカクテルであった。カクテルにしては量が多く、店内の雰囲気も相まってだいぶ酔ってしまった。このような状態で日本人はぼったくられていくのだろう。



とはいってもここは5つ星ホテルの Bar。ぼったくられるはずなどない(多分)。お会計は2人で一杯ずつ飲んで 64 万 VND(3000 円くらい)。正直な話、これが高いのか安いのかもわからないが、夜景がべらぼうに綺麗だったので、安いだろう。しかし、帰り道に男二人という現実に泣きそうになった。

こんな事に 2 ページ使ってごめんなさい。



Column ホーチミン市内レポート

旅行5日目の夜にホーチミンに着いた。ハノイでは旧市街辺りに宿泊していたせいもあるが、ホーチミンはハノイに比べて非常に発展している印象を持った。ここでは、ホーチミン市内を視察していて気に止まった点についていくつか報告したい。

○町並み

やはりバイクの量はものすごい。一方で、ハノイと比べると4輪自動車の数も多かった。道も比較的整備されており、信号などもあったが、やはり道の横断は難しい。建物を見てみると、日本にあってもびっくりするような超高層ビルをいくつも見かけた。また、夜の街では風俗の客引きなどもあり、ハノイとは異なり危なさを感じた。



○あの店、この店

写真にあるルイ・ヴィトンやブルガリなど有名ブランドショップが立ち並んでいた。また、ケンタッキーや31 アイスクリームといった日本人にも馴染みの深いチェーン店を多く見かけた。このような店が多く並ぶ光景を見ると、日本と大差ないようにも思えてくる。

○コンビニ

ホーチミン市内では多くのコンビニが見かけた。中でも、日本でもおなじみのサークルKを良く見たように思う。商品としては、飲み物やお菓子を中心にインスタントのフォーなどが置いてある。日用品もあり便利。なお、日本から出店しているコンビニとして、ミニストップを見かけた。ファミリーマートも出店しているようである。写真はサークルKで買った飲み物。微妙な味。右の飲み物の名前は KOKOZO(ここぞ)であり、ネーミングが謎である。



Column ベトナム土産の紹介

今回の短期研修では驚くほどスケジュールが詰まっており、観光する時間は十分ではなかったのですが、僕たちは折りを見てお土産を購入しに商店街・スーパーに繰り出しました!お土産を買う場所としてはハノイの旧市街、ホーチミン・ベントイン市場が挙げられるのですが、現地のベトナム人は日本人観光客を目当てに値段を高め設定しています。いかにこちら側有利に値切り交渉するかがポイントです。ベトナム経験が豊富な小田島先生は、「値段の10分の1から交渉をスタートするほうが良いよ」と言ってベントイン市場で見本を見せてくれたのですが、お姉ちゃんに怒られていました。

おすすめは現地の大型スーパーマーケットに行くこと。大型スーパーではお菓子や食料、日用品を日本より格安で買えます。

【食料編】

- VODKA HANOI(ウォッカハノイ)

お酒が好きなゼミに所属する筆者が小田島先生に勧められて購入したのがこのウォッカ。クセが無く、アルコール度数も適当なので飲みやすかったです。



- ベトナムビール(バーバーバー)



ベトナムのご当地ビールを購入。ベトナムで70%以上のシェアを誇る人気 No.1 ビールらしいです。また、ベトナムで数字の3は西洋の7のように幸運な数字だそうです。値段は1缶8000ドンくらい(安い!)でした。東南アジアの暑さを吹き飛ばすためか若干苦めで、日本のビールに負けず劣らず美味しかったです。

- ベトナムコーヒー

これまたコーヒーにも目がない筆者が最も気に入ったお土産がベトナムコーヒー! グルメレポートでも触れましたが、ベトナムコーヒーは独特の甘み・苦味があります。このベトナムコーヒーを抽出するため



には専用のコーヒーフィルターを購入する必要があり、現地で買い忘れた筆者は吉祥寺のアジア雑貨屋店で購入(笑)。コンデンスミルクをカップの底に敷き、専用フィルターを装着して10分ほどすれば完全に抽出されます。底のコンデンスミルクをよくかき混ぜて飲みます。

- 茶菓子

ベトナムに精通する小田島先生・ニュンさんの勧めにより、私たちが大量購入したのがこのお菓子である。正式名称は **Banh dau xanh** (バイン・ダウ・サイン) という。日本円にして150円ほどなのだが、お土産として安く見えず、先生やニュンさんはベトナムに来た際は必ず日本へのお土産として購入するそう。気になるお味は、素朴な優しい味わいで、日本茶とよく合いました。筆者も友達や親戚向けに大量購入して多いに喜ばれました。



- フォー

筆者は大型スーパーマーケットで家族用に大量に購入しました。インスタントラーメンの形式でお湯を注いで3分待てば、滞在中にこれでもかというほどいただいたフォーの出来上がりである。お湯を注いで3分待つという形式は世界共通で、難解なベトナム語で表記されても簡単に理解できた。1つ5000ドン、約25円という破格の安さ。味も満足!



- ハス茶

ハスの花はベトナムの国花。したがってハスの実が野菜炒めやデザートに使われるなど、ハスを使った料理が多く、現地のレストランでも口にすることが多かったです。味は少し苦く、香りが独特。このハスのお茶はベトナム王宮の伝統的な健康茶らしいです。これもニュンさんのおすすめだったような。値段もお茶としてはお手頃。

【小物編】

- 手芸品

ベトナム土産の代表的なお土産のひとつ。ベトナム人は手先が器用であり、刺繍をほどこした手芸品が代表的なお土産となっています。財布、手提げ袋、ティッシュケース、小物入れ等ど

れもかわいくて女の子向けのお土産にぴったり!

手芸品はどれも安く、ありとあらゆるところで売られているのですが、筆者のおすすめは雑貨屋「nagu」。ハノイとホーチミンに店を構える日本人デザイナーによる雑貨専門店。値段は若干高めですが、質とデザインの良さは別格。筆者はノンラーをかぶったかわいいテディベアの人形とティッシュケースを友達のお土産として買いました♪



- 帽子(ノンラー)



ベトナムの伝統的な△形の笠帽子。ベトナム土産の代表選手的存在。日よけの役割が最大の用途であるが、多少の雨を避けることもできるらしいです。ドンラム村でおばあちゃんから購入しました。案外お似合いです。

- アオザイ

抜群のスタイルを誇る我がゼミテン・エミリーはアオザイをベンタイン市場にて購入。アオザイはベトナム女性の伝統的な民族衣装。本人の希望により着ている姿は公開してくれなかったけど、写真だけ公開します。ちなみに33万ドン(日本円で約1700円)。

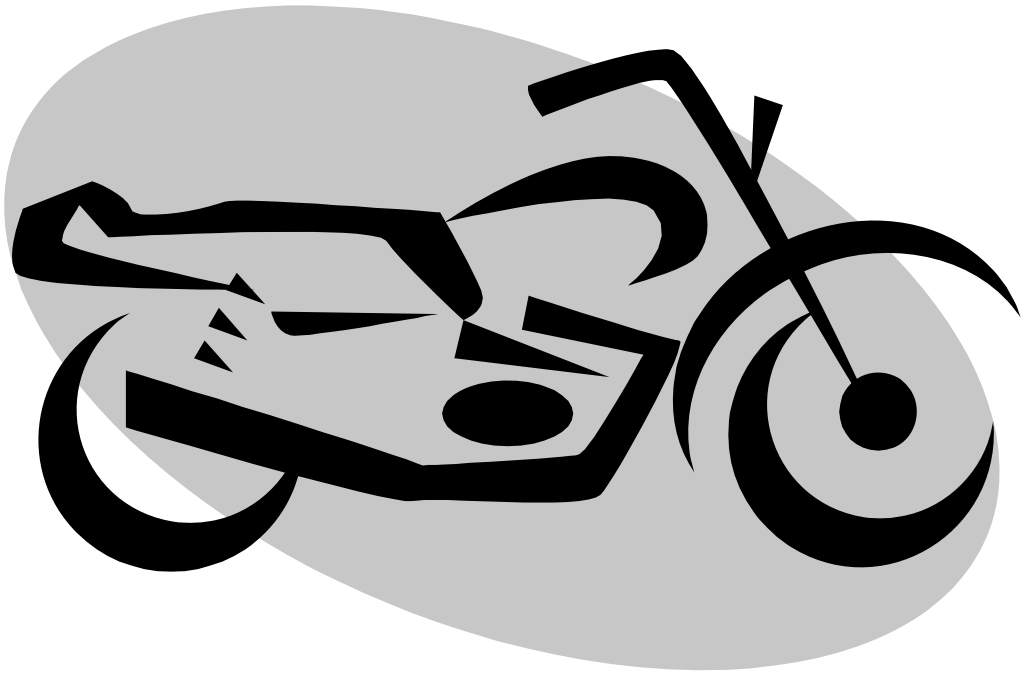


- 漆器



ベトナムでも漆器が有名らしいです。いろんな漆器製品があったが、特にこの小物入れがよく売っていました。ベンタイン市場で、8万ドン(日本円で約400円)で購入。値切りの時、元は25万ドン(1200円)だと言われましたが、休憩のときに立ち寄った(ハノイ)高級ホテルのお土産コーナーでは、もともと8~10万ドンで売っていました。蓋と入れ物の模様が大きざれていました。漆器なので、高級そうに見えます。ピンクや緑、赤色が多かったです。

V 部



おわりに

- おわりに
- 編集後記

おわりに

本プログラムを終え、思うこと。それは“出会い”の力である。私は本プログラムを通して、本当に多くの出会いを得た。共に調査に励んだメンバー、お世話になった先生方、ベトナムで誇りを胸に働く方々、歓迎してくれたハノイ財政大学の学生たちとの出会い。もちろん、人との出会いだけではない。ベトナムの蒸れた空気、道の渡りにくさ、パクチーの独特すぎる風味、などにも私は出会った。一つ一つは些細なものかもしれないが、どれも私の胸に色濃く焼きつき、今日の私の一部を形成している。

出会いは新たな経験を生む。

出会いは新たな価値観を生む。

出会いは新たな絆を生む。

そして、出会いは新たな出会いを生む。

人生とは、今までも、これからもこうした出会いの連続なのであろう。一方で、本プログラムで得た出会いは、私にとって日常では得ることの出来なかった特別なものである。このような素晴らしい出会いの機会を与えてくださった全ての方々に、限りないほどの感謝を申し上げる。本プログラムで得た出会いを、そしてこの度の出会いが導いてくれるであろう新たな出会いの一つ一つを大切に、これからを歩んでいきたい。

副幹事 岩田典久

編集後記

ベトナムから帰国後まもなく、報告書作成が始まりました。数ヶ月にわたる事前研修で準備をして臨んだ現地調査は、私たちにとって大変有意義なものとなりました。そして、現地で見聞きして知ったこと・感じたことを報告書という形にまとめることで初めて、ベトナム短期海外調査は完結するのだと思います。

報告書を作成している間に研修の記憶があせてしまわないか心配でしたが、十分に準備したこの研修は今でも鮮明に私たちの記憶に残っています。目的意識を持つことで、学習がより深くなることを実感しました。

研修中はさることながら、この報告書には多くの方にご協力していただきました。お忙しい中、寄稿して下さった先生方、遠く海の向こうから交流会の感想を送ってくれた財政大学の学生の皆さん、本当にありがとうございました。本プログラムの最後の年である4年目に、海外調査の一員として加わることができたこと、こうして皆で報告書を作成できたことを嬉しく思います。

この報告書にはベトナムの魅力がたくさん詰まっています。少しでもベトナムの素晴らしさを皆さんにお伝えできれば嬉しい限りです。そして、日本とベトナムの友好的な関係が末永く続くことを願って、報告書を書き終えたいと思います。

編集委員長 中川瑛



HITOTSUBASHI UNIVERSITY